

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-BG • User's Manual

オフィスシリーズ Type-BG

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。



ご使用前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

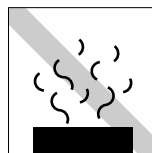
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



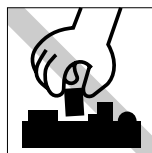
警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

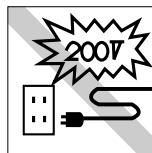
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスコールセンターまたはカスタマーサービスセンターにご相談ください。
お客様による修理は危険ですので絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



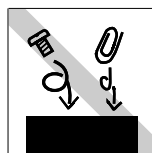
交流100Vの電源以外では使用しないでください。
指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



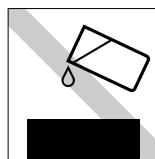
通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



⚠ 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスコールセンターまたはカスタマーサービスセンターにご相談ください。

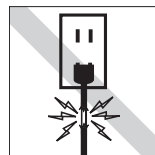


破損した電源コードは使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・ 電源コードを加工しない。
- ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・ 電源コードの上に重いものを載せない。
- ・ 熱器具の近くに配線しない。

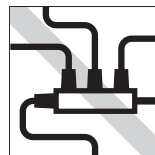
電源コードが破損したら、販売店、サービスコールセンターまたはカスタマーサービスセンターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。

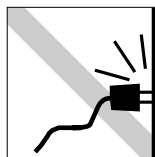


電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。
- ・ 電源プラグにホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。

電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。



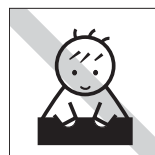
コンセントに電源プラグを差したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



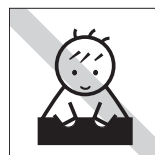
小さなお子様手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



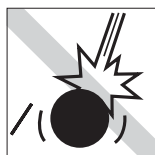
小さなお子様手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



マウスボールは絶対に投げないでください。

マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。



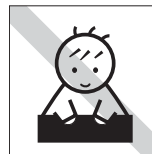
⚠ 警告

雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。
感電の原因となります。

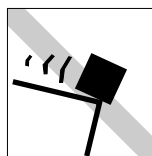


⚠ 注意

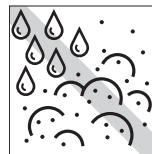
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

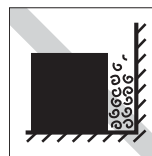


湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

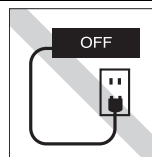


本機の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。

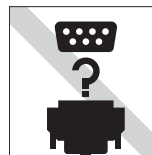
- ・ 押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。
- ・ じゅうたんや布団の上などに設置しない。
- ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

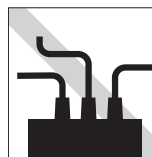


拡張ボードやメモリの取り付け・取り外し、内蔵リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化などは、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



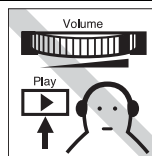
⚠ 注意

本機を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。

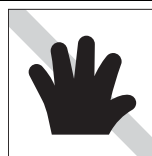
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



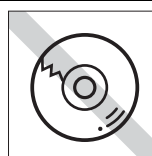
長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。



5.25型ドライブのディスクトレイに手を入れ、挟まれないようにしてください。
けがの原因になります。



5.25型ドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。
内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。





● 使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

● コンピュータの基本操作

キーボード、マウスや5.25型ドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

● システムの拡張

コンピュータにメモリや拡張ボードを装着して、機能を拡張する方法について説明します。

● BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

● ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

● こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

● 付録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化、仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について	12
製品保護上の注意	16
使用・保管時の注意	16
USB FDD (オプション)	17
記録メディア	17
マウス	19

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	22
コンピュータを使い始めるまでの手順	22
ご使用前の確認事項	23
システムの特長	24
添付されているソフトウェア	25

各部の名称と働き	27
本体前面	27
本体背面	28
FDD (オプション)	29
USB FDD (オプション)	29

コンピュータの設置	30
-----------	----

電源の入れ方とWindowsのセットアップ	40
Windowsが使用できるようになるまでの作業	40
電源を入れる前に	41
電源の入れ方とWindowsの起動	43
Windowsのセットアップ	44

セットアップ終了後の作業	48
Norton AntiVirus2004のインストール	48
ネットワークに接続する	48
その他の設定	48

Windows使用時の確認事項	49
2回目以降に電源を入れる	49
Windows Updateについて	50
省電力機能	50
音量の調節	51
デバイスドライバをインストールするときは	51
コントロールパネルの表示 (Windows XPのみ)	52
SBSIの実行について (Windows XPのみ)	52

電源の切り方	53
Windows XPの終了と電源の切り方	53
Windows 2000の終了と電源の切り方	54
再起動	55
ハングアップしたときは	55

コンピュータの基本操作

キーボードを使う	58
キーの種類と役割	58
文字を入力するには	59
日本語を入力するには	59
キーロック表示ランプ	60
その他のキー	60

マウスを使う	61
マウスの操作	61

FDDを使う (オプション)	62
FDのセットと取り出し	62
FDのフォーマット	64
データのバックアップ	65
ライトプロテクト (書き込み禁止)	65

USB FDDを使う(オプション)	66
USB FDDの接続	66
USB FDDの取り外し	67
FDのセットと取り出し	68

HDD(ハードディスクドライブ)を使う	70
データのバックアップ	70
購入時のHDD領域について	70

5.25型ドライブを使う	71
適応メディア	71
メディアのセットと取り出し	72
強制的なメディアの取り出し	75
メディアの種類	76
CDメディアの読み込み・再生	77
DVDメディアの読み込み・再生	77
メディアへの書き込み	78
B's Recorder GOLDの使い方	80

ディスプレイ機能を使う	81
使用できるディスプレイ	81
解像度や表示色を変更するには	84
表示できる解像度と表示色	85
表示装置に関する設定	86

サウンド機能を使う	88
外部オーディオ機器などの接続	89
音声の再生・録音	90

インターネットに接続するには	91
接続方法の選択(ナローバンドとブロードバンド) ...	91
プロバイダとの契約	92
インターネットを使う上での注意 ...	92

Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方	94
起動方法	94
終了方法	96
Internet Explorerの使い方	97
Outlook Expressの使い方	100

省電力機能を使う	106
省電力モードの種類	107
省電力モードを使用する前の確認事項 ...	108
実行方法	110
復帰方法	112
省電力機能を無効にする	112

ネットワーク機能を使う	113
おもな機能について	113
ネットワーク機能を無効にする ...	114

その他の機能	115
パラレルコネクタを使う	115
シリアルコネクタを使う	115
USBコネクタを使う	115
コンピュータウィルスの検索・駆除 ...	116
ハイパー・スレッディング機能(Windows XPのみ) ...	117

システムの拡張

拡張できる装置	120
---------	-----

作業時の注意	121
--------	-----

本体カバーの取り外し・取り付け	122
本体カバーの取り外し・取り付け ...	122

拡張ボードの装着	125
拡張スロットの仕様	125
拡張ボードの取り付け・取り外し	126

メモリの増設	130
メモリの仕様	130
メモリの取り付け・取り外し	132

BIOSの設定

BIOS の設定を始める前に	138
----------------	-----

BIOS Setupユーティリティの操作	139
BIOS Setupユーティリティの起動...	139
BIOS Setupユーティリティの操作...	140
設定値をもとに戻すには	142
BIOS Setupユーティリティの終了 ...	144

BIOS Setupユーティリティの設定項目	145
Mainメニュー画面	146
Advancedメニュー画面	148
Powerメニュー画面	150
Bootメニュー画面	151
Passwordの設定	153
Exitメニュー画面	155
BIOSの設定値	156

ソフトウェアの 再インストール

再インストールする前に必ずお読みください	160
再インストールが必要な場合	160
重要事項	160

ソフトウェアの再インストールを行う	162
必要なメディア	162
インストールの順番	163
インストール作業における確認事項...	164
Windows XPのインストール	166
Windows 2000のインストール	171
デバイスドライバのインストール...	172
Adobe Readerのインストール	173
Norton AntiVirus2004のインストール ...	174
各ソフトウェアのインストール	174
そのほかの作業	175

こんなときは

困ったときに	180
コンピュータ本体の不具合	180
省電力機能に関する不具合	184
キーボードの不具合	185
マウスの不具合	186
ディスプレイの不具合	187
FDD(オプション)・USB FDD(オプション)の不具合...	189
HDDの不具合	190
5.25型ドライブの不具合	192
アプリケーションソフトの不具合	196
メモリの不具合	197
インストール時の不具合	197
拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合 ...	199
プリンタの不具合	200
内蔵スピーカの不具合	200

警告メッセージが表示されたら	201
----------------	-----

付 録

お手入れ	204
本機のお手入れ.....	204
マウスのお手入れ.....	204
<hr/>	
HDD領域の作成	206
HDD領域の概要.....	206
HDD領域の作成手順.....	207
<hr/>	
リチウム電池の交換	211
<hr/>	
CMOS RAMの初期化	215
<hr/>	
外部スピーカを接続する際の設定	218
<hr/>	
機能仕様一覧	220
<hr/>	
用語集	221
<hr/>	
索 引	230

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例)『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。



説明文が次ページに続くことを示します。







参照先を示します。

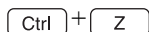




操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

 はEnterキーを表します。また、 は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。



十の前のキーを押したまま十の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータで使用する次の製品の名称をアルファベットで表記します。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書では、オペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

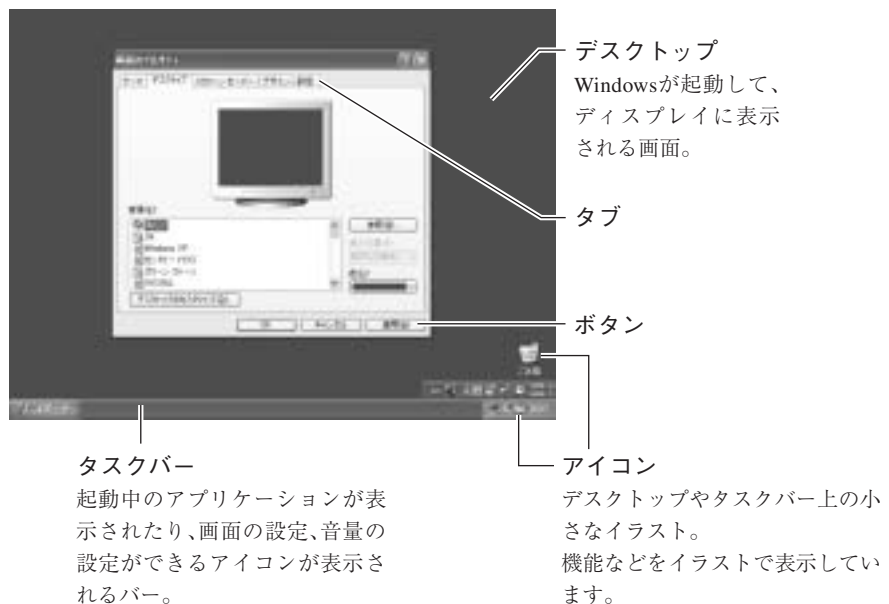
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
MS-DOS	Microsoft® MS-DOS® Operating system

HDD容量の記述



本書では、HDD容量を1KByte=1000Byteとして記載しています。

Windows XPの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタンは[]で囲んで記載します。

例  :[スタート]、 :[OK]

Windows XPの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows XP画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート]―[すべてのプログラム]―[Internet Explorer]をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート]をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

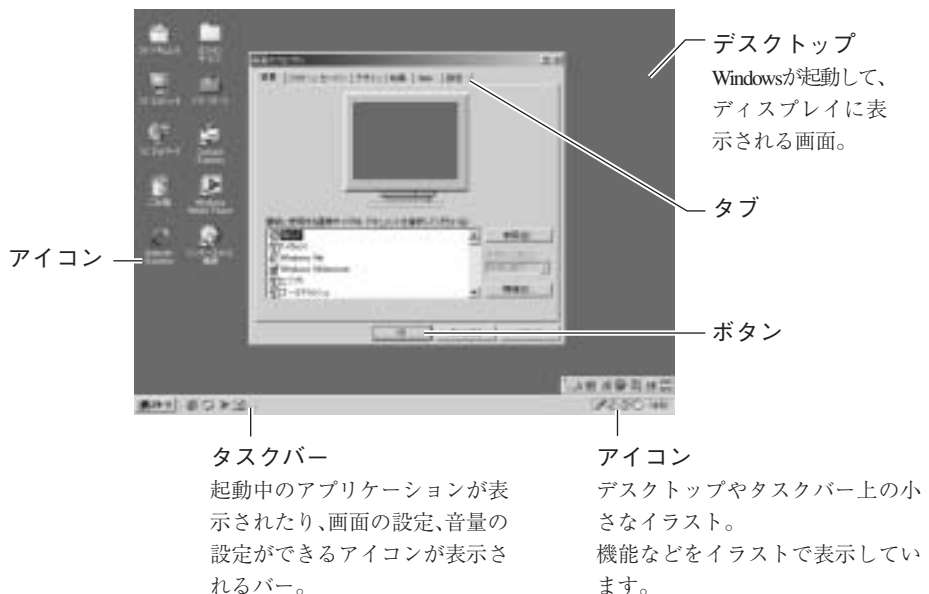


Windows 2000の画面表示に関する記載方法



本書では、Windows 2000画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

ただし、マニュアル中で使用している画面は、おもにWindows XPのものです。

Windows 2000で表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。



ボタンは、[]で囲んで記載します。

例  スタート : [スタート]、 : [OK]

Windows 2000の画面操作に関する記載方法

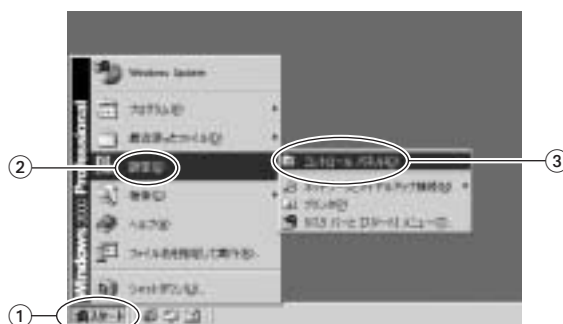
本書では、Windows 2000画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート]―[設定]―[コントロールパネル]をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート]をクリックします。

② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

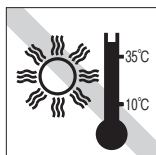
③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。



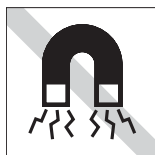
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

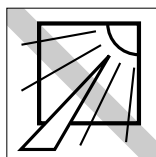
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。



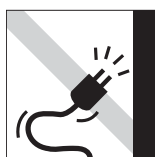
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破損することがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



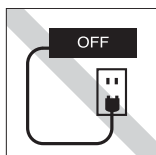
電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



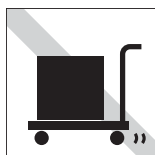
本機の上には重い物を載せないでください(本機が横置きの場合は、18kgまでのディスプレイを載せることができます)。重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。汚れは、中性洗剤を滴らない程度に染み込ませたやわらかい布で、軽く拭き取ってください。



コンセントに電源プラグを差したまま、本体カバーを外して作業をしないでください。電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



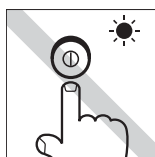
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器(HDD、5.25型ドライブなど)も含めて、故障、誤動作の原因となります。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



輸送や保管をするときは、メディア(FD、CD-ROMなど)をセットしたままにしないでください。メディアは取り出し、配線ケーブルはすべて外してください。



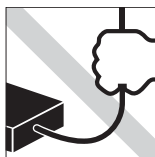
HDDやFDD、5.25型ドライブのアクセスランプ点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、再起動しないでください。

▶ USB FDD(オプション)

オプションのUSB FDDを使用するときは、次の注意事項を必ず守って、正しく取り扱ってください。



落したり、衝撃を与えないください。
故障、誤動作の原因になります。



着脱はプラグ部分を持って行ってください。ケーブルを持ってコネクタの着脱を行わないでください。
ケーブルの断線や接触不良の原因になります。



上に物を置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



FDD本体をぶらさげた状態で保持することは避けてください。
ケーブルの断線や接触不良の原因になります。



表面を上にして水平に置いて使用してください。裏返しや傾けて使うとエラー発生の原因になります。

▶ 記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破損するおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

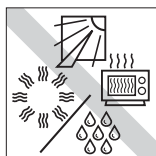
● FD

FD

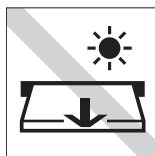
● CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど

CD

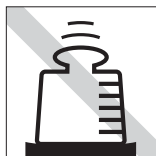
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



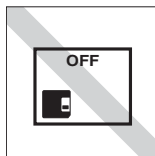
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



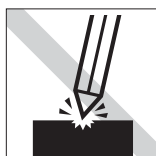
FDDや5.25型ドライブのアクセスランプ点灯/点滅中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、再起動しないでください。



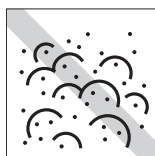
上に物を載せないでください。



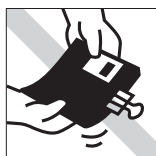
使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。



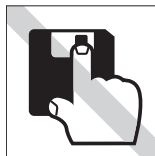
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。



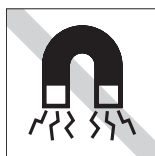
クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



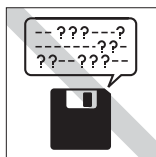
アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。**FD**



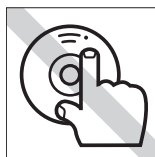
磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。**FD**



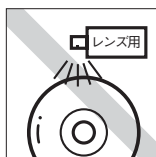
テレビやラジオ、磁石など、磁界が発生するものに近づけないでください。**FD**



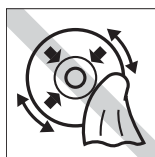
何度も読み書きしたFDは使わないでください。磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。**FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。**CD**



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。**CD**



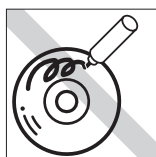
レコードのように回転させて拭かないでください。CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。**CD**



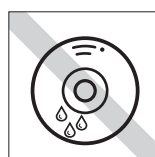
5.25型ドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。**CD**



CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。**CD**



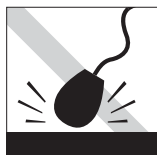
信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。**CD**



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する場合があります。**CD**

▶ マウス

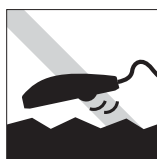
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



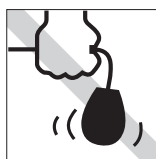
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



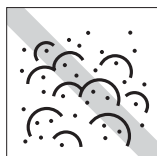
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところで使用したり保管したりしないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。



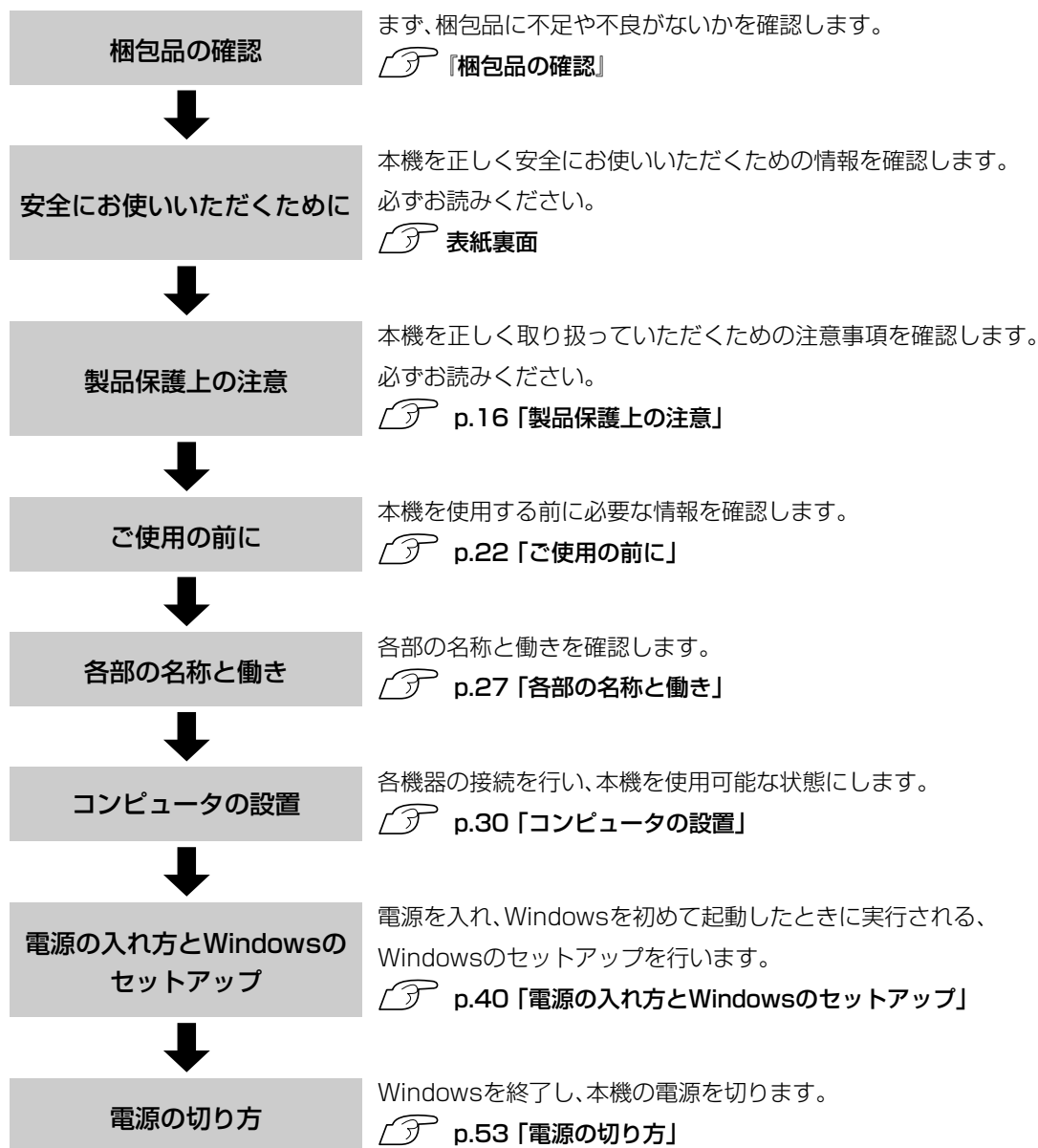
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用の前に

▶ コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



▶ ご使用前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

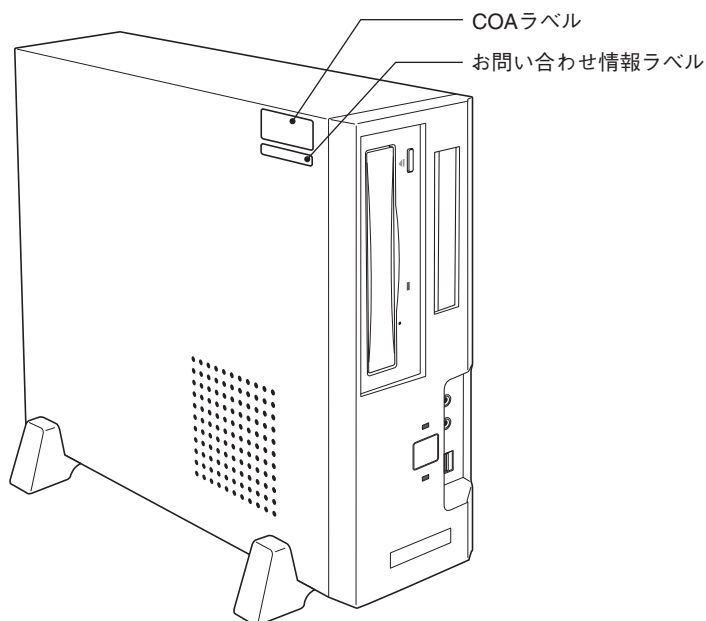
● お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』をお読みください。

● COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindowsを購入されたことを証明するラベルです。絶対にはがさないでください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



▶ システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。

CPU性能

インテルPentium 4プロセッサまたはインテルCeleronプロセッサを搭載しています。

メモリ容量

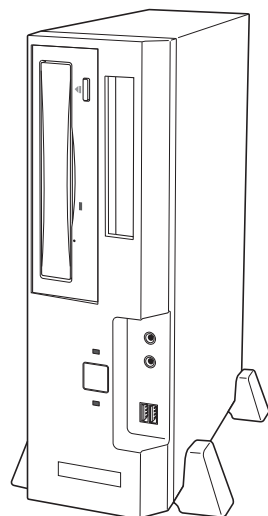
メモリを増設して、最大2GBまで搭載可能です。

拡張スロット

PCIスロット2本を装備しています。

その他

- ・ LANコネクタを装備しています。
- ・ スピーカを内蔵しています。
- ・ 前面にマイク入力コネクタとヘッドフォン出力コネクタを装備しています。
- ・ USB2.0対応のUSBコネクタを前面に2個、背面に2個装備しています。



画面表示機能

ディスプレイ機能をメインボード上に搭載しています。

サウンド機能

サウンド機能をメインボード上に搭載しています。

オペレーティングシステム

Windows XP、またはWindows 2000をインストール済みです。

▶ 添付されているソフトウェア

本機に添付のCDに登録されているソフトウェアは次のとおりです。CDはソフトウェアの再インストールの際に使用します。

表中記号の見方



:購入時にHDDにインストールされています。



:購入時にはインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

▶ リカバリCD

Windowsの再インストールの際に使用します。

登録されているソフトウェア	Windows XP	Windows 2000
● Windows Windowsは、最新のものが登録されています。		※

※Windows 2000のリカバリCDは添付されていません。





▶ ドライバCD

デバイスドライバ、ソフトウェアの再インストールの際に使用します。

登録されているソフトウェア	Windows XP	Windows 2000
● Intel865GVチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを正常に使用できるようにするためのドライバです。		
● ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。		
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音したりするためのデバイスドライバです。		
● ネットワークドライバ メインボード上のネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。		
● Norton AntiVirus2004 最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。		
● Adobe Reader PDF (Portable Document Format)形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。		
● DirectX9b ゲームなどのマルチメディアアプリケーションを快適に使用するためのソフトウェアです。		

▶ 専用のCD

ソフトウェアの再インストールの際に使用します。

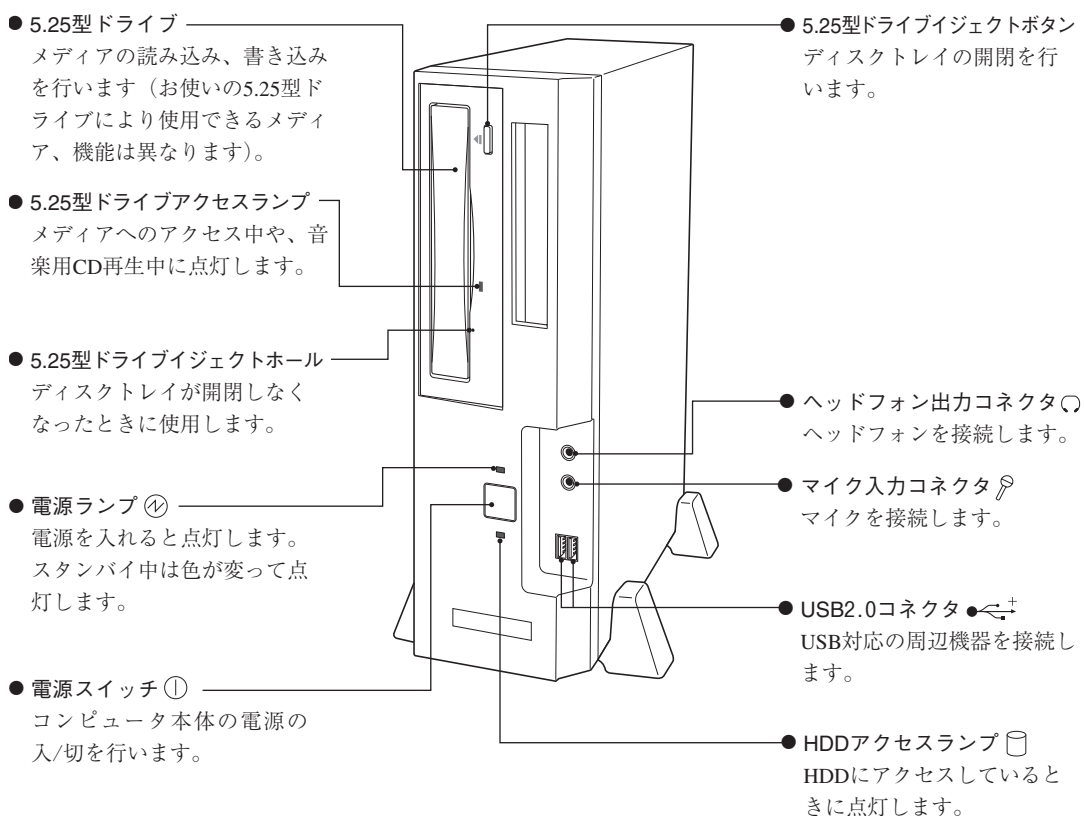
登録されているソフトウェア	Windows XP	Windows 2000
● B's Recorder GOLD (CD-ROMドライブの場合、添付されていません。) 5.25 型ドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。データ、音楽、画像などのメディアへの書き込みや、メディアのコピーもできます。 CD名:「B's Recorder GOLD CD-ROM」		
● Win DVD (CD-ROMドライブの場合、添付されていません。) DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。 CD名:「Win DVD CD-ROM」		

各部の名称と働き

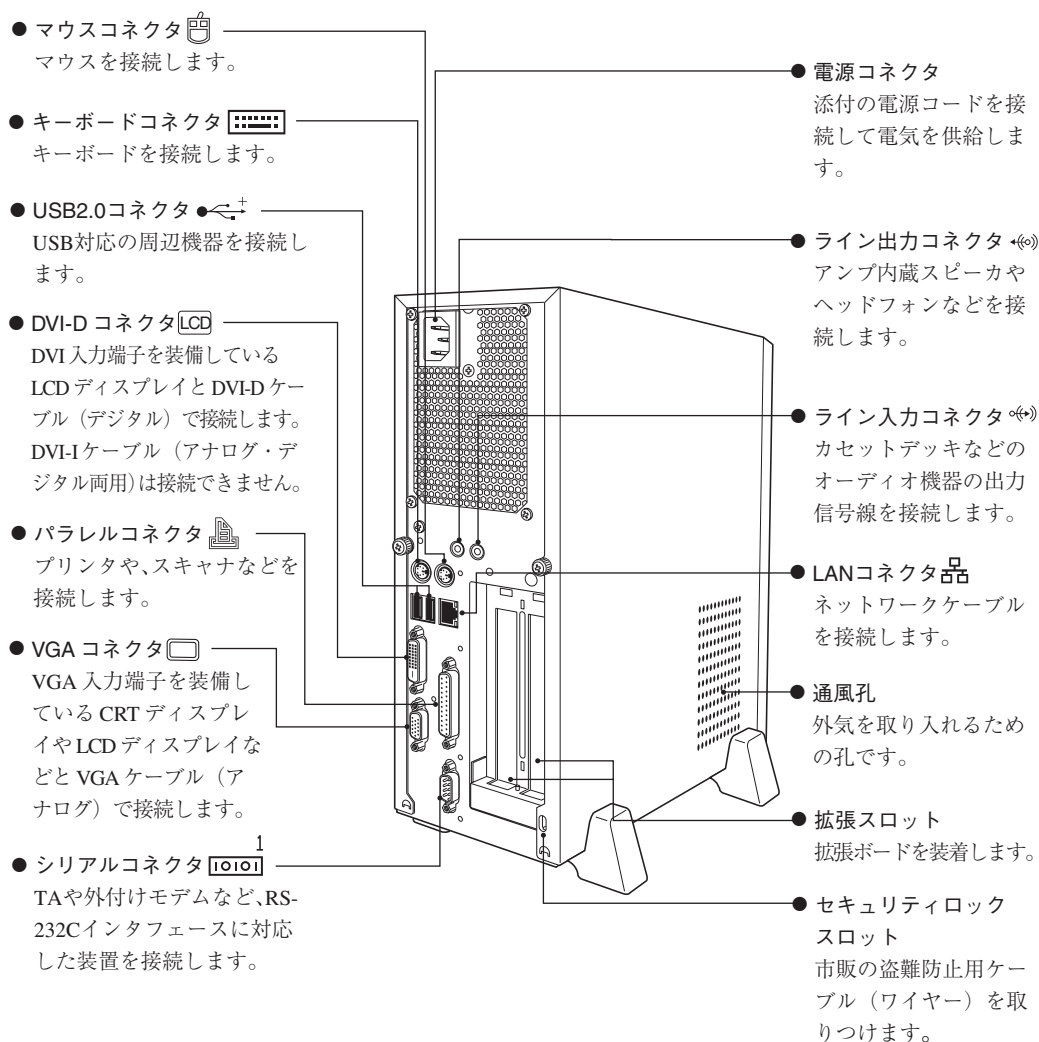
▶ 本体前面

本体前面の各部の名称と働きは次のとおりです。

購入時のシステム構成により、搭載されている5.25型ドライブは異なります(イラストはCD-ROMドライブです)。お使いの5.25型ドライブの各部の名称と働きは、デスクトップ上に登録されている5.25型ドライブのPDFマニュアルでご確認ください。

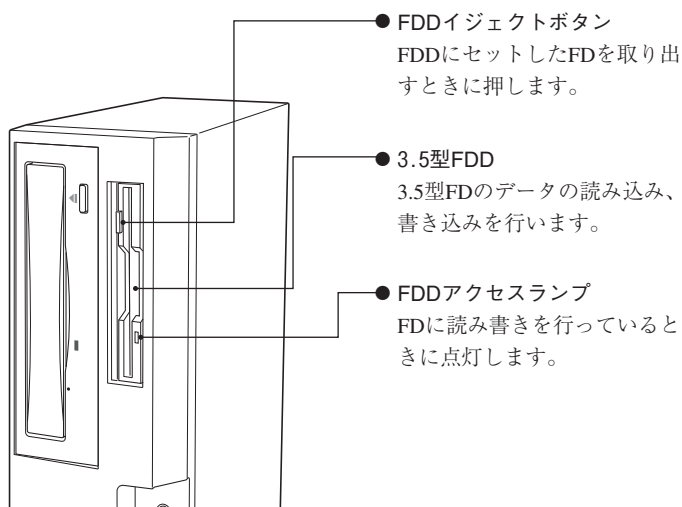


▶ 本体背面



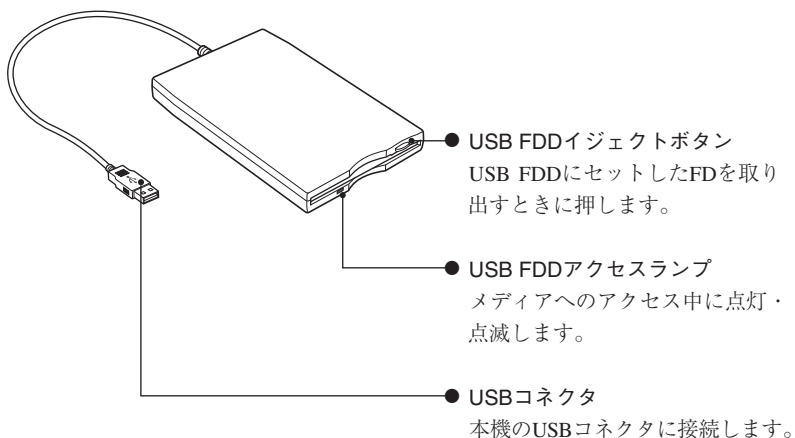
▶ FDD(オプション)

本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本体にはあらかじめFDDが搭載されています。



▶ USB FDD(オプション)

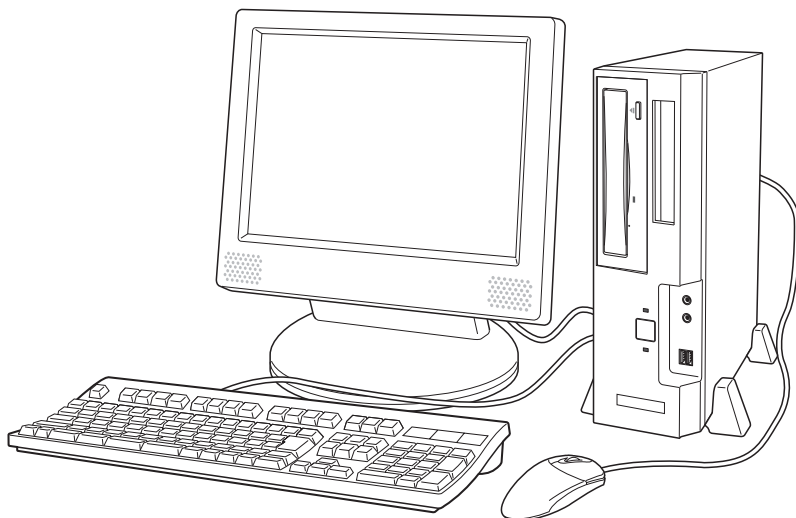
本機はオプションのUSB FDDを接続することができます。



コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p.16「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグにホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしてください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

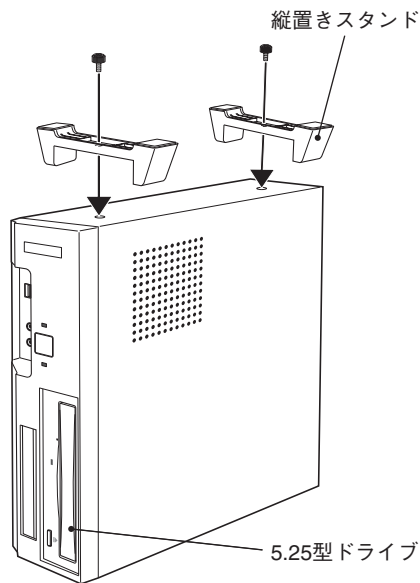
設 置

1 設置場所に応じて、本機を縦置きまたは横置きのどちらにするか決め、設置準備を行います。

■ 縦置きにする場合

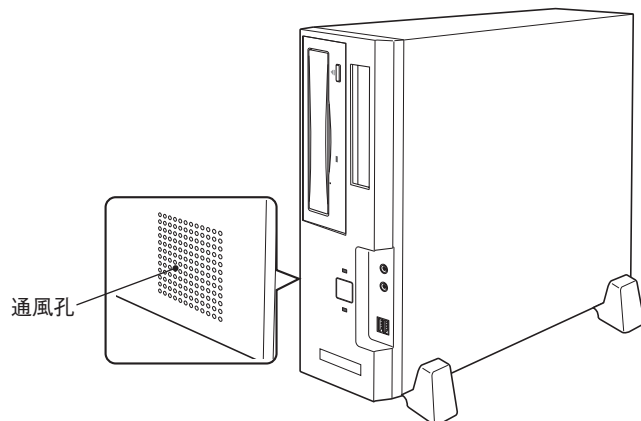
転倒防止のため、必ず縦置きスタンドをセットしてください。

- ① 5.25型ドライブ側を下にして縦置きスタンド2個を添付のネジで止めます。



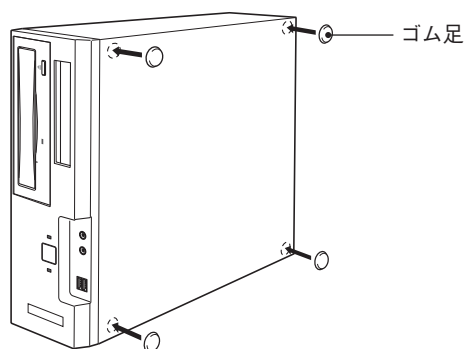
- ② 縦置きスタンドを固定したら、縦置きスタンドを下にして置きます。

設置した際に、側面の通風孔をふさがないようにしてください。

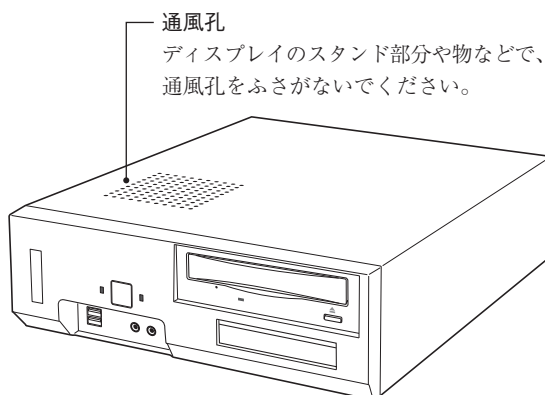


■ 横置きにする場合

- ① 添付のゴム足(4個)を底になる面(通風孔のない面)の四隅に付けます。



- ② 本機を横置きにします。

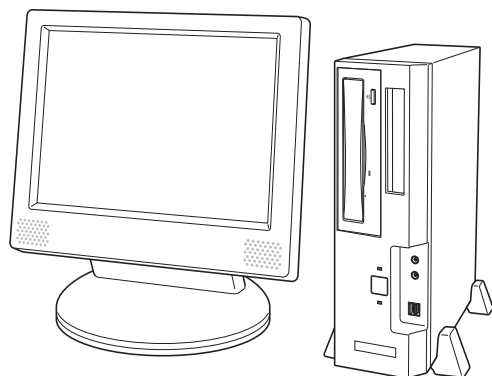


制限

本機の上に乗せられるディスプレイの重さは18kgまでです。それ以上の重さのディスプレイは載せないでください。

2

本機とディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。



以降の各ケーブルを接続する手順は、本機を縦置きにした状態で説明しています。本機を横置きにして使用する場合も、設置・接続の手順は同様です。

ディスプレイの接続

ディスプレイの接続方法や注意事項などの詳細については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

3

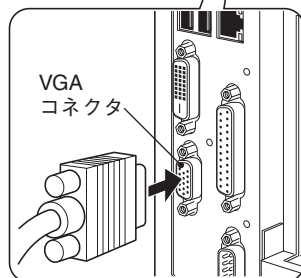
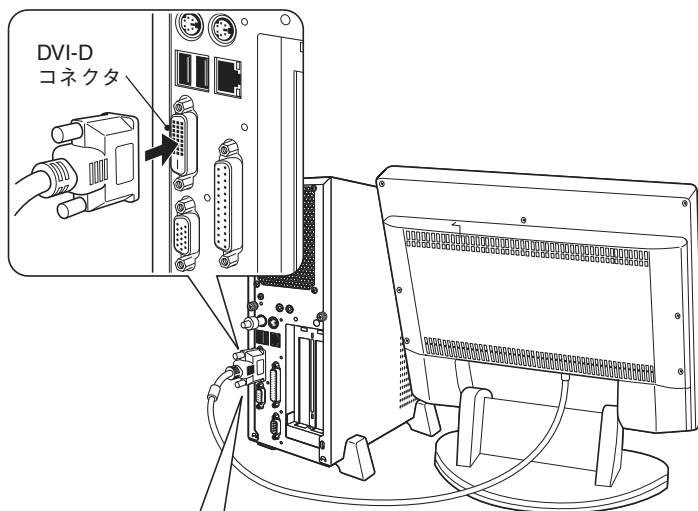
使用するディスプレイがアナログ方式かデジタル方式かを確認し、ディスプレイのケーブルを該当するコネクタに接続します。

デジタル(DVI-D)方式ディスプレイの場合：DVI-Dコネクタ

アナログ(VGA)方式ディスプレイの場合：VGAコネクタ

ディスプレイ側に、アナログ方式とデジタル方式の両方のコネクタがある場合、デジタル方式のコネクタに接続します。

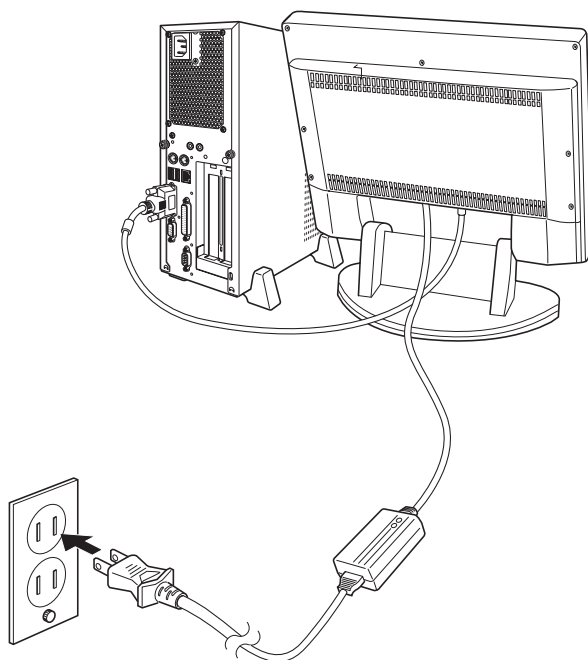
<デジタル方式ディスプレイの場合>



<アナログ方式ディスプレイの場合>

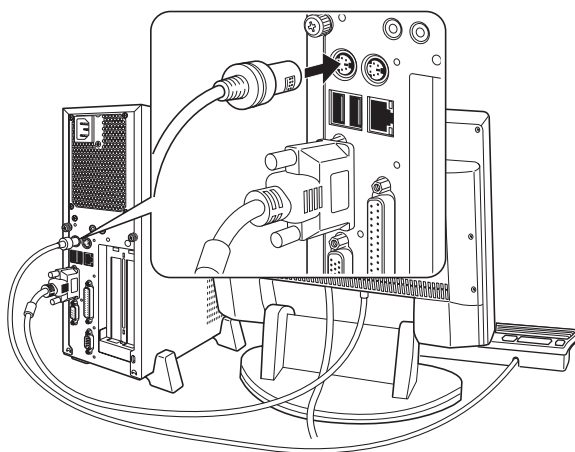
4 ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。

接続方法はディスプレイにより異なります。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。



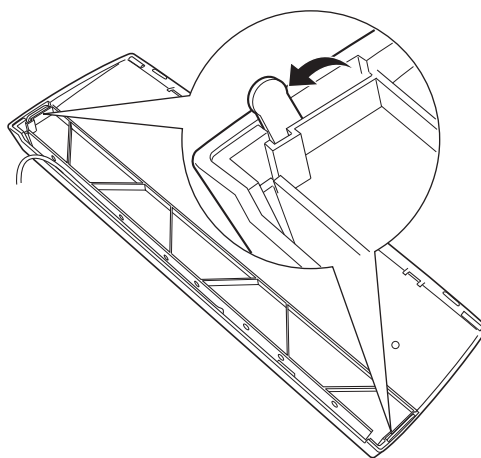
キーボードの接続

- 5** キーボードケーブルのコネクタを本機のキーボードコネクタ(紫色)に差し込みます。



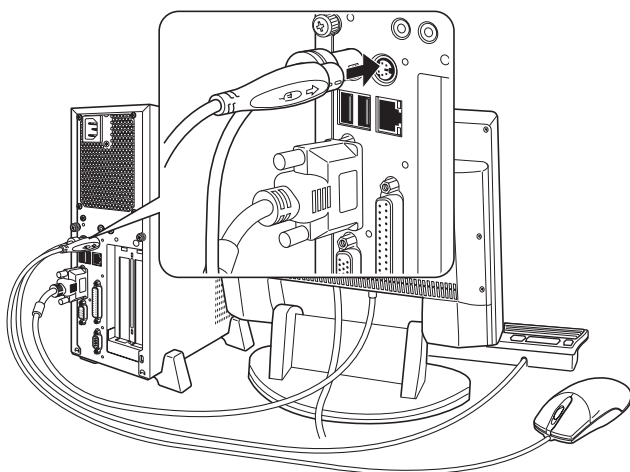
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは両端の脚を起こします。
- キーボードケーブルを調節します。



マウスの接続

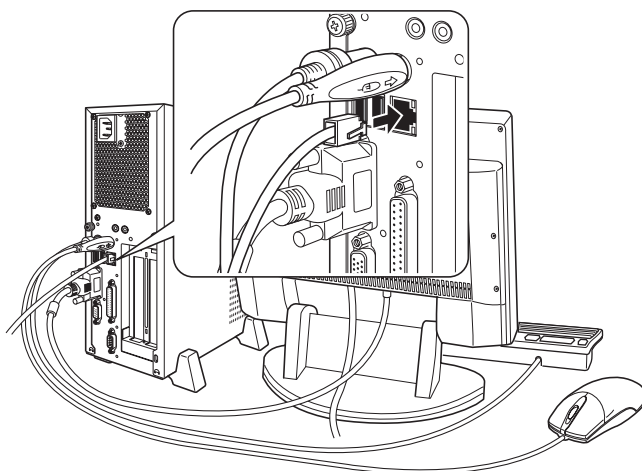
- 6** マウスケーブルのコネクタを本機のマウスコネクタ（緑色）に差し込みます。



ネットワークへの接続

- 7** メインボード上のネットワーク機能を使用する場合は、市販のLANケーブルをLANコネクタに接続します。

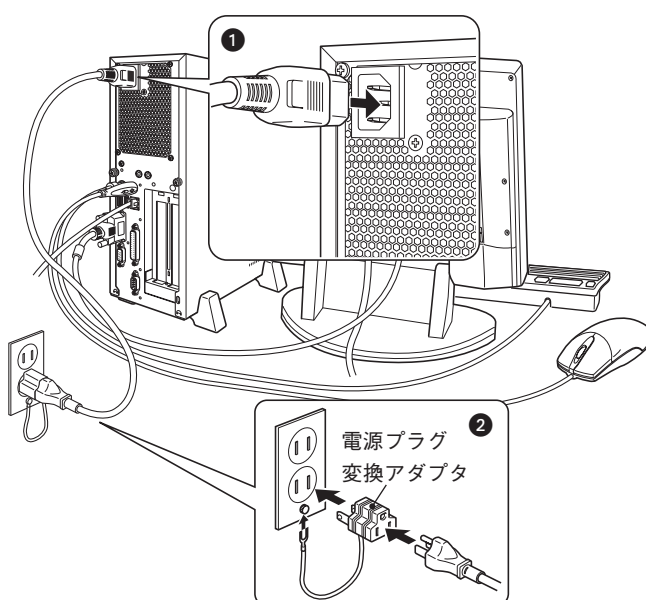
ネットワークの詳細は、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方に確認してください。



電源コードの接続

8 電源コードを接続します。

- ① 電源コードを本機の電源コネクタに接続します。
- ② 電源プラグは、添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、家庭用電源コンセントに差し込みます。
アース端子が付いているコンセントの場合、電源プラグ変換アダプタのアース線を接続します。



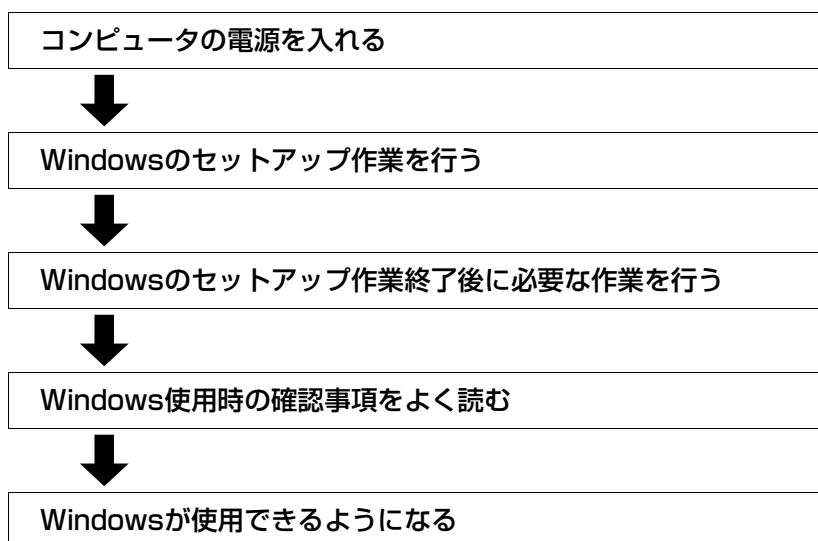
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、本機を購入後に、初めて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業を説明します。

▶ Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。詳細は、次ページからの手順に従って作業を行ってください。



▶ 電源を入れる前に

Windowsのセットアップ

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いて、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。セットアップは画面に表示されるメッセージに従って、対話式で行うことができます。

セットアップ中に入力する項目について

Windowsのセットアップでは、次の項目の入力が必要です。

● コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

- ・ ネットワークに接続しない場合：セットアップ時のコンピュータ名を変更する必要はありません。
- ・ ネットワークに接続する場合：ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を入力します。詳しくは、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。

● パスワード(Windows XP ProfessionalおよびWindows 2000のみ)

本機を個人で使用/管理する場合は、任意のパスワードを設定します(設定しなくても問題ありません)。企業などで、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理者の指示に従って入力します。

このパスワードは、「Administrator」(アカウント)のパスワードです。「Administrator」でログオンする際に、このパスワードを入力しログオンします。

パスワードを設定した場合は、忘れないようにしてください。



Administratorについて

Administratorとは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。セットアップで必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

■ マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタも、マウスを動かした方向に動きます。



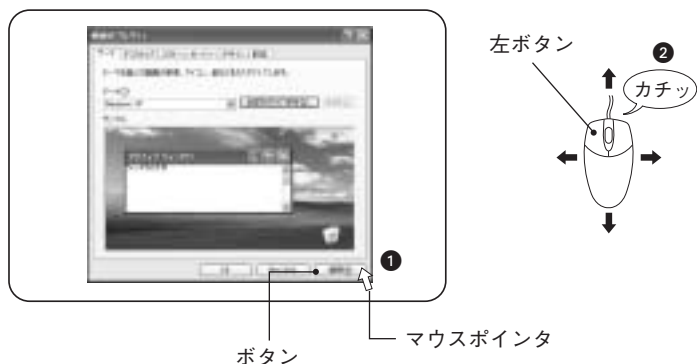
■ ボタンをクリックする

① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。

② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



▶ 電源の入れ方とWindowsの起動

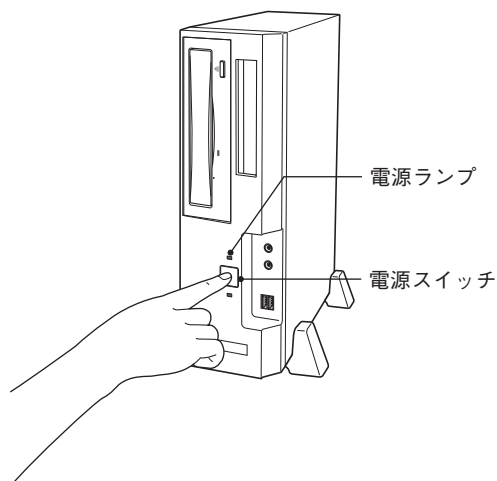
本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1

ディスプレイの電源を入れます。

2

本機の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。




3


黒い画面の中央にロゴが表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

続けてWindowsのセットアップを行います。

Windows XPの場合

 p.44 「Windows XPのセットアップ」

Windows 2000の場合

 p.46 「Windows 2000のセットアップ」

電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、次の事項を確認してください。

- 電源ランプが点灯しない場合

電源コードが正しく接続されているか確認してください。

- 画面に何も表示されない場合

ディスプレイが正しく接続されているか、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

▶ Windowsのセットアップ

Windows XPのセットアップ

Windows XPのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ



セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。


使用許諾契約



画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。
※「同意しません」を選択すると Windows のセットアップが中止されます。


コンピュータ名



「このコンピュータの名前」にコンピュータ名を入力します。
 p.41「セットアップ中に入力する項目について」

パスワードの設定



Windows XP Professionalをお使いの場合は、Administratorのパスワードを入力します。
 p.41「セットアップ中に入力する項目について」

インターネットへの接続



ここでは接続を行いませんので[省略]をクリックします。

ユーザー登録



ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択し、[次へ]をクリックします。

コンピュータを使用するユーザーの指定



ユーザー名を少なくとも1つ入力します。ここで入力するユーザー名には、コンピュータの管理者と同等の権限が与えられます。

セットアップの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2

Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「Windows XPセットアップ」は終了です。



セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックするとWindowsのデスクトップが表示されます。

続けてp.48「セットアップ終了後の作業」に移ります。



ユーザー登録とライセンス認証(アクティベーション)について

- セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、[スタート] - [ファイル名を指定して実行] - 「REGWIZ □/R」(□はスペース)を実行します。ウィザード画面の指示に従ってください。ユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは弊社で行っています。
- 弊社より提供されたWindows XP(購入時にコンピュータにインストールされているもの、および「リカバリCD」より再インストールを行ったもの)は、ライセンス認証を行う必要はありません。

Windows 2000のセットアップ

Windows 2000のセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 2000セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows 2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しない」を選択すると Windows のセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を入力します。
※ 名前を入力後 **Tab** を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を入力します。
 p.41「セットアップ中に入力する項目について」

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows 2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動]をクリックするとコンピュータが再起動します。

2

Windows 2000が再起動し、Administratorのパスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これで「Windows 2000セットアップ」は終了です。



続けてp.48「セットアップ終了後の作業」に移ります。

セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

▶ Norton AntiVirus2004のインストール

「Norton AntiVirus 2004」は、コンピュータウイルスを検出し、駆除するためのソフトウェアです。購入時には、「Norton AntiVirus2004」はインストールされていません。「Norton AntiVirus 2004」のインストールを行ってください。

 『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』

▶ ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルやネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。

▶ そのほかの設定

購入時にFAXモデムボードなどを装着している場合は、設定を行います。詳しくは各装置に添付のマニュアルをご覧ください。


Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項の確認を行ってください。

Windowsの使用方法は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

▶ 2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータの電源を入れる際は、次の点に注意してください。

- 電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。
Windowsが省電力モードに移行すると、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。
電源を入れるつもりで切ってしまうように注意しましょう。
 p.106「省電力機能を使う」
- 電源を入れ直すときは、20秒程度の間隔を開けてから行う。
電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- 周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。
コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。



USB フラッシュメモリを接続した状態で電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB メモリを抜いた状態でいい、USB メモリはWindows 起動後に接続してください。

Windows Updateについて

はじめてインターネットに接続する場合は、はじめに「Windows Update」を行います。「Windows Update」を行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウイルスに感染することを防ぐためのプログラムや、最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用できるようになります。

「Windows Update」は、次の場所から実行します。


Windows XP : [スタート]－[すべてのプログラム]－[Windows Update]

Windows 2000 : [スタート]－[Windows Update]

「Windows Update」では、常に新しいプログラムが登録されているので、定期的に「Windows Update」を行ってください。また、Windowsを再インストールした場合も、必ず「Windows Update」を行ってください。

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合は、電源ランプの点灯色を確認し、次の操作を行うと、元の状態に戻すことができます(購入時の設定の場合)。

 p.106「省電力機能を使う」

電源ランプ	操作
青点灯	キーボードやマウスを操作する。
オレンジ点灯	電源スイッチを押す。

▶ 音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が大きすぎる場合には、「ボリュームコントロール」機能で音量を調節します。

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。

「スピーカ」アイコン



つまみ

ボリュームコントロール

<Windows XPの場合>

▶ デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに、「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD Disc1」(Windows XPの場合)をセットしてください (Windows 2000の場合は、Windows 2000のCDをご用意の上、セットしてください)。

▶ コントロールパネルの表示(Windows XPのみ)

Windows XPのコントロールパネルの表示には、項目をカテゴリごとにまとめて表示する「カテゴリの表示」形式と、項目をすべて表示する「クラシック表示」形式の2種類があります。

Windows XPで、初めてコントロールパネルを開くと、「カテゴリの表示」形式で表示されます。本書では、コントロールパネルを開いて設定を行う手順を、「カテゴリの表示」形式から行うことを前提に記載しています。

2種類の表示形式は、それぞれの画面の左側にある「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリの表示に切り替える」をクリックすることで、切り替えることができます。



▶ SBSIの実行について(Windows XPのみ)

「ステップバイステップインタラクティブ」を実行すると、Windows XPの使い方の詳細をデスクトップ上で見ることができます。「ステップバイステップインタラクティブ」の実行は、[スタート]－[すべてのプログラム]－[アクセサリ]－[Microsoftインタラクティブトレーニング]－[Microsoftインタラクティブトレーニング]をクリックします。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



- 電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、HDD などの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。
- HDD や FDD、5.25 型ドライブのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機の電源を切っていても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、コンセントから電源プラグを抜いてください。

使い始めるまでの準備

▶ Windows XPの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]－[終了オプション]をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る]をクリックします。
Windows XPが終了し、自動的に電源が切れます。
- 3 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XP終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]－[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は[いいえ]をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってください。すべてのユーザーのログオフが終了したら、再度、[終了オプション]－[電源を切る]を選択してください。

Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]－[シャットダウン]をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

▶ 再起動

次のような場合には、コンピュータを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

Windowsの再起動方法


Windowsの再起動方法は、次のとおりです。

Windows XP : [スタート]－[終了オプション]－[再起動]をクリック

Windows 2000 : [スタート]－[シャットダウン]－[再起動]を選択

▶ ハングアップしたときは

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete**を押して応答のないプログラムを終了してから、コンピュータを再起動します。

 p.180「コンピュータ本体の不具合」

Windowsの強制終了

Ctrl + **Alt** + **Delete**を押しても反応がない場合は、あわてず次のように対処します。

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

キーボード、マウスや5.25型ドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

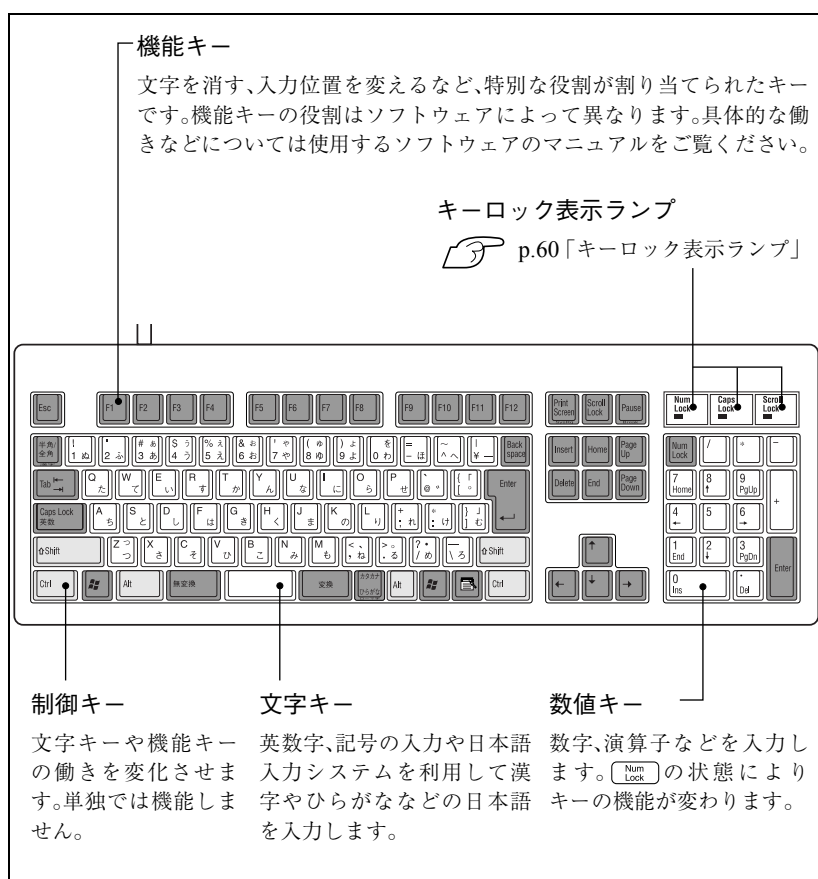
キーボードを使う

本機のキーボードは日本語対応 109 キーボードです。キーボードの接続方法は、p.30「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

109 個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

入力キー



文字を入力するには

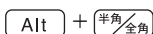
文字キーを押すとキートップに印字された文字が入力されます。

入力モードによって、入力される文字が異なります。

- 直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。
- 日本語入力モード
 - ローマ字入力 : キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
 - かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え

直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。



日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったりヘルプを参照します。










- ① 入力モード
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。
- ② ヘルプ
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。
- ③ かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 : ローマ字入力
ボタンが押されている状態 : かな入力



MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶ キーロック表示ランプ



キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え :  を押します。 点灯時 : 数値を入力 消灯時 : カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの太文字/小文字の切り替え 切り替え :  +  を押します。 点灯時 : 太文字を入力 消灯時 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え :  を押します。

▶ そのほかのキー

Windowsキーとアプリケーションキー

Windows キー、アプリケーションキーを使用することにより、Windows をより効率的に使用することができます。

キー名	機 能
 (Windows キー)	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

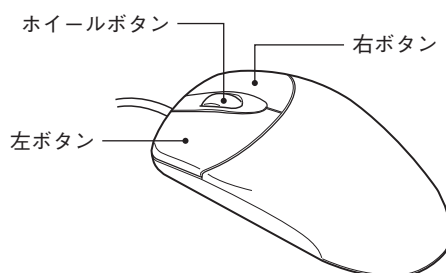
マウスを使う

本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

マウスの操作



アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- 右クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて右ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押し、そのままの状態でもウスを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

FDDを使う (オプション)

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本体にはあらかじめFDDが搭載されています。本機内蔵のFDDでは、次のどちらのFDも使用できます。

- 3.5型2HD : 1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

USB FDDをお使いの場合は、p.66をご覧ください。

FDのセットと取り出し

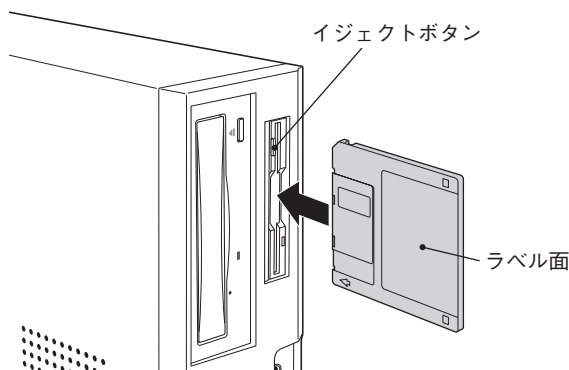


- FDD アクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータ本体の電源を切ったり、再起動したりしないでください。FD内のデータが破損する恐れがあります。
- コンピュータの電源を切る場合やコンピュータを再起動する場合は、必ずFDを取り出してから行ってください。

セット方法

- 1 FDのラベル面を左側に向け、FDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。

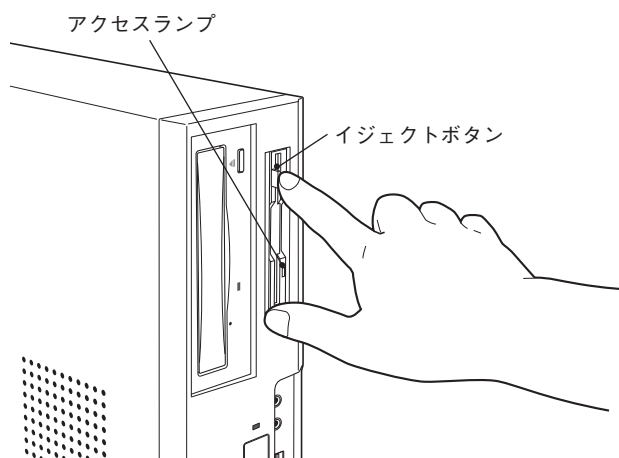
本機が横置きの場合は、ラベル面を上側に向けて押し込みます。



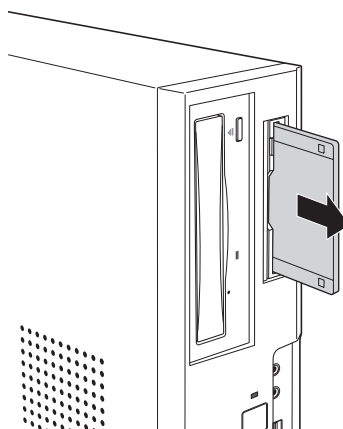
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。

取り出し方法

- 1 アクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。



- 2 FDが飛び出したら、静かに引き抜きます。



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットを行います。



- FDをフォーマットすると、FD内のデータはすべて消失されます。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
- Windows XPでは、720KBの記憶容量のFDをフォーマットすることはできません。

フォーマット方法

FDのフォーマットは、次の方法で行います。



Windows 2000のフォーマットユーティリティでは、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。

- 1 FDDにFDをセットして、「マイコンピュータ」を開きます。
Windows XPの場合
[スタート]－「マイコンピュータ」をクリックします。
Windows 2000の場合
デスクトップ上の「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
- 3 「開始」をクリックします。「警告」が表示された場合は、[OK]をクリックします。

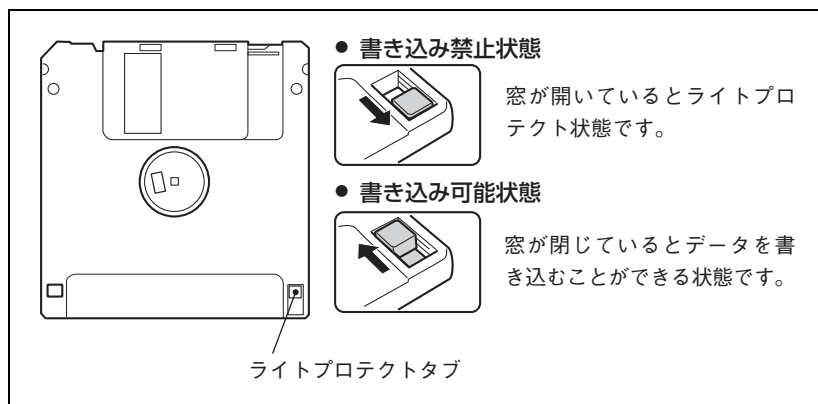
- 4 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します(Windows XPのみ)。
- 5 [閉じる]をクリックします。
これでFDのフォーマットは完了です。

▶ データのバックアップ

大切なデータは、別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複製して使用できるので安心です。

▶ ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておく安心です。ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。



USB FDDを使う (オプション)

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機購入時にUSB FDDをオプション選択された場合、USB FDDを使用できます。USB FDDでは、次のFDを使用できます。

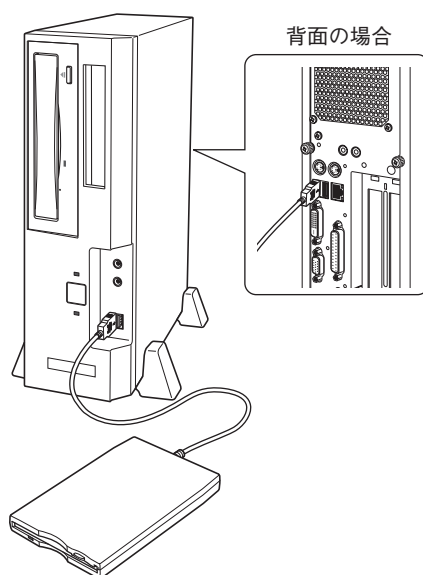
- 3.5型2HD:1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD:720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

▶ USB FDDの接続

FDDのUSBコネクタを、本機のUSBコネクタに差し込みます。USBコネクタは、本機前面、背面のどのコネクタにも接続できます。




USB FDDの接続

- USB FDDは、必要なときだけ接続して使うことができます。
- USBコネクタは、本機の電源が入った状態で接続できます。
- システムが登録されているFDをセットして、本機の電源を入れると、USB FDDから起動することができます。


▶ USB FDDの取り外し

USB FDD の取り外しは、次の方法で行います。

Windows XPの場合

- 1 タスクバーに表示されている次のアイコンをクリックします。

- 2 「USB Floppy - ドライブを安全に取り外します」を選択し、クリックします。
- 3 「ハードウェアの取り外し」画面が表示されたら、FDDのUSBコネクタを本機から取り外します。

Windows 2000の場合

- 1 タスクバーに表示されている次のアイコンをクリックします。

- 2 「USB Floppy - ドライブを停止します」を選択し、クリックします。
- 3 「ハードウェアの取り外し」画面が表示されたら、[OK]をクリックして、FDDのUSBコネクタを本機から取り外します。

▶ FDのセットと取り出し



- USB FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータを再起動したりしないでください。
- コンピュータの電源を切る場合やコンピュータを再起動する場合は、必ずFDを取り出してください。

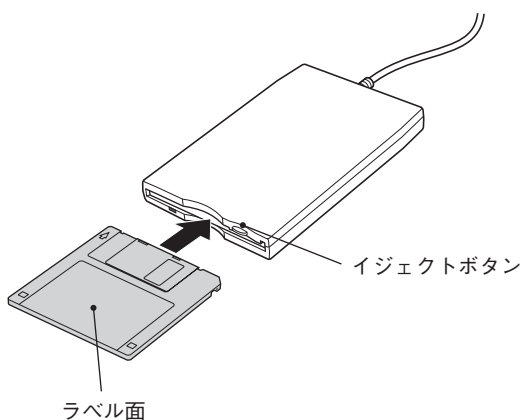
セット方法

1

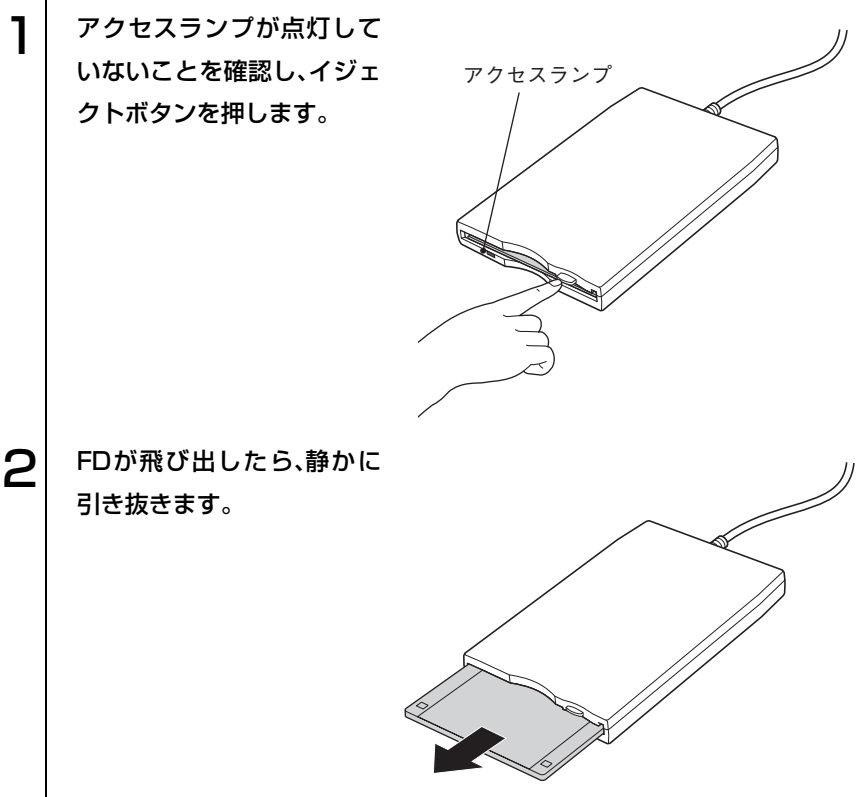
FDのラベル面を上に向け、USB FDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。

2

正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。



取り出し方法



FDの使用方法

FDのフォーマット方法、データのバックアップについて、ライトプロテクトのしかたについては内蔵FDDと同様です。下記を参照ください。



p.64「FDのフォーマット」



p.65「データのバックアップ」



p.65「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



制限

- 誤った操作で重要なデータが破損しないように次の点に注意してください。
 - ・ HDDを分解しないでください。
 - ・ HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、再起動しないでください。HDDアクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。
- 本機を落したり、ぶつけたりしてショックを与えると、HDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。

▶ データのバックアップ

HDD内の重要なデータは、FDなどの別のメディアにデータをコピー(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

▶ 購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、HDDのすべての容量を1つの領域として確保し、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。

HDD領域を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。



p.159「ソフトウェアの再インストール」

5.25型ドライブを使う

5.25型ドライブは、CDやDVDメディアを使用するための機器です。購入時に選択された5.25型ドライブにより、機能や使用できるメディアは異なりますが、メディアのセットや取り出しなどの基本的な操作方法は同じです。CD-ROMドライブ以外のドライブの仕様、使用できるメディアなどは、デスクトップ上に登録されている5.25型ドライブのPDFマニュアルをご覧ください。



- 5.25型ドライブのディスクトレイに手を入れ、挟まれないようにしてください。けがの原因になります。
- 5.25型ドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。



本機では、CD(コンパクトディスク)の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクについては、動作保証していません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶ 適応メディア

CD-ROMドライブモデルで使用できるメディアは、次のとおりです。

		読み込み (Read)	書き込み (Write)
CDメディア	CD-R	○	×
	CD-RW	○	×
	CD-ROM	○	×

CD-ROMドライブモデルでは、DVDメディアの読み込みまたは書き込みはできません。

なお、CD-ROMドライブモデル以外の5.25型ドライブに関する適応メディアについては、デスクトップ上に登録されている5.25型ドライブのPDFマニュアルをご覧ください。



『5.25型ドライブのマニュアル』

▶ メディアのセットと取り出し

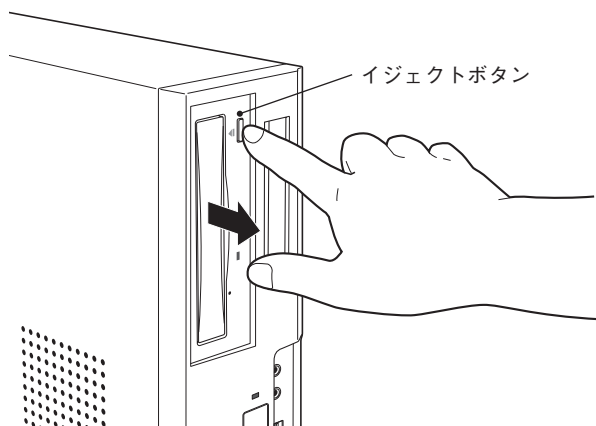


- 5.25 型ドライブアクセスランプ点灯中にメディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露(水滴が付着する状態)します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機を縦置きで使用している場合、8cmのメディアは使用できません。また、縦置き横置きに関係なく、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

1

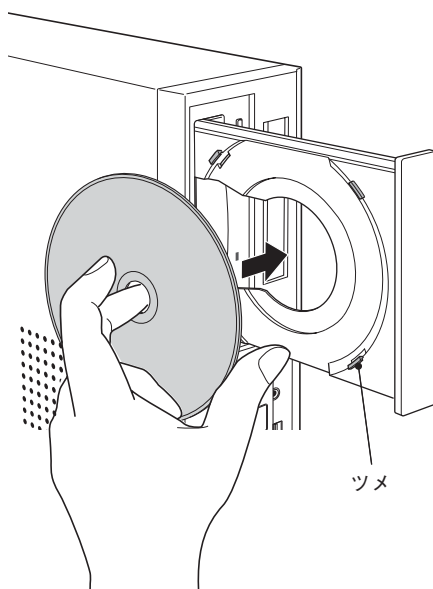
イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2

メディアの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイのツメにはめ込むようにセットします。

本機が横置きの場合は、メディアの印刷面を上側に向けてセットします。



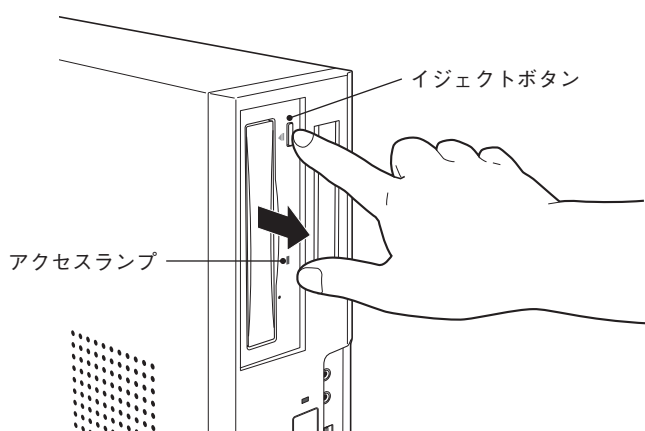
3

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

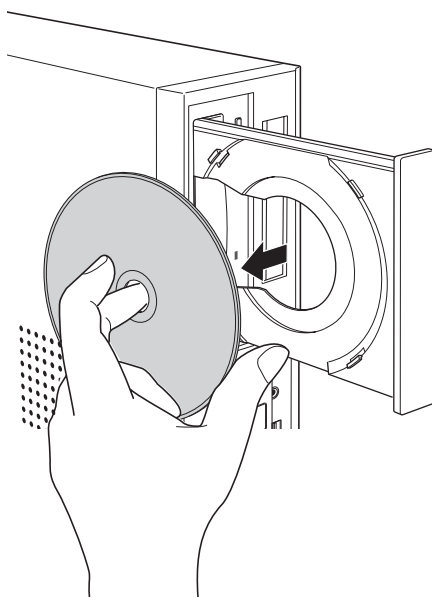
メディアが、ディスクトレイから落ちないことを確認して、イジェクトボタンを押します。

取り出し方法

- 1 アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2 メディアをディスクトレイから取り出します。



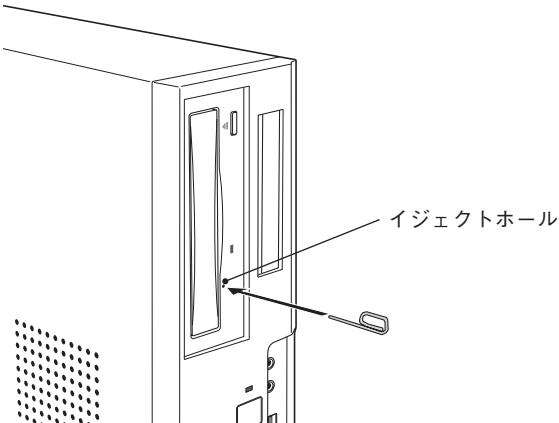
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

▶ 強制的なメディアの取り出し

以下のような場合には、強制的にメディアを取り出すことができます。

- 5.25型ドライブが故障して、メディアが取り出せない場合
- メディアをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

強制的にメディアを取り出す方法は次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。
- 2 イジェクトホールに、先が細く丈夫なもの(ゼムクリップを引きのばしたものなど)を差し込みます。


イジェクトホール
- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐディスクトレイを引き出し、メディアを取り出します。

メディアの種類

CD、DVDメディアには以下のような種類があります。使用できるメディアは、お使いの5.25型ドライブにより異なります。お使いの5.25型ドライブで使用可能なメディアは、デスクトップ上の5.25型ドライブPDFマニュアルでご確認ください。CD-ROMドライブの場合は、p.71「適応メディア」をご覧ください。

- CD-ROM

データ、音楽、画像などが登録されている読み込み専用メディアです。書き込みをすることはできません。

- CD-R

最大700MBの容量を持ち、データなどを1度だけ書き込むことが可能なメディアです。書き込まれたデータなどを消去したり、移動したりすることはできません。ただし、マルチセッションという方法により、CD-Rメディアに空き容量があれば、繰り返し追記することができます。

- CD-RW

最大700MBの容量を持ち、書き換え可能なメディアです。書き込んだデータをフォーマットすることで、繰り返し書き込みが行えます。

- DVD-ROM

CD-ROMより大容量のデータ、音楽、画像などが登録されている読み込み専用メディアです。書き込みをすることはできません。

- DVD+R、DVD-R

最大4.7GBの容量を持ち、データなどを1度だけ書き込むことが可能なメディアです。マルチセッションという方法により、空き容量があれば、繰り返し追記することができます。

- DVD+RW、DVD-RW

最大4.7GBの容量を持ち、書き換えが可能なメディアです。大容量のデータの保存や、DVD VIDEO形式でオリジナルDVD VIDEOを作成することができます。メディアをフォーマットすることにより、繰り返し書き込みが行えます。

- DVD-RAM

片面タイプは最大4.7GB、両面タイプは最大9.4GBの容量を持ち、フォーマットすることで、繰り返し書き込みが可能なメディアです。大容量のデータの保存や、DVD VIDEO形式でオリジナルDVDを作成することができます。

DVD-RAMには、両面タイプがあります。表面、裏面を入れ替えることにより、ほかのDVDメディアに比べ、2倍の9.4GBのデータを読み書きできます。

▶ CDメディアの読み込み・再生

5.25型ドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CD、ビデオCDや、フォトCDなどのメディアを再生することができます。これらのメディアの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。



メディアの再生

本機に装着されている5.25型ドライブは、メディアの認識に時間がかかることがあります。不具合ではありません。

また、メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。

▶ DVDメディアの読み込み・再生

DVDメディアの読み込み・再生機能のある5.25型ドライブでは、データが登録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます(CD-ROMドライブにこの機能はありません)。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD再生機能のある5.25型ドライブの場合、本機にはDVD VIDEO再生のためのソフトウェア「Win DVD」がインストールされています。Win DVDの詳細な使用法は「Win DVD CD-ROM」に登録されている『Win DVDユーザーズマニュアル』をご覧ください。

Win DVD CD-ROMを5.25型ドライブにセットし、([スタート]-)[マイコンピュータ]-CD-ROMアイコンを右クリック-[開く]-[manual]

DVD VIDEO再生時の制限

「Win DVD」でDVD VIDEOの再生をする場合、解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。

DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。



p.84「解像度や表示色を変更するには」



p.87「リフレッシュレートの変更方法」

メディアへの書き込み

書き込み機能のある5.25型ドライブでは、データ、音楽、画像などをCDやDVDメディアに書き込むことができます(CD-ROMドライブにこの機能はありません)。書き込み可能なメディアは選択された5.25型ドライブにより異なります。お使いの5.25型ドライブで書き込み可能なメディアについては、デスクトップ上の5.25型ドライブPDFマニュアルをご覧ください。

5.25型ドライブ(CD-ROMドライブは除く)には、バッファアンダーランエラー*の発生を自動的に防止する機能を搭載しています。そのため、書き込みエラーを未然に防ぐことができ、メディアを無駄にすることなく、安心して書き込みが行えます。

* 遅延無くメディアへ書き込まないと、発生するエラーのこと。

メディアへの書き込みは、ドライブ側のバッファメモリに一時的に書き込むデータを蓄えながら書き込んでいるが、書き込み中にコンピュータで他の作業をするなど、バッファメモリのデータを使い切ってしまうと発生する。



作成したDVD VIDEOは、市販のDVDプレイヤーで再生できますが、一部のDVDプレイヤーでは再生できない場合があります。



速度に対応したメディアを選ぶ

各メディアには書き込みの対応速度によって異なる種類があります。書き込みを行う場合は、書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

ライティングソフト

書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。書き込み機能のある5.25型ドライブを選択された場合、本機には、「B's Recorder GOLD」が添付されています。

● B's Recorder GOLD


CDメディアやDVDメディアに、データや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

 p.80「B's Recorder GOLDの使い方」

メディア書き込み時の注意

メディアへの書き込みを行っているときに、Windowsが省電力モードに切り替わると、メディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。

書き込みを始める前に、省電力機能を無効にしてください。

 p.112「省電力機能を無効にする」

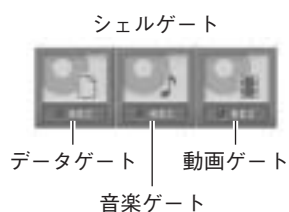
B's Recorder GOLDの使い方

CD/DVDメディアへの書き込みができるライティングソフト「B's Recorder GOLD」の使い方は、『B's Recorder GOLDユーザーズマニュアル』をご覧ください。マニュアルは、次の方法で見ることができます。

[スタート] - 「(すべての)プログラム」 - 「B.H.A」 - 「B's Recorder GOLD PE」 - 「DOC」 - 「ユーザーズマニュアル」

シェルゲート

デスクトップ上に表示されている「シェルゲート」を使うと、CD/DVDの作成をより簡単に行うことができます。



シェルゲートの使い方は、[スタート] - 「(すべての)プログラム」 - 「B.H.A」 - 「B's Recorder GOLD PE」 - 「DOC」 - 「シェルゲート」をご覧ください。

ディスプレイ機能を使う

本機のメインボード上には、ディスプレイ機能が搭載されています。ここでは、解像度の設定などの基本的な操作について説明します。



参考

セーフモードでの起動

接続しているディスプレイの設定が正しくない場合や、本機のディスプレイ機能で表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。



p.187「ディスプレイの不具合」

▶ 使用できるディスプレイ

本機は、アナログ方式ディスプレイ（以降アナログディスプレイ）のほかに、DVI-Dのデジタル方式ディスプレイ（以降デジタルディスプレイ）を接続することができます。同時に表示できる組み合わせは次のとおりです。

- ・ アナログディスプレイのみ
- ・ デジタルディスプレイのみ
- ・ アナログディスプレイ+デジタルディスプレイ*

*同じ内容のみ表示できます。

ディスプレイの接続

ディスプレイは本機背面のVGAコネクタまたはDVI-Dコネクタに接続します。ディスプレイの接続は、本機およびディスプレイの電源を切ってから行ってください。

DVI-Dコネクタには、DVI-I（アナログ・デジタル両用）ケーブルは接続できません。



p.35「ディスプレイの接続」

ディスプレイの切り替え

ディスプレイが2台接続されている場合、次の方法で画面表示を切り替えることができます。



アナログディスプレイからデジタルディスプレイに表示を切り替える際は、アナログディスプレイの解像度がデジタルディスプレイの最大解像度以下に設定されていることを確認してから、切り替えを行ってください（デジタルディスプレイの最大解像度はデジタルディスプレイに添付のマニュアルで確認してください）。

アナログディスプレイの解像度がデジタルディスプレイの最大解像度以上に設定されていると、表示を切り替えたときに、正しく表示されないことがあります。正しく表示されなかった場合は、一度コンピュータの電源を切り、再度電源を入れなおしてみてください。

1

「画面のプロパティ」を表示します。

Windows XPの場合

[スタート]—[コントロールパネル]—[デスクトップの表示とテーマ]—[画面]をクリックします。

Windows 2000の場合

[スタート]—[設定]—[コントロールパネル]—[画面]アイコンをダブルクリックします。

2

「設定」タブ—[詳細(設定)]—[Intel (R)Extreme Graphics 2]タブ—[グラフィックのプロパティ]をクリックします。

- 3** 画面左側にあるボタンをクリックし、表示の切り替えを行います。
- ・アナログディスプレイのみに表示..... [PCモニタ]
 - ・デジタルディスプレイのみに表示..... [デジタルディスプレイ]
 - ・2台同時に表示 [Intel (R) Dual Display Clone]



- 4** 変更後は[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

▶ 解像度や表示色を変更するには

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。
変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

1 次の手順で設定画面を表示します。

Windows XPの場合

[スタート]—[コントロールパネル]—[デスクトップの表示とテーマ]—[画面解像度を変更する]をクリックします。

Windows 2000の場合

- ① [スタート]—[設定]—[コントロールパネル]—[画面]アイコンをダブルクリックします。
- ② 「画面のプロパティ」画面が表示されたら、「設定」タブをクリックします。

2 設定したい解像度と表示色に変更します。



→ 使用しているディスプレイの名称が表示されます。

→ 解像度を設定します。

→ 色数を設定します。

<Windows XPの場合>

(Windows 2000では「画面の領域」で解像度を設定します)

3 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

▶ 表示できる解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。



制限

- 本機では、下記以外の解像度を選択することができますが、それらに関しては保証していません。
- 接続しているディスプレイによっては正常に表示できない解像度や表示色もあります。

Windows XPの場合

下記の解像度(ピクセル)の場合、表示色は中(16ビット)と最高(32ビット)が選択できます。

- ・ 800× 600
- ・ 1024× 768
- ・ 1280× 768 (ワイドディスプレイ接続時のみ)
- ・ 1280×1024
- ・ 1600×1200 (アナログディスプレイ接続時のみ)

Windows 2000の場合

下記の解像度(ピクセル)の場合、表示色は256色、High Color(16ビット)、True Color(32ビット)が選択できます。

- ・ 640× 480
- ・ 800× 600
- ・ 1024× 768
- ・ 1280× 768 (ワイドディスプレイ接続時のみ)
- ・ 1280×1024
- ・ 1600×1200 (アナログディスプレイ接続時のみ)



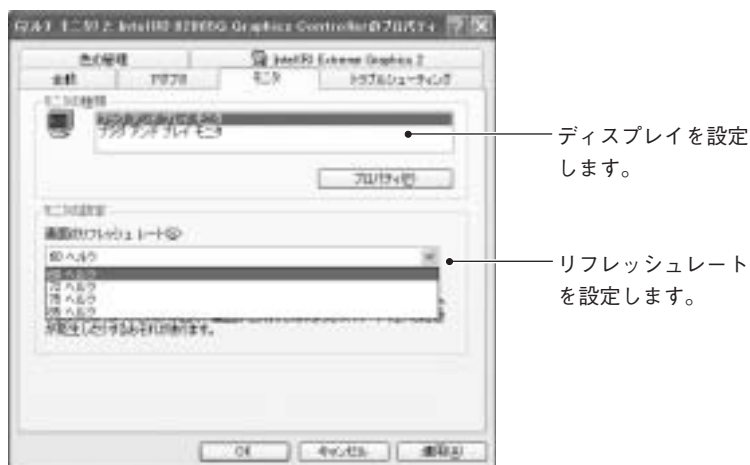
制限

ワイドディスプレイをお使いの場合は、画面の解像度を 1280 × 768 ピクセルに設定してください。

ワイドディスプレイは画面の縦横比が通常のディスプレイと異なるため、1280 × 768 ピクセル以外の解像度に設定すると、画像が正常に表示されません。

▶ 表示装置に関する設定

画面のプロパティの「設定」タブ－[詳細設定] (Windows 2000では[詳細])－「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



〈Windows XPの場合〉

ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては、正しく設定されない場合があります。その場合は、「モニタの種類」で設定を行ってください。

リフレッシュレートの設定

ディスプレイの画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起きるときは、リフレッシュレートを変更すると、問題が解決することがあります。

リフレッシュレートの変更方法

リフレッシュレートの変更は、次の手順で行います(ディスプレイによってはリフレッシュレートの変更ができない場合があります)。

- 1 「モニタの設定」-「画面のリフレッシュレート(Windows 2000 は「リフレッシュレート」)」項目で変更するリフレッシュレートを選択します。



- 2 [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。
- 3 「デスクトップのサイズを変更しました…」と表示されたら、表示状態を確認して[OK]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックして「画面のプロパティ」を閉じます。
解像度の変更方法については、p.84「解像度や表示色を変更するには」を参照してください。

サウンド機能を使う

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。



ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。

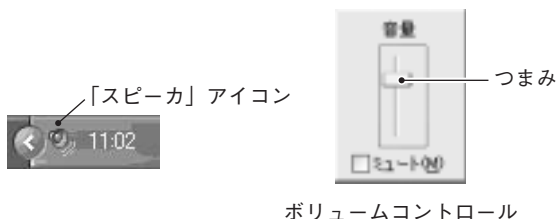
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

内蔵モノラルスピーカ

本機には、モノラルスピーカが内蔵されています。このため、外部スピーカなどを接続しなくても、音源からの音声を出力することができます。スピーカの音量調節には、次の方法があります。

● 「スピーカ」アイコン

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下させて、音量を調節します。




● システム音量の調整

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」 - 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックして、「音量」タブの「デバイスの音量」で調整します (Windows 2000の場合は[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「サウンドとマルチメディア」 - 「サウンド」タブの「音量」で調整します)。



内蔵モノラルスピーカの消音設定

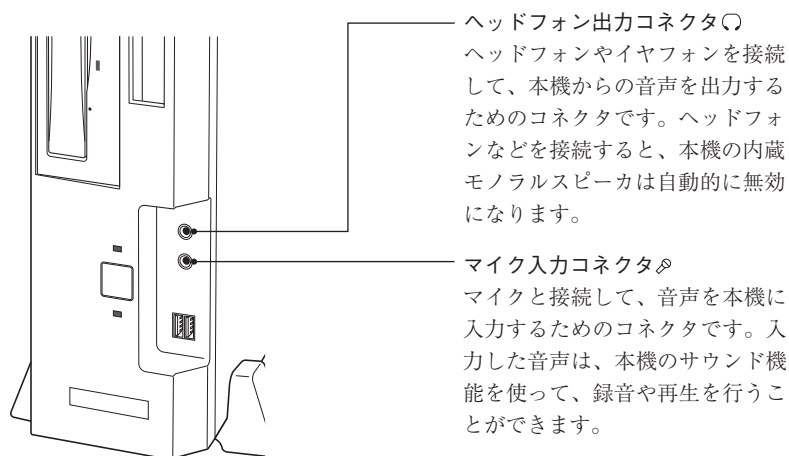
ライン出力コネクタに外部スピーカなどを接続する場合、本機の内蔵モノラルスピーカを消音に設定することができます。

 p.218 「外部スピーカを接続する際の設定」


▶ 外部オーディオ機器などの接続

本機の前面と背面には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカーやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

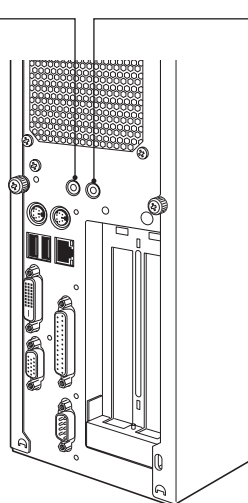
前面側




背面側

ライン出力コネクタ 

外部接続用のアンプ内蔵スピーカなどを接続して、音声を出力するためのコネクタです。



ライン入力コネクタ 

カセットデッキなどのオーディオ機器の音声出力端子と接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

▶ 音声の再生・録音

音声の再生・録音は、Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。サウンドユーティリティは、次のフォルダに登録されています。サウンドユーティリティの使い方は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

Windows XP : [スタート]—[すべてのプログラム]—[アクセサリ]—[エンターテインメント]

Windows 2000 : [スタート]—[プログラム]—[アクセサリ]—[エンターテインメント]

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ナローバンドとブロードバンドから接続方法を選択し、プロバイダと契約することによりインターネットに接続することができます。

モデムボードを装着している場合は、モデムボードに添付の取扱説明書をご覧になり、ダイヤルアップ接続を行ってください。

▶ 接続方法の選択(ナローバンドとブロードバンド)

インターネットへ接続するには、まず接続環境を選択します。接続環境は、大きく分けてナローバンドとブロードバンドの2つがあります。使用頻度や通信速度などを考慮して、使い方にあわせて選択します。

接続方法	接続環境	料金	インターネットでの通信速度イメージ
アナログ	ナローバンド	安い ↑ ↓ 高い	
携帯			
PHS			
ISDN			
CATV	ブロードバンド		
ADSL			
FTTH			

* 料金や通信速度は、サービス内容や接続環境により異なります。

ナローバンド

ナローバンドとは、電話回線や携帯電話やPHSからプロバイダのAP(アクセスポイント)へダイヤルアップ接続してインターネットに接続する環境のことを言います。ナローバンドで使用できる接続方法は次のとおりです。

- ISDN回線
- アナログ回線
- 携帯・PHS

ナローバンドの通信速度は1MBに満たない速度ですが、利点として、日本全国どこからでもアクセスすることができます。アナログ回線や携帯電話、PHSはインターネット接続中は電話の使用ができません。

ISDN回線やアナログ回線を使用する場合は、TA(ターミナルアダプタ)またはFAXモデムに接続します。回線によっては、工事が必要になる場合があります。携帯やPHSを使用する場合は、別途、接続機器が必要です。

サービスの詳細は通信サービス業者(NTTなど)へお問い合わせください。

ブロードバンド

ブロードバンドとは、FTTH(光ファイバー)やADSLおよびCATVでの接続方法でインターネットに接続する環境のことを言います。ブロードバンドで利用できる接続方法は次のとおりです。

- FTTH(光ファイバー)
- ADSL
- CATV

ブロードバンドの場合、一定の料金で常時接続することができます。通信速度は、設置環境によって異なりますが、8MB以上の高速通信が可能です。ナローバンドと比較した場合、最大で約780倍もの速さでインターネット接続ができます。また、インターネット接続中でも、電話を使用することが可能です。ブロードバンドの場合、ブロードバンド専用モデムと本機左側面のLANコネクタをLANケーブルで接続します。専用モデムや接続の詳細、サービスの詳細は、通信サービス業者(NTTなど)へお問い合わせください。

▶ プロバイダとの契約

インターネットに接続するには、プロバイダと契約する必要があります。接続方法を選択したら、選択した接続方法に対応しているプロバイダと契約します。プロバイダは、サービスや料金プランなどを考慮して選びましょう。サービスや料金プランなどの詳細は、プロバイダへお問い合わせください。

▶ インターネットを使う上での注意

インターネットを使って、ホームページや電子メールを利用すると、簡単に情報を得ることができたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気をつけてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。
- インターネット上の情報は、正しくない可能性があります。正しい情報であるかどうかを充分に見極めて、有効に活用する必要があります。

- 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧すると、コンピュータに障害をもたらす場合があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、コンピュータに障害をもたらしたり、ナローバンドの場合、高額な電話料金などを請求されることがあります。
- ウィルスに感染したメールを受信したり、気づかずに送信してしまうことがあります。本機に添付の「Norton AntiVirus2004」のようなウィルスを検出・駆除するためのソフトウェアを使い、定期的にウィルスチェックすることをおすすめします。



『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』

- コンピュータウィルスの種類によっては、「Windows Update」を行うことにより感染を防ぐことができます。定期的に「Windows Update」を行うことをおすすめします。



p.50「Windows Updateについて」

Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

- Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)
インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。
- Outlook Express(アウトルックエクスプレス)
メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

▶ 起動方法

起動方法は、次のとおりです。

手順2～4は、ナローバンドでダイヤルアップ接続する場合の手順です。ブロードバンドで接続する場合、手順1のみご覧ください。

1

ソフトウェアを起動します。

- Internet Explorer
・ [スタート] - 「(すべての)プログラム」 - 「Internet Explorer」
- Outlook Express
・ [スタート] - 「(すべての)プログラム」 - 「Outlook Express」

Outlook Expressを起動したときに、「オンラインに切り替えますか？」と表示されたら、インターネットに接続する場合やメール送受信を行う場合は、[はい]をクリックしてください。

2

「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。「接続先」、「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。

自動的に入力されている項目もあります。

3 入力内容を確認して、[接続]をクリックします。



[接続] をクリックすると接続状態が表示されます

4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。 接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。



〈Windows XP〉




〈Windows 2000〉

終了方法

Internet Explorerの場合

Internet Explorerの終了方法は、次のとおりです。


手順2は、ナローバンドでダイヤルアップ接続している場合の手順です。ブロードバンドで接続している場合、手順1のみご覧ください。

- 1 画面右上のをクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
- 2 「自動切断」画面が表示されます。[今すぐ切断する]をクリックします。

Outlook Expressの場合

Outlook Expressの終了方法は、次のとおりです。

手順1～2は、ナローバンドでダイヤルアップ接続している場合の手順です。ブロードバンドで接続している場合、手順3のみご覧ください。

- 1 インターネットに接続している場合は、「ファイル」－「オフライン作業」をクリックします。
- 2 「オフライン状態にする前に、モデム回線を切断しますか」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 3 画面右上のをクリックして、「Outlook Express」を終了します。

▶ Internet Explorerの使い方



※画面の内容は予告なく変更する場合があります。

● 見たいホームページを開くには

- ・ アドレスバーにアドレス(URL)を入力して[↵]を押します。
- ・ キーワードを使って検索します。
([検索]を押して、検索画面でキーワードを入力します。)

● 「お気に入り」にページを登録する

頻繁にアクセスするページは「お気に入り」に登録しておくとし、「お気に入り」をクリックするだけで一覧が表示され、すぐにアクセスすることができます。

- ・登録方法:「お気に入り」-「お気に入りに追加」をクリックします。

● リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でマウスポインタが \rightarrow から \rightarrow に変わる場所があります。 \rightarrow に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

再インストール時のデータのバックアップ

Windowsの再インストールを行うと、HDDに保存されているデータは消去されてしまいます。Windowsの再インストールの際は、必要に応じてFDなどの別のメディアにデータのバックアップを取っておいてください。バックアップしたデータは、再インストール後に、復元することができます。

●「お気に入り」のバックアップを取る

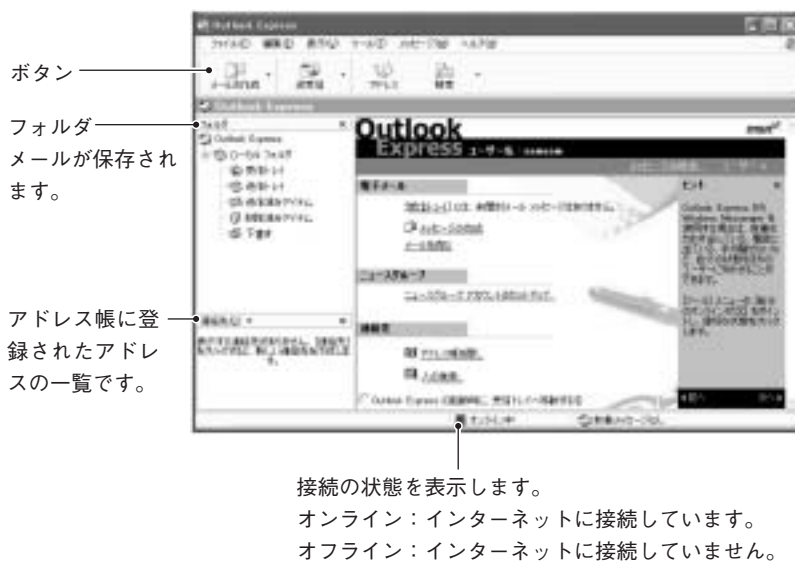
「お気に入り」のバックアップは、次の手順で行います。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 [ファイル]－[インポートおよびエクスポート]を選択します。
- 3 「インポート/エクスポート ウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「インポート/エクスポートの選択」と表示されたら、「お気に入りのエクスポート」を選択して、[次へ]をクリックします。
- 5 「お気に入りのエクスポート元のフォルダ」と表示されたら、「Favorites」が選択されていることを確認して、[次へ]をクリックします。
- 6 「お気に入りのエクスポート先」と表示されたら、「ファイルまたはアドレスにエクスポートする」にチェックが付いていることを確認し、テキストボックスに保存先を入力後、[次へ]をクリックします。
保存するファイルの拡張子は「htm」とします。
- 7 「インポート/エクスポート ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 8 「お気に入りのエクスポートに成功しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
これで「お気に入り」のバックアップは完了です。

- バックアップした「お気に入り」を復元する
バックアップした「お気に入り」の復元は、次の手順で行います。

- 1 Internet Explorer を起動します。
- 2 [ファイル]－[インポートおよびエクスポート]を選択します。
- 3 「インポート/エクスポート ウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「インポート/エクスポートの選択」と表示されたら、[お気に入りのインポート]を選択して、[次へ]をクリックします。
- 5 「お気に入りのインポート元」と表示されたら、「ファイルまたはアドレスからインポートする」にチェックが付いていることを確認し、テキストボックスにバックアップしたファイルの場所を入力して、[次へ]をクリックします。
- 6 「お気に入りのインポート先のフォルダ」と表示されたら、「Favorites」が選択されていることを確認して、[次へ]をクリックします。
- 7 「インポート/エクスポート ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 8 「お気に入りのインポートに成功しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
これでバックアップした「お気に入り」の復元は完了です。

▶ Outlook Expressの使い方



参考

メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときはインターネットに接続されている必要はありません。

Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。

メールを送信する(ナローバンド(ダイヤルアップ接続)でオンラインの場合、ブロードバンドの場合)

- 1 [メールの作成](Windows 2000では[新しいメール])をクリックして、メール作成画面を表示します。
- 2 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力して、メールを作成します。
- 3 [送信] ボタンをクリックします。

メールを送信する(ナローバンド(ダイヤルアップ接続)でオフラインの場合)

- 1 [メールの作成](Windows 2000では[新しいメール])をクリックして、メール作成画面を表示します。
- 2 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力して、メールを作成します。
- 3 [送信]をクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。
複数のメールを作成し、一度に送信することができます。
- 4 [送受信]をクリックして、「…オンラインに切り換えますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。
- 5 「ダイヤルアップ接続」画面で[接続]をクリックします。
接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

- 1 「Outlook Express」を起動して、インターネットに接続すると、自動的に受信します。
インターネットに接続されていない場合は、[送受信]をクリックすると接続作業が行われます。
- 2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくと、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

- 1 [アドレス]をクリックします。
- 2 [新規作成]をクリックして、「新しい連絡先」をクリックします。
- 3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

再インストール時のデータのバックアップ

Windowsの再インストールを行うと、HDDに保存されているデータは消去されてしまいます。Windowsの再インストールの際は、必要に応じてFDなどの別のメディアにデータのバックアップを取っておいてください。バックアップしたデータは、再インストール後に、復元することができます。

● アドレス帳のバックアップを取る

アドレス帳のバックアップは、次の手順で行います。

- 1 Outlook Expressを起動します。
- 2 [ツール]－[アドレス帳]を選択します。
- 3 「アドレス帳」画面が表示されたら、[ファイル]－[エクスポート]－[アドレス帳]を選択します。
- 4 「エクスポートするアドレス帳ファイルの選択」画面が表示されたら、バックアップ先を選択して、「ファイル名」ボックスに任意のファイル名を入力し、[保存]をクリックします。
- 5 「アドレス帳が次の場所にエクスポートされました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。
これでアドレス帳のバックアップは完了です。

● バックアップしたアドレス帳を復元する

バックアップしたアドレス帳の復元は、次の手順で行います。

- 1 Outlook Expressを起動します。
- 2 [ファイル]－[インポート]－[アドレス帳]を選択します。
- 3 「インポートするアドレス帳ファイルの選択」画面が表示されたら、バックアップしたファイルを選択して、[開く]をクリックします。
- 4 「インポートは完了しました。」と表示されたら[OK]をクリックします。
これでバックアップしたアドレス帳の復元は完了です。




バックアップしたアドレス帳の復元

複数のユーザーでOutlook Expressを使用している場合、複数のユーザーがログオンしている状態でアドレス帳の復元を行うと、ログオンしているユーザーすべてのアドレス帳にアドレスが登録されてしまいます。

1ユーザーのみがログオンしている状態で、アドレス帳のバックアップ、復元を行い、それをユーザーごとに繰り返せば、アドレス帳を分けることができます。

● メールデータのバックアップを取る

メールデータのバックアップは、次の手順で行います。

- 1 Outlook Expressを起動します。
- 2 [ツール]－[オプション]を選択します。
- 3 [オプション]画面が表示されたら、「メンテナンス」タブ－[保存フォルダ]をクリックします。
- 4 [保存場所]画面が表示されたら、テキストボックスに記述されたフォルダの場所を控え、[キャンセル]をクリックします。
- 5 [オプション]画面の[キャンセル]をクリックします。
- 6 Outlook Expressを終了します。
- 7 [スタート]－[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- 8 [ファイル名を指定して実行]画面が表示されたら、手順4で控えたフォルダの場所を入力して、[OK]をクリックします。
- 9 [Outlook Express]画面が表示されたら、 をクリックします。
- 10 [Microsoft]画面が表示されたら、「Outlook Express」フォルダをバックアップ先にコピーします。
これでメールデータのバックアップは完了です。

● バックアップしたメールデータを復元する

バックアップしたメールデータの復元は、次の手順で行います。

- 1 Outlook Expressを起動します。
- 2 [ファイル]－[インポート]－[メッセージ]を選択します。
- 3 「プログラムの選択」と表示されたら、「Microsoft Outlook Express 6」を選択して、[次へ]をクリックします。
- 4 「Outlook Express 6 からインポート」画面が表示されたら、「Outlook Express 6 ストアディレクトリからメールをインポートする」にチェックを付けて、[OK]をクリックします。
- 5 「メッセージの場所」と表示されたら、バックアップしたフォルダの場所を入力して、[次へ]をクリックします。
- 6 「フォルダの選択」と表示されたら、「すべてのフォルダ」か、「選択されたフォルダ」のどちらかにチェックを付け、[次へ]をクリックします。
すべてのメールデータを復元したい場合は「すべてのフォルダ」、選択したデータのみ復元したい場合は「選択されたフォルダ」をクリックしてください。
- 7 「インポートの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
これでバックアップしたメールデータの復元は完了です。

省電力機能を使う


省電力機能を使うと、コンピュータを使用していない間、コンピュータ本体が省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。本章では、Windowsの省電力機能について説明します。



- 周辺機器を接続している場合や、アプリケーションを起動している場合など、省電力機能が動作しないことがあります。
- 次の状態でスタンバイまたは休止状態に入ると、正常に復帰できない、接続が切断される、誤動作するなどの現象が起こることがあります。
 - ・ NetWare サーバーを利用している状態や NetBEUI を使用してネットワークに接続している状態
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたままの状態
 - ・ サウンド機能を使って録音・再生しているとき
 - ・ 電源管理機能との相性が良くない周辺機器を接続し、動作させている場合
 - ・ アプリケーションを起動した状態または動作中

このような場合は、下記のいずれかの対処方法を取ってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする (Netwareサーバーを利用している場合のみ)
 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力モードを無効にする
- 省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ (作成中の文書やデータなど) は保存しておいてください。
 - CD、DVD メディアへの書き込み中に省電力モードに移行すると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを行う場合は、省電力モードを無効にしてください。

 p.112「省電力機能を無効にする」

▶ 省電力モードの種類

省電力モードには、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

- スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプはオレンジ色(または紫色)に点灯します。BIOSの設定(Suspend to RAM)により、消費する電力量などが異なります。



p.108「スタンバイの動作状態」

- 休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。



p.109「休止状態を有効にする」

電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプの点灯色または消灯によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	青点灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	青点灯
スタンバイ (Suspend to RAM:Enabled)	オレンジ点灯
スタンバイ (Suspend to RAM:Disabled)	紫点灯
休止状態	消 灯
電源切断時	消 灯

省電力モードを使用する前の確認事項

省電力モードを使用する前に、次の事項を確認してください。

スタンバイの動作状態

スタンバイ実行時の動作状態は、「BIOS Setupユーティリティ」の「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」の設定により、次のように異なります。

- 「Enabled」設定時

スタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保存した状態で、本機のメモリ以外の電源が切れます。そのため電力消費はほとんどありません。購入時には、あらかじめ「Enabled」に設定されています。

- 「Disabled」設定時

スタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保存した状態で、不必要な電源が切れます。電力消費は通常モードより若干抑えられます。

スタンバイ実行時の制限事項

「Suspend to RAM」を「Enabled」に設定してスタンバイを実行する際には、次のような制限事項があります。

- スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。

- スタンバイが正常に動作しない場合は、相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。

「Disabled」に設定してスタンバイを実行してください。

休止状態を有効にする

省電力モードの「休止状態」を有効にすると、電源スイッチを切った状態と同様に電力の消費を抑えることができます。「休止状態」を有効にするには、次の手順で行います。

Windows XP : [スタート]→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]→[休止状態]タブ→[休止状態を有効にする]にチェック

Windows 2000 : [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[電源オプション]→[休止状態]タブ→[休止状態をサポートする]にチェック



〈Windows XPの場合〉

▶ 実行方法

省電力モードを実行するには、大きく分けて2つの方法があります。万一正常に復帰できない場合に備え、省電力機能を実行する前に使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと省電力モードに移行します。

② 直ちに実行

席を外するときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows XP : [スタート]—[コントロールパネル]—[パフォーマンスとメンテナンス]—[電源オプション]

Windows 2000 : [スタート]—[設定]—[コントロールパネル]—[電源オプション]

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



〈Windows XPの場合〉

直ちに実行

次の方法で、スタンバイ、または休止状態を強制的に実行します。

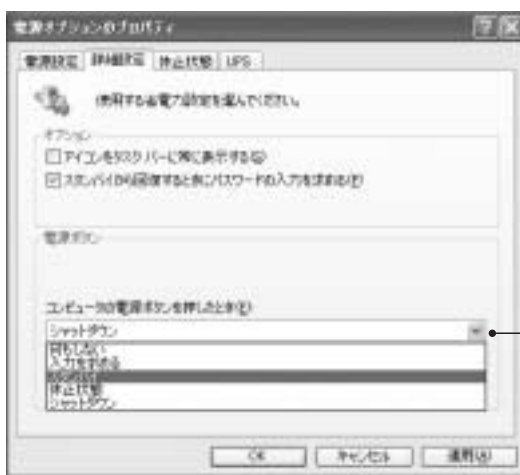
● スタートボタンから実行する

Windows XP : [スタート]—[終了オプション]から選択実行します。
「コンピュータの電源を切る」画面で **[Shift]** を押すと、
「スタンバイ」ではなく「休止状態」を選択できるようになります。

Windows 2000 : [スタート]—[シャットダウン]から選択実行します。

● 電源スイッチを押して実行する

電源スイッチを押したときにどのモードに入るかを、あらかじめ「詳細設定」タブで設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

〈Windows XPの場合〉

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、ディスプレイの電源が切れている状態	青点灯	キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ (Suspend to RAM:Enabled)	オレンジ点灯	電源スイッチを押します。
スタンバイ (Suspend to RAM:Disabled)	紫点灯	キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
休止状態	消 灯	電源スイッチを押す。

省電力機能を無効にする

CD、DVDメディアへ書き込みを行う場合などは、省電力機能を無効にします。

省電力機能を無効にする手順は、次のとおりです。

- 1 **「スタート」-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。**
Windows 2000の場合は、[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 **「電源オプション」アイコンをクリック(Windows 2000の場合はダブルクリック)し、「電源オプションのプロパティ」を表示します。**
- 3 **「電源設定」タブで「モニタの電源を切る」などすべての項目の時間設定を「なし」に変更します。**
- 4 **「適用」をクリックし、[OK]をクリックします。**

ネットワーク機能を使う

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバー)などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためにはプロトコルの設定などにも必要になります。ネットワークの構築は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。



制限

- NetWareサーバーを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 切断後に再度ログオンする (NetWareのみ)。
 - ・ 再起動する。
 - ・ 省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

▶ おもな機能について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、Wakeup On LANやリモートブートなどの機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANとは、電源切断時にネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。分電盤またはOAタップなどにより、コンピュータ本体の電源をいったん切断して再度供給した場合は正常に動作しない場合があります。Wakeup On LANを使用する場合は、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。



Wakeup On LANを設定している場合

BIOSの設定で、Wakeup On LAN (Power on By PCI Devices) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピュータが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。


リモートブート

リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにOSがインストールされていない場合でも、ネットワークを介して、サーバー上からOSをインストールすることができます。

リモートブートを行う場合は、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。

ネットワーク機能を無効にする

搭載されているネットワーク機能を使用せずに、ネットワークボードなど、ほかのネットワーク機能を使用する場合、メインボード上のネットワーク機能を無効にする必要があります。メインボード上のネットワーク機能を無効にする作業は、「BIOS Setup ユーティリティ」で「Onboard LAN」を無効(Disabled)に設定してください(購入時に、ネットワークボードが装着されている場合、「Onboard LAN」はあらかじめ「Disabled」に設定されています)。

 p.148 「Advanced メニュー画面」-「Onboard Devices Configuration」
-「Onboard LAN」

その他の機能

▶ パラレルコネクタを使う

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.148「Advancedメニュー画面」-「Onboard Devices Configuration」

▶ シリアルコネクタを使う

本機背面のシリアルコネクタには、シリアルマウスやTA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.148「Advancedメニュー画面」-「Onboard Devices Configuration」

▶ USBコネクタを使う

本機には、USB2.0に対応したUSBコネクタが前面に2個、背面に2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。



参考

大容量記憶装置を接続する場合の設定

USB HDDなどの大容量記憶装置を接続したまま、コンピュータの電源を入れると、Windowsが起動するまでに5分くらい時間がかかる場合があります。この場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で「Removable Device」の順番を「IDE Hard Device」より下に設定します。

 p.151「Bootメニュー画面」

転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コントローラに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは電源が入っている状態で行えます。接続する周辺機器によっては、デバイスドライバが必要です。

また、USB機器の接続を行った際に、タスクバーに次のようなアイコンが表示された場合は、取り外しを行う前にWindows上で終了処理が必要です。

詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをお読みください。



〈Windows XPの場合〉



〈Windows 2000の場合〉



5V電力の供給

コンピュータの電源コードが接続されている状態では、常にUSBポートに5Vの電力が供給されています。お使いのUSB機器などによっては、コンピュータの電源を切った状態でも、USB機器のランプが光り続けます。これは、お使いのUSB機器の仕様で、故障ではありません。

▶ コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2004」が添付されています。購入時には「Norton AntiVirus2004」はインストールされていないので、インストールを行ってください。インストール方法や詳しい使い方は、『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』をご覧ください。

さらに、「Windows Update」を行うことで本機のウィルス対策を強化できます。定期的に「Windows Update」を行う事をおすすめします。




p.50「Windows Updateについて」

▶ ハイパー・スレッディング機能(Windows XPのみ)

ハイパー・スレッディング機能を持つPentium4プロセッサを搭載しているモデルは、ハイパー・スレッディングテクノロジーに対応しています。

ハイパー・スレッディングテクノロジーとは、Windowsに1つのCPUを仮想的に2つに見せることで、異なる2つの命令を同時に実行することができる機能です。ハイパー・スレッディング機能に対応したアプリケーションでは、処理性能が向上します。

ハイパー・スレッディング機能の有効/無効は「BIOS Setup ユーティリティ」で設定することができます。

 p.148 「Advancedメニュー画面」-「CPU Configuration」-「Hyper-Threading Technology」

ハイパー・スレッディング機能を持つPentium4プロセッサ以外のプロセッサを搭載しているモデルは、BIOSの「Hyper-Threading Technology」は表示されません。また、Windows 2000は、ハイパー・スレッディング機能を持つPentium4プロセッサを搭載していても、ハイパー・スレッディング機能を使用することはできません。



システムの拡張

コンピュータにメモリや拡張ボードを装着して、機能を拡張する方法を説明します。

拡張できる装置

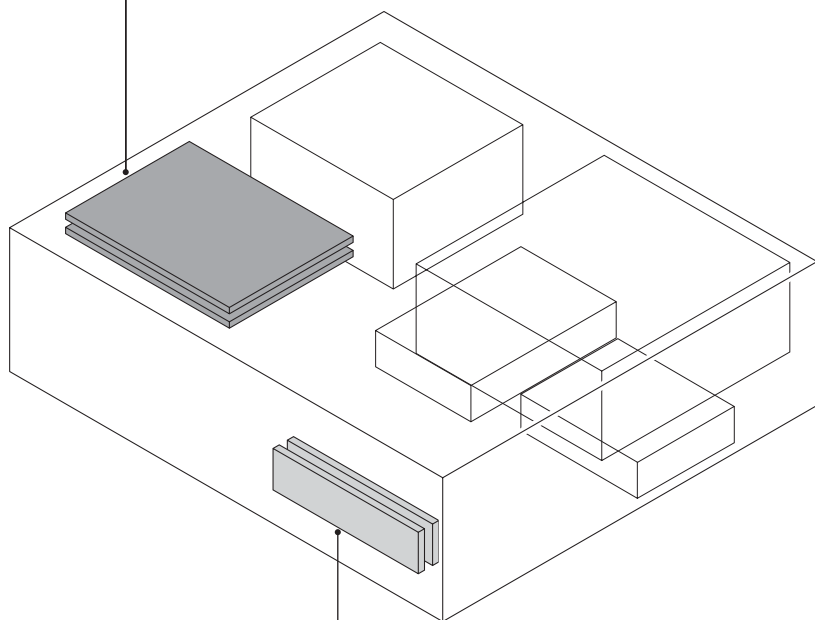
本機は、メモリや拡張ボードを増設・交換して機能を拡張することができます。購入時のシステム構成により、実際に拡張できるメモリや拡張ボードの数は異なります。また、本機は、メモリと拡張ボード以外の機能を拡張することはできません。

拡張スロット

PCI仕様の拡張ボードを2枚装着できます。



p.125「拡張ボードの装着」



メモリスロット

メモリスロットが2本用意されています。内蔵メモリを2GBまで拡張することができます。



p.130「メモリの増設」

作業時の注意

コンピュータ内部にメモリや拡張ボードを装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



- コンセントに電源プラグを接続したまま作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 拡張ボードやメモリの取り付け・取り外しは、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機の電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。作業を始める前に必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

- 拡張ボードやメモリの取り付け・取り外しを行うときは、裏表や前後を間違えないでください。間違えて装着すると故障の原因になります。本書や拡張ボードに添付のマニュアルの指示に従って、正しく装着してください。
- 本機および接続している周辺機器の電源は必ず切ってください。電源を切ったら、本機から周辺機器を取り外してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから作業を行ってください。
- メモリ、拡張ボードの端子部やコネクタ部に触れないでください。

本体カバーの取り外し・取り付け



コンセントに電源プラグを接続したまま作業をしないでください。
感電・火傷の原因となります。

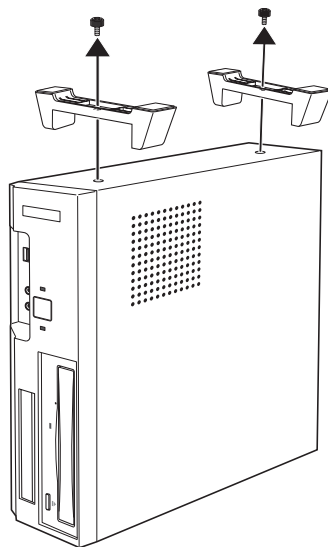
▶ 本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部にメモリや拡張ボードを装着する場合は、本体カバーを外す必要があります。

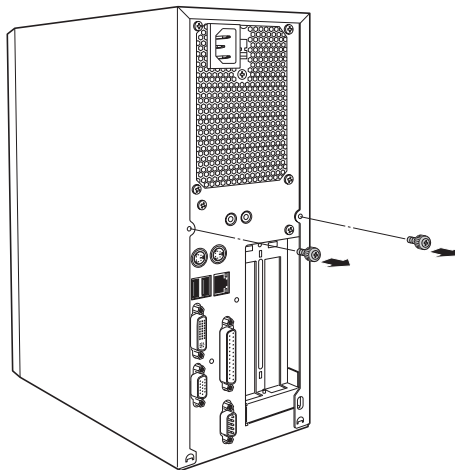
取り外し

本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

- 1** コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** 電源コード、キーボード、ケーブルなどすべてのケーブル類をコンピュータ本体から外します。
- 3** 本機を縦置きで使用している場合、5.25型ドライブ側を下にして、縦置きスタンドを取り外します。
取り外したら、5.25型ドライブ側を上にして縦置きします。

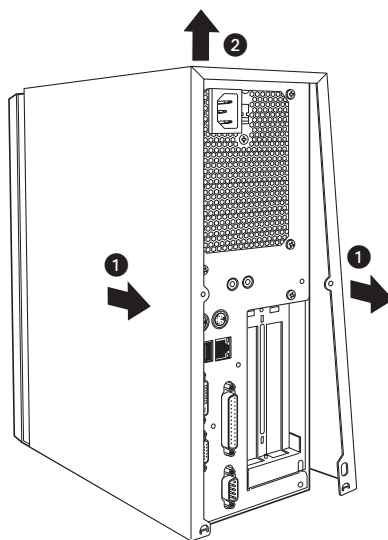


4 本機背面のネジ(2本)を外します。



5 本体カバーを取り外します。

- ❶ 本体カバーを背面側にずらします。
- ❷ 本体カバー側面の両側を持ち上げます。

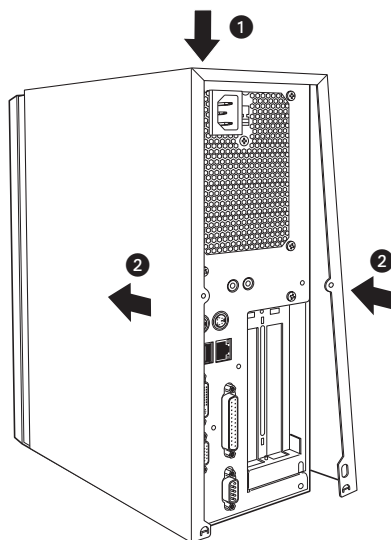


取り付け

1

本体カバーを取り付けます。

- ① 本体カバーを本体側面の両側にはめ込みます。
- ② 本体背面からフロントパネル側に向けてスライドさせます。



2

ネジ(2本)で本体カバーを固定します。

3

本機を縦置きで使用する場合は、5.25型ドライブを下にして、縦置きスタンドを取り付けます。

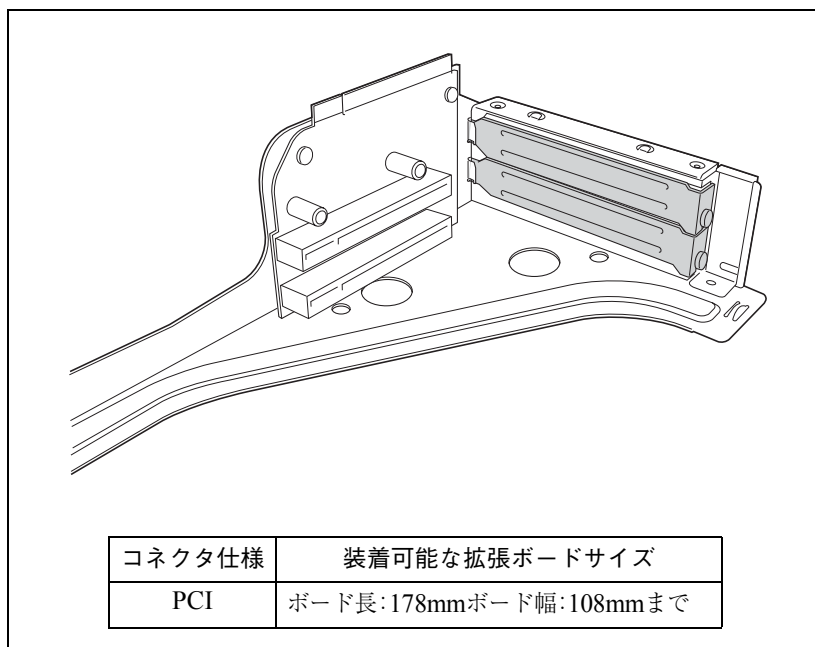
縦置きスタンドを取り付けたら、5.25型ドライブを上にして置き、取り外したケーブル類をコンピュータ本体に取り付けます。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と拡張ボードの取り付け方法について説明します。

▶ 拡張スロットの仕様


本機には、拡張スロットが2つあります。拡張スロットの仕様は、次のとおりです。

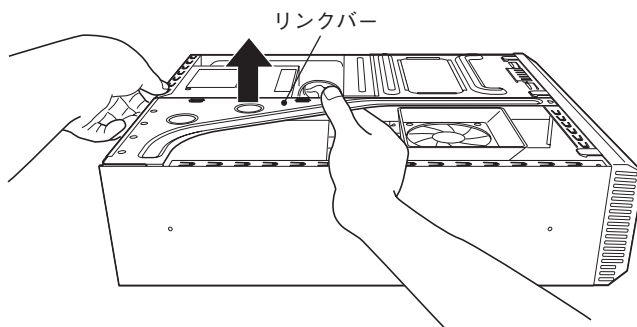


▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し

作業を始める前に「拡張ボードに添付のマニュアル」とp.121「作業時の注意」を必ずお読みください。

拡張ボードの取り付け方法は、次のとおりです。

- 1 **コンピュータ本体の電源を切ります。**
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 **本体背面に接続しているケーブル類をすべて外します。**
- 3 **本体カバーを取り外します。**
 p.122「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 **本体を横置きにします。**
- 5 **リンクバーを取り外します。**
下図のとおり hands を掛け、リンクバーを持ち上げます。このとき、周辺の部品やケースの角など、とがった部分に気を付けてください。

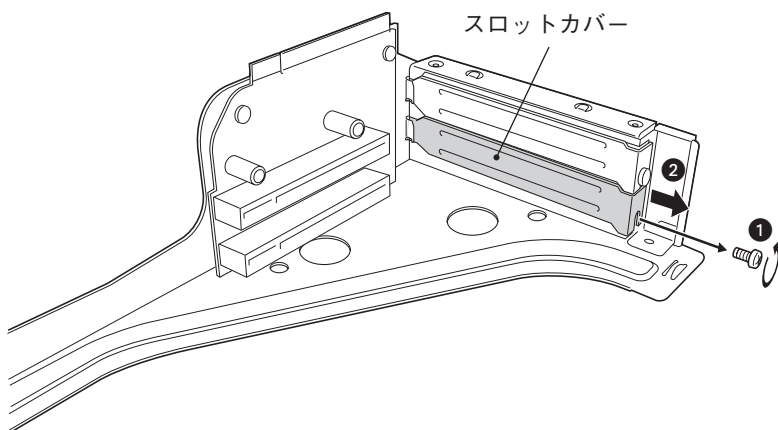


6

増設するスロットのロットカバーを取り外します。

- ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
- ② スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。

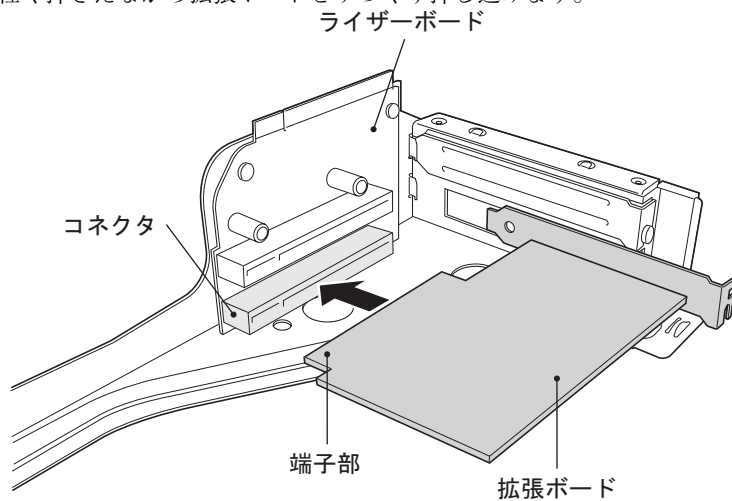
外したロットカバーは、大切に保管しておいてください。



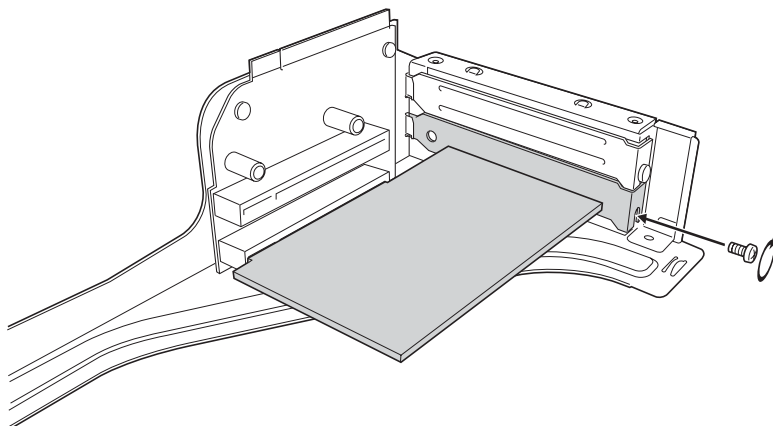
7

拡張ボードを拡張スロットに差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、ライザーボードを手で軽く押さえながら拡張ボードをゆっくり押し込みます。

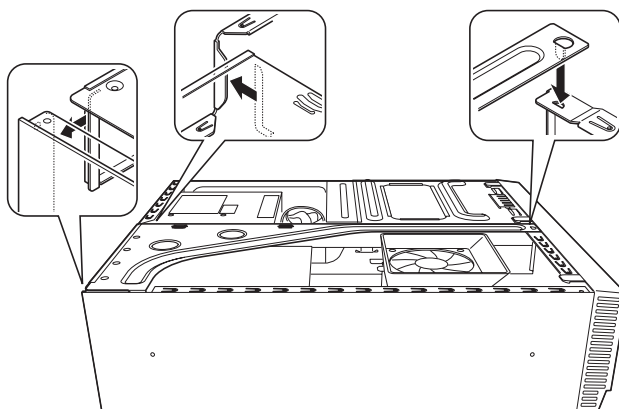


8 拡張ボードをネジで固定します。

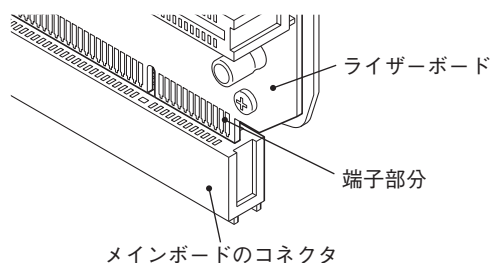


9 リンクバーを元の位置に取り付けます。

❶ 下図のとおり3ヶ所があるかを確認します。



- ② ライザーボードの端子部分が、メインボードのコネクタの位置にあるか確認します。



- ③ リンクバーを押し込みます。

10

本体カバーを取り付けます。



p.124「取り付け」

11

コンピュータを使用できるように、取り外した本体背面のケーブル類を接続します。

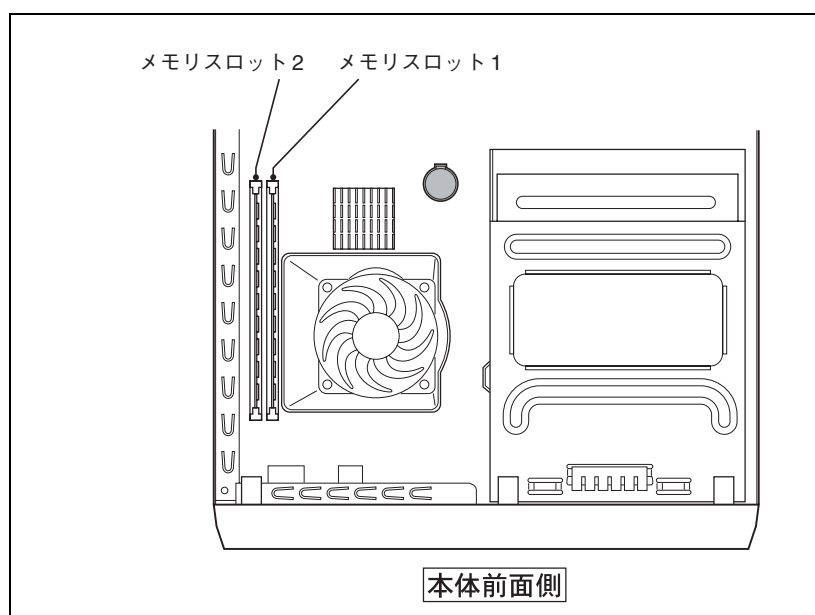
メモリの増設

本機で使用可能なメモリの仕様とメモリの取り付け方法について説明します。

▶ メモリの仕様

本機には、2つのメモリスロットが用意されており、メモリを交換・増設することにより最大2GBまで拡張できます。

メモリはメモリスロット1から取り付けます。購入時には、メモリスロット1にあらかじめメモリが取り付けられています(容量は、購入時のシステム構成により異なります)。



メモリの増設

メモリの増設作業中は、コンピュータ内部の精密部品に触れる可能性があります。十分に注意して作業を行ってください。弊社では、お客様に代わってメモリモジュールの増設作業を行っています(有償)。

増設をご希望の場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

メモリを増設する場合は、下記仕様と一致するメモリを、弊社のオプション一覧より選択してください。

- PC3200 DIMM(DDR400 SDRAM使用、184ピン)
- メモリ容量 128MB、256MB、512MB、1024MB
- Non ECC



今後、新しい容量のメモリを取り扱う場合があります。

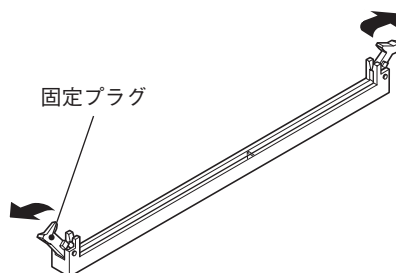
最新のオプション一覧は、ホームページに掲載しています。ホームページのアドレスは『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

▶ メモリの取り付け・取り外し

作業を始める前にp.121「作業時の注意」を必ずお読みください。メモリの取り付け方法は次のとおりです。

取り付け

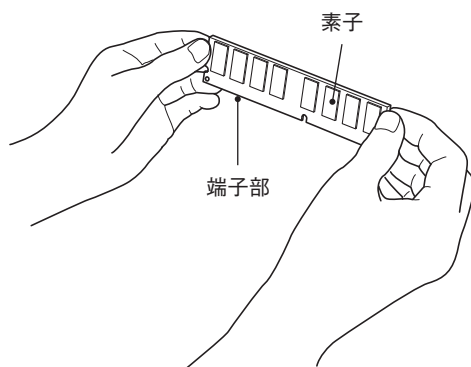
- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体カバーを取り外します。
 p.122「取り外し」
- 4 本体を横置きにします。
- 5 リンクバーを取り外します。
 p.126「拡張ボードの取り付け・取り外し」手順5
- 6 メモリスロットの固定プラグを開きます。



7

メモリを静電気防止袋から取り出します。

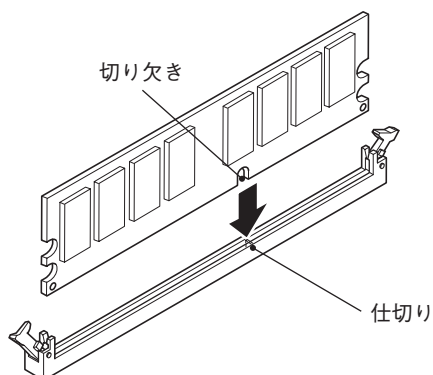
メモリの端子部や素子に触れないように注意します。



8

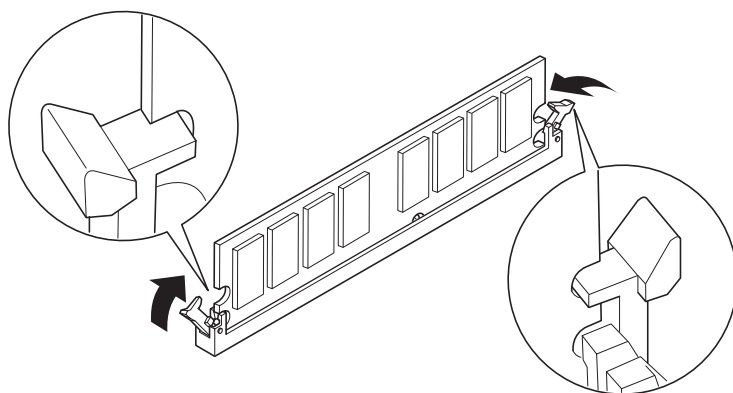
メモリスロットにメモリを差し込みます。

① メモリの切り欠きをメモリスロット内の仕切りに合わせます。




- ② さらに押し込むと、カチッと自動的に固定プラグが閉じて、メモリが固定されます。


必ず、メモリが固定されたことを確認してください。



9 リンクバーを取り付けます。

 p.128「拡張ボードの取り付け・取り外し」手順9

10 本体カバーを取り付けます。

 p.124「取り付け」

11 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

12 メモリ容量を確認します。

- ① コンピュータの電源を入れたら **[Delete]** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.139「BIOS Setupユーティリティの操作」

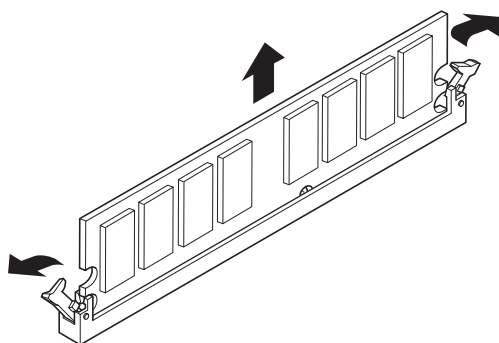
- ②「Main」メニュー画面－「System Information」－「System Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。

装着したメモリの容量だけメモリ容量が増えていればメモリは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください(本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、メモリ容量は、メインメモリからビデオメモリを引いた値が表示されます)。

メモリの外し方

1

メモリの両端を固定している固定プラグを開き、メモリを静かに取り外します。



2

取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。



BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- ネットワーク機能を無効にする場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切っても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.211「リチウム電池の交換」




制限

- 「BIOS Setupユーティリティ」で設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値(初期値)と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.156「BIOSの設定値」

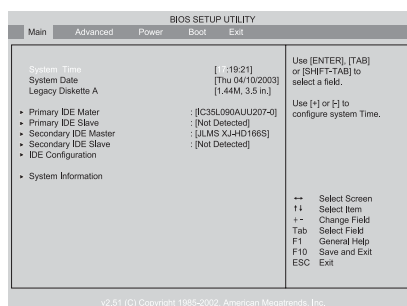
- BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」(初期値に戻す)を実行してください。

 p.142「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

▶ BIOS Setupユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます。
すでにコンピュータが起動している場合は再起動します。
- 2 コンピュータの起動直後、黒い画面の中央にロゴが表示されたら、すぐに **[Delete]** を押します。
Windowsが起動してしまった場合は、再起動し直してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、コンピュータの電源を入れたら、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to Run SETUP

このメッセージが表示されたら **[F1]** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常はそのまま「Exit & Save Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.144 「BIOS Setupユーティリティの終了」

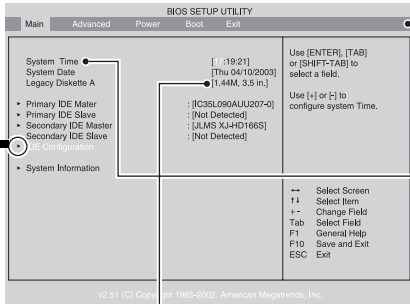
BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。
操作は、次の順番で行います。

- ① 「処理メニュー」を選択 → ② 「設定項目」を選択 → ③ 「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。各設定項目の説明は、p.145「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

<メニュー画面>

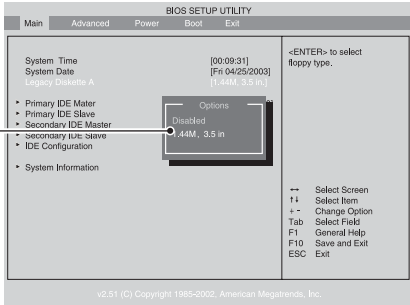


① 「処理メニュー」を選択
→ ← で変更します。
起動直後は、「Mainメニュー画面」が表示されています。

② 「設定項目」を選択
青字表示されていると選択可能です。
↑ ↓ で変更します。
選択された項目は白字表示になります。

③ 「設定値」を選択
青字表示されていると、設定変更可能です。
+ - を押すと値が変わります。
← を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

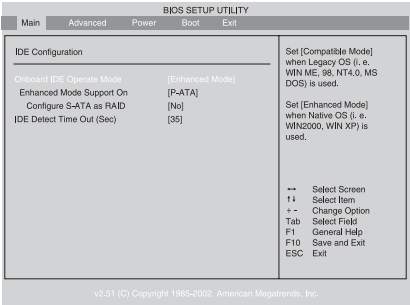
<選択ウィンドウ>



選択ウィンドウ内の設定値を ↑ ↓ で変更し、← で設定します。
















▶ マークの付いている設定項目を選択して ← を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>



「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと<メニュー画面>に戻ります。

キー操作


キー	操作できる内容
	ヘルプを表示します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変更した内容を破棄し、終了するかどうかを確認するメッセージを表示します。 ・ 「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
 , 	設定を変更する項目を選択します。
 , 	処理メニューを選択します。
 , 	項目の値を変更します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ・ 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・ 設定値を選択します。
	全設定項目の値を、初期値に変更できます。
	変更した設定値を保存して終了します。
 , 	画面の中の最初の項目に移動します。
 , 	画面の中の最後の項目に移動します。



▶ 設定値をもとに戻すには

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、「BIOS Setupユーティリティ」の設定を前回保存した値や初期値に戻すことができます。

Load Setup Defaults(初期値に戻す)

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を、BIOSの初期値に変更します。

- 1 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults	
[OK]	[Cancel]
- 2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[OK]を選択してを押します。変更しない場合は[Cancel]を選択してを押します。

次のような場合は、Load Setup Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。


- サウンドボードをお使いの場合
メインボード上のサウンド機能を無効にするため、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard AC'97 Audio」を「Disabled」に設定する。
- ネットワークボードをお使いの場合
メインボード上のネットワーク機能を無効にするため、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard LAN」を「Disabled」に設定する。
- FDDを搭載していないモデルをお使いの場合
「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」を「Disabled」に設定する（「Disabled」に設定しないと、コンピュータが正常に起動しません）。

Discard Changes(前回保存した設定値に戻す)

「BIOS Setupユーティリティ」を終了することなく、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes?	
[OK]	[Cancel]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[OK]を選択して  を押します。

▶ BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2通りの方法があります。

Exit & Save Changes(変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

- 1 **[F10]**を押す、または[Exit]メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit now?	
[OK]	[Cancel]
- 2 変更した設定値を保存して終了する場合は[OK]を選択し、**[↵]**を押します。

Exit & Discard Changes(変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

- 1 **[Esc]**を押す、または[Exit]メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard configuration changes and exit now?	
[OK]	[Cancel]
- 2 変更した設定値を保存せずに終了する場合は[OK]を選択し、**[↵]**を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。「BIOS Setupユーティリティ」のメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Main メニュー画面 : 日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Powerメニュー画面 : 省電力機能に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態、パスワードの設定などを行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

▶ Mainメニュー画面

Mainメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

は初期値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)時間の設定		時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定		日付を設定します。
Legacy Diskette A(FDDの設定)		接続しているFDDのタイプを選択します。 Disabled : FDD未接続の場合(またはUSB FDDをお使いの場合) 1.44M、3.5in: 3.5型1.44MB対応FDD
Primary IDE Master Primary IDE Slave Secondary IDE Master Secondary IDE Slave (IDE装置の設定) ※表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。 IDE装置の仕様を設定します。	*Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA(Logical Block Addressing)をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	IDE装置の転送モードを表示します。
	*Async DMA	IDE装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*SMART Monitoring	S.M.A.R.T(Self Monitoring Analysis and Reporting Technology)をサポートしているかどうかを表示します。
	Type	IDE装置の仕様を設定します。 Not Installed: IDE装置を使用しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。
	LBA / Large Mode	LBA(Logical Block Addressing)を使用するかどうかを表示します。 Auto : LBAを使用します。 Disabled: 使用しません。
	Block (Multi-Sector Transfer) Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。 Disabled: 使用しません。 Auto : BIOSが自動的に最適な速度に設定します。
	PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。 Auto : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4: 転送モードを設定します。
	DMA Mode	IDE装置のDMA転送モードを設定します。 Auto: BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0 / SWDMA1 / SWDMA2 / MWDMA0 / MWDMA1 / MWDMA2 / UDMA0 / UDMA1 / UDMA2 / UDMA3 / UDMA4 / UDMA5
	SMART Monitoring	初期値[Disabled]のまま使用します。
	32Bit Data Transfer	初期値[Disabled]のまま使用します。

System Information 本機の仕様を表示します。	AMI BIOS	BIOSの情報を表示します。
	*Version	BIOS のバージョンを表示します。
	*Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
	Processor	本機に搭載されているCPUの情報を表示します。
	*Type	本機に搭載されているCPU のタイプを表示します。
	*Speed	本機に搭載されているCPU の周波数を表示します。
	*Count	本機に搭載されているCPU の数です。
	System Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。
	*Size	本機に搭載されているメモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。表示された値は、装着されたメモリ容量からビデオメモリ容量を引いた値です。

▶ Advancedメニュー画面

Advancedメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

は初期値

*印は項目表示のみ

USB Configuration USBコントローラの設定をします。	*Module Version	USBのバージョンを表示します。
	*USB Devices Enabled	接続されているUSB機器を表示します。
	USB Function	初期値[4 USB Ports]のまま使用します。
CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	*Manufacturer	メーカーを表示します。
	*Brand String	型番を表示します。
	*Frequency	周波数を表示します。
	*FSB Speed	バス・スピードを表示します。
	*Cache L1	CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	*Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	*Cache L3	CPUのL3キャッシュ容量を表示します。
	*Ratio Status	CPUクロックの設定を表示します。
	*Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
	Hyper Threading Technology	ハイパー・スレッディング機能の有効/無効を設定します。 ハイパー・スレッディング機能を持つPentium4プロセッサを搭載しているモデルに表示されます。 Enabled :有効にします。 Disabled :無効にします。
Chipset メインボード上の機能に関する設定をします。	DRAM Frequency	メモリの周波数を設定します。 266Mhz/320Mhz/400Mhz :メモリがサポートしている周波数です。 Auto :自動的に最適な周波数に設定されます。
	Configure DRAM Timing by SPD	DRAM SPDに従うか、または手動でDRAMタイミングパラメータを使用するかどうかを設定します。初期値[Enabled]のまま使用します。
	Graphics Aperture Size	初期値[64M]のまま使用します。

Onboard Devices Configuration メインボード上のデバイスに関する設定をします。	OnBoard AC'97 Audio	メインボード上のサウンド機能を使用するかを設定します。 サウンドボード使用時は、[Disabled]に設定します。 Auto : 使用します。 Disabled: 使用しません。
	Onboard LAN	メインボード上のネットワーク機能を使用するかを設定します。ネットワークボード使用時は、[Disabled]に設定します。 Enabled: 使用します。 Disabled: 使用しません。
	OnBoard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled: リモートブート機能を無効にします。 Enabled : リモートブート機能を有効にします。
	Serial Port1 Address	シリアルポートのアドレスとIRQ 信号を設定します。 Disabled: シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled: パラレルポートを使用しません。 378, 278, 3BC
	Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 Bi-Directional: EPP+ECP モードまたは双方向モードに設定します。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します。
	EPP Version	「Parallel Port Mode」で[EPP]を選択すると表示されます。 初期値[1.9]のまま使用します。
	ECP Mode DMA Channel	「Parallel Port Mode」で[ECP]を選択すると表示されます。 初期値[DMA3]のまま使用します。
PCIPnP PCIPnP に関する設定をします。	Parallel Port IRQ	パラレルポートが使用するIRQを設定します。 IRQ7, IRQ5
	Plug And Play O/S	PCIスロットのリソース管理方法を設定します。 初期値[No]のまま使用します。

▶ Powerメニュー画面

Powerメニュー画面では、パワーマネジメント(省電力)の設定を行います。

Powerメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
*印は項目表示のみ

Suspend to RAM		スタンバイモードをSuspend to RAMで行うかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
ACPI APIC support		初期値[Enabled]のまま使用します。
Power Up Control (起動方法の設定) 起動する方法や条件を設定します。	Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Last State : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後に電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
	Power On By PCI Devices	電源切断時、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。
	Power On By RTC Alarm	セットした日時に、自動的に起動するかどうかを設定します。ただし、分電盤やOAタップなどにより、本機の電源供給をいったん切断して再度供給した場合は、正常に動作しない場合があります。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
		RTC Alarm Date : 自動的に起動する日にちをセットします。 「Every Day(毎日)」をセットすることもできます。
		RTC Alarm Hour: 自動的に起動する時間(時)をセットします。
		RTC Alarm Minute: 自動的に起動する時間(分)をセットします。
		RTC Alarm Second: 自動的に起動する時間(秒)をセットします。

▶ Bootメニュー画面

Bootメニュー画面では、起動するドライブの順番やパスワードに関する設定を行います。

「Boot Device Priority」の初期設定は、FDDを搭載していない場合、「5.25型ドライブ」、「HDD」の順番です（FDDを搭載している場合は、「FDD」、「5.25型ドライブ」、「HDD」の順になります）。

「Boot Device Priority」の初期設定はシステムの構成により異なります。HDDや5.25型ドライブは、それぞれPM-XXXXXX、SM-XXXXXXのように表示されます（PMはPrimary Master、SMはSecondary Masterの略でXXXXXXには装置の名称が入ります）。

ドライブを選択して **+** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。



ドライブを選択して **-** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

Bootメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
*印は項目表示のみ

システムを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。FDDを搭載している場合の初期値は「1st FLOPPY DRIVE」、USB FDDを接続している場合の初期値は、「USB FDD」です。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。FDDを搭載またはUSB FDDを接続している場合の初期値は、接続されている5.25型ドライブの型番です。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。FDDを搭載またはUSB FDDを接続している場合の初期値は、接続されているHDDの型番です。
	4th Boot Device [※]	ネットワークから起動する場合に使用します。OnBoard LANのリモートブート機能を有効にすると表示されます。
Hard Disk Drives	Hard Disk Drives 1st Drive 2nd Drive	HDDを2台以上装着すると型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。
Removable Drives	1st Drive 2nd Drive	外付けの記憶装置(USB FDD など)を接続すると型番を自動的に検出して表示します。接続した記憶装置を使用するかどうかを設定します。 外付けの記憶装置: 外付け記憶装置を使用します。 Disabled: 外付け記憶装置を使用しません。
システム起動時の設定をします。	Full Screen Logo	コンピュータの起動時に、ロゴを表示するかどうかを設定します。 Enabled: ロゴを表示します。 Disabled: ロゴを表示しません。
	Bootup Num-Lock	起動時のNumLockの状態を設定します。 Off: NumLock が押されていない状態にします。 On: NumLock が押された状態にします。

[※]「Advanced」メニュー画面-「Onboard Devices Configuration」で「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定し、再起動すると表示されます。

Security システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。	*Supervisor Password/User Password	Supervisor Password (管理者用パスワード)とUser Password (ユーザーパスワード)が設定されているかどうかを表示します。 Installed :パスワードが設定されています。 Not Installed :パスワードが設定されていません。
	Change Supervisor Password	管理者用パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setup ユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	User Access Level[※]	「Supervisor Password」(管理者パスワード)を設定すると表示されます。 ユーザーパスワードを使用するユーザーの「BIOS Setup ユーティリティ」での権限を設定することができます。(4段階) No Access :ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティ」を起動することができません。 View Only :ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。(一部閲覧できない項目もあります) Limited :ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティ」を閲覧できるほかに、「日付」と「時間」のみ変更できます。(一部閲覧できない項目もあります) Full Access :ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。BIOSセッアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
	Change User Password[※]	ユーザーパスワードを設定します。「BIOS Setup ユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	Clear User Password[※]	ユーザーパスワードを削除します。  を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
	Password Check[※]	管理者用パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup :BIOS Setup ユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 Always :BIOS Setup ユーティリティ起動時、システム起動時、省電力モードから復帰時にパスワード入力を要求します。

※これらの項目は、「Change Supervisor Password」で管理者用パスワードを設定すると表示されます。

Passwordの設定


システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時などのパスワードに関する設定を行います。

パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時または「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないとコンピュータを使用することができません。


管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更


管理者パスワード、およびユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。


ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。

- 1 「[Change Supervisor Password]」または、「[Change User Password]」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。


Enter Password:

- 2 パスワードを入力し、 を押します。
「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは6文字まで入力可能です。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not Match!」というメッセージが表示されます。[OK]が選択された状態で  を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。


Confirm Password:


- 4 「Password Installed.」というメッセージが表示されたら、[OK]が選択された状態で  を押します。
- 5 パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。




登録したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは、書き写して保管しておくことをおすすめします。
万一、パスワードを忘れた場合は、p.215 「CMOS RAMの初期化」を実行します。

管理者パスワードの削除


- 1 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。


Password uninstalled.

[OK]
- 3 「OK」が選択された状態で  を押します。「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでパスワードが削除されます。
管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

ユーザーパスワードの削除

- 1 「Clear User Password」を選択して、を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Pssword	
[OK]	[Cancel]

- 2 [OK]を選択して、を押します。「User Password」項目の表示が、「Not Installed」に変わります。これで、ユーザーパスワードが削除されます。

Exitメニュー画面

Exitメニュー画面は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。Exitメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

BIOSの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定	変更内容
USB Configuration	USB Function	Disabled 2USB Ports 4USB Ports	Disabled 2USB Ports 4USB Ports
CPU Configuration	Hyper Threading Technology	Disabled Enabled	Disabled Enabled
Chipset	DRAM Frequency	Auto 266Mhz 320Mhz 400Mhz	Auto 266Mhz 320Mhz 400Mhz
	Configure DRAM Timing by SPD	Disabled Enabled	Disabled Enabled
	Graphics Aperture Size	4MB 8MB 16MB 32MB 64MB 128MB 256MB	4MB 8MB 16MB 32MB 64MB 128MB 256MB
Onboard Devices Configuration	Onboard AC'97 Audio	Auto Disabled	Auto Disabled
	OnBoard LAN	Disabled Enabled	Disabled Enabled
	OnBoard LAN Boot ROM	Disabled Enabled	Disabled Enabled
	Serial Port1 Address	Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	Disabled 378 278 3BC	Disabled 378 278 3BC
	Parallel Port Mode	Normal Bi-Directional EPP ECP	Normal Bi-Directional EPP ECP
	Parallel Port IRQ	IRQ7 IRQ5	IRQ7 IRQ5
PCI PnP	Plug And Play O/S	No Yes	No Yes

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Suspend to RAM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
ACPI APIC support		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Power Up Control	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On Last State	Power Off	Power On Last State
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On



ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

HDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

▶ 再インストールが必要な場合


再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶ 重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

- 弊社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。
- Norton AntiVirus2004で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入してウイルス定義ファイルの更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

 『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。
- HDD上の重要なデータは、FDなどの別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。再インストールするときは、HDDをフォーマットするため、データはすべて消去されます。

- Windowsの再インストールをすることにより、「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。Windowsを再インストールしてから、インターネットに接続する際は、はじめに必ず「Windows Update」を行ってください。



p.50「Windows Updateについて」

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、ソフトウェアの再インストールの方法について記載しています。

▶ 必要なメディア

再インストールの際には、次のメディアが必要です。

- リカバリCD (Windows XPのみ)
Windows XPが登録されているCD-ROMです。
Disc1とDisc2の2枚組です。
- ドライバCD
各種デバイスドライバ、Adobe Reader、Norton AntiVirus2004が登録されているCD-ROMです。
- そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

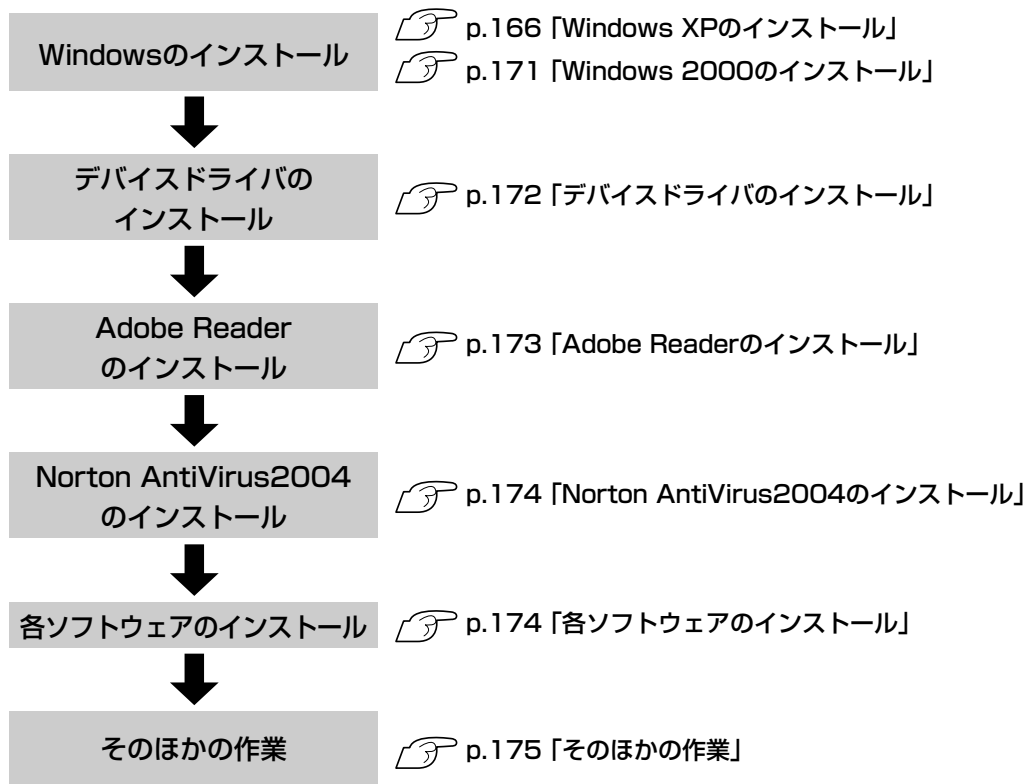


Windows 2000の再インストール

Windows 2000のリカバリCDは添付されていません。Windows 2000の再インストールは、Windows 2000のCDをご用意の上、行ってください。

▶ インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。



インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

コンピュータの管理者(Administrator)権限でログオン

インストール作業はコンピュータの管理者(Administrator)権限(または同等の権限を持つユーザーアカウント)でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。5.25型ドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ:FDD(オプション)またはUSB FDD(オプション)

Cドライブ:HDD

Dドライブ:5.25型ドライブ

入力文字

インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

Windows CD-ROMを要求されたら

デバイスドライバ類のインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。本書でなにも記載がない場合は、「リカバリCD Disc1」(Windows XPの場合)をセットしてください(Windows 2000の場合はWindows 2000のCDをご用意の上、セットしてください)。

5.25型ドライブのマニュアル

CD-ROMドライブ以外の5.25型ドライブ搭載モデルの場合、デスクトップに5.25型ドライブのPDFマニュアルが登録されていますが、Windowsの再インストールを行うと、PDFマニュアルは消去されます。再インストールの前に必要に応じて、別のメディアにバックアップを行ってください。なお、PDFマニュアルは弊社ホームページよりダウンロードすることもできます。



p.175「5.25型ドライブマニュアルのダウンロード」

メーカー情報

Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。

Windows XP : [スタート]－[コントロールパネル]－[パフォーマンスとメンテナンス]－[システム]

Windows 2000 : [スタート]－[設定]－[コントロールパネル]－[システム]

各種設定の確認

ネットワークやモデム、インターネットなどを使用している場合は、Windowsを再インストールすると、再設定が必要になります。再インストールの前に設定を書き写しておいてください。

データのバックアップ

必要に応じてInternet Explorerの「お気に入り」やOutlook Expressの「アドレス帳」、「メールデータ」のバックアップを行っておいてください。



p.98「「お気に入り」のバックアップを取る」



p.103「アドレス帳のバックアップを取る」

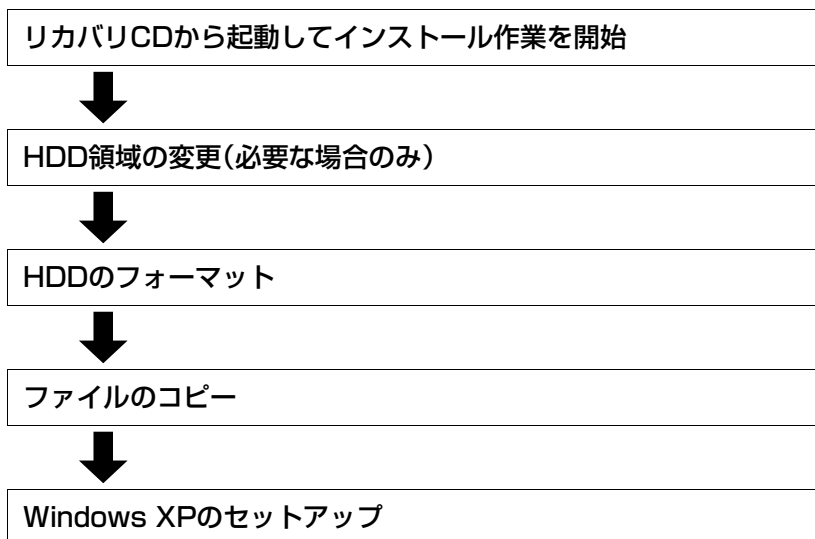


p.104「メールデータのバックアップを取る」

Windows XPのインストール

Windows XPインストールの流れ

Windows XPのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は次ページからの手順に従ってください。



HDD領域の変更

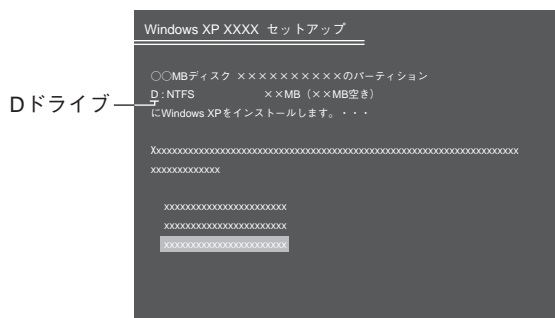
Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)のHDD領域を変更したい場合は、「Windows XPのインストール」作業中に行います。Cドライブ(Windowsをインストールする領域)は、作業中にフォーマット、インストールを行いますが、残りの領域(未設定領域)はインストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定します。

 p.206「HDD領域の作成」

Windows XPのインストール


Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

- 1 コンピュータの電源を入れ、「リカバリCD Disc1」を5.25型ドライブにセットします。
- 2 コンピュータを再起動します。
- 3 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
HDD領域が複数ある場合は手順4に、HDD領域が1つの場合は、手順5に進みます。
次の画面が表示されるまで少し時間がかかります。
- 4 HDDを分割している場合は、次の画面が表示されます。この場合は、必ず **Esc** を押します。













上の画面で **Esc** を押さないとDドライブにWindowsがインストールされ、Dドライブに登録されているデータは消えてしまうので注意してください。必ず **Esc** を押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。

「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。






HDD領域を変更しない場合は、Cドライブが選択されている状態で  を押します。手順6に進みます。

HDD領域を変更する場合は、Cドライブが選択されていることを確認し、 (削除)を押して、下記の手順①～⑥を行います。

<HDD領域を変更する場合>

- ① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、 を押します。
 - ② 「○○MB ディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら  を押します。
 - ③ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。
 - 一覧の中に、まだパーティション(「D」や「E」など)が存在する場合
HDD領域を変更するには、すべてのパーティションを削除する必要があります。削除したいパーティションを選択して  を押し、上記手順①～②を実行します。すべてのパーティションを削除したら、 を押して手順④に進みます。
 - 一覧の中に、「未使用の領域」の表示のみの場合
 を押して、手順④に進みます。パーティションを作成します。
 - ④ Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ(MB)」に表示されている数字を  で削除し、任意の数値を入力して  を押します。
 - ⑤ 「次の一覧にはコンピュータ上の…」と表示されたら、「C:パーティション1(未フォーマット)」を選択して  を押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。
-  p.206「HDD領域の作成」
- ⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して  を押します。
手順8に進みます。

- 6 HDDの領域が複数ある場合、「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示されますので **C** を押します。
HDDの領域が1つの場合は、上記は表示されませんので手順7に進みます。
- 7 「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFS ファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して **↵** を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、CドライブにOSが追加登録されます(OSが複数になります)。
- 8 「警告:このドライブをフォーマットすると…」と表示されたら、**F** を押します。
- 9 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にWindowsが再起動します。
- 10 「Windows XP ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。
- 11 「Windows XP セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って設定を行います。
 - ソフトウェアの個人用設定
ここでは「名前」を必ず入力してください。
 - コンピュータ名 (Windows XP Home Editionの場合)
コンピュータ名とAdministrator
のパスワード (Windows XP Professionalの場合)
コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
 - 日付と時刻の設定
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
 - ワークグループまたはドメイン名 (Windows XP Professional)
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は次の手順に進みます。
設定する際は、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従って必要事項を入力します。

- 12 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。
- 13 「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。
- 14 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の  をクリックします。
- 15 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある  (省略)をクリックします。
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。
- 16 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けて  をクリックします。
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。
- 17 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力して  をクリックします。
- 18 「設定が完了しました」と表示されたら、 をクリックします。
- 19 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、CD-ROMを取り出します。これでWindows XPのインストールは終了です。

Windows 2000のインストール

Windows 2000の場合、再インストール時に使用する、リカバリCDは添付されていません。Windows 2000の再インストールは、Windows 2000のCDをご用意の上行ってください。

HDD領域の変更

Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)のHDD領域を変更したい場合は、「Windows 2000のインストール」作業中に行います。Cドライブ以外の領域は、インストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定することもできます。

 p.206「HDD領域の作成」

デバイスドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスのドライバを一括してインストールします。

インストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を5.25型ドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「一括インストール」を選択して[開始]をクリックします。
- 3 「ご注意」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。
- 4 表示されたドライバを確認して[インストール開始]をクリックします。
インストールするドライバが自動的に検出されます。
- 5 「確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。
各ドライバが自動的にインストールされます。
インストールには数分かかります。
- 6 インストールが完了すると、自動でWindowsが再起動します。
Windows 2000の場合はこれでデバイスドライバのインストールは終了です。

Windows XPの場合は、以降の手順が必要です。
(Windows 2000の場合は必要ありません)
- 7 [スタート]-「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 8 表示された項目から[Microsoft .Net Frameworkのインストール]を選択して、[開始]をクリックします。

- 9 「インストール開始」画面で「Microsoft .Net Frameworkのインストールを開始します。」と表示されたら、[はい]をクリックします。
「インストール開始」画面が出ないときは、「マイコンピュータ」画面を移動するか、閉じてみてください。画面の下に隠れている場合があります。
インストールにはしばらく時間がかかります。
- 10 「インストール完了」画面が表示されます。[終了]をクリックします。
これでデバイスドライバのインストールは終了です。

Adobe Readerのインストール

Adobe Readerのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」を5.25型ドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、([スタート]-)[マイコンピュータ]-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から、「Adobe Readerのインストール」を選択して[開始]をクリックします。
- 3 「Adobe Reader6.0のセットアップ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「Adobe Reader6.0-Japaneseのセットアップウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 6 「プログラムをインストールする準備ができました…」と表示されたら、[インストール]をクリックします。
インストールにはしばらく時間がかかります。
- 7 「セットアップウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。これでAdobe Readerのインストールは終了です。

Norton AntiVirus2004のインストール

Norton AntiVirus2004をインストールします。本機に添付の『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』をご覧ください。

各ソフトウェアのインストール

次のソフトウェアをインストールします(CD-ROMドライブの場合、次のソフトウェアは添付されていません)。

- B's Recorder GOLD
- Win DVD

インストールは、各ソフトウェアの専用CDから行います。各ソフトウェアのインストールの方法については、各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。マニュアルは次の方法で見ることができます。

- B's Recorder GOLD

B's Recorder GOLD CD-ROMを5.25型ドライブにセットし、([スタート]-)
「マイコンピュータ」-CD-ROMアイコンを右クリック-「開く」-「BsGOLD」-
「DOC」-quick

- Win DVD

Win DVD CD-ROMを5.25型ドライブにセットし、([スタート]-)
「マイコンピュータ」-CD-ROMアイコンを右クリック-「開く」-「manual」

▶ そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域は、そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

 p.206「HDD領域の作成」

5.25型ドライブマニュアルのダウンロード



マニュアルのダウンロードを行うには、インターネットに接続できる環境が必要です。

Windowsの再インストールを行うと、デスクトップ上の5.25型ドライブ(CD-ROMドライブは除く)のPDFマニュアルは消去されます。必要に応じて、5.25型ドライブのPDFマニュアルを弊社ホームページからダウンロードしてご利用ください。

マニュアルは、5.25型ドライブの種類(型番)ごとに異なります。あらかじめ、お使いのドライブの種類をご確認の上、該当するマニュアルをダウンロードしてください。

5.25型ドライブの種類(型番)の確認は本機のドライバCDに登録されている「5.25型／スリムドライブの型番検索」ツールを使用します。ツールでは、弊社ホームページからダウンロード用サイトを表示するまでの方法も案内しています。

「5.25型／スリムドライブの型番検索」ツールを実行する手順は、次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を5.25型ドライブにセットします。
「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示された場合は、「終了」をクリックして画面を閉じてください。
- 2 [スタート]－「ファイル名を選択して実行」をクリックします。
- 3 名前に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥DRIVE¥CHECK
(5.25型ドライブがDドライブの場合)
- 4 以降は、画面の指示に従ってください。

SBSIのインストール(Windows XPのみ)

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「SBSI(ステップバイステップインタラクティブ)」をインストールします。



インストール中に「悪質なスクリプトを検出しました」と表示された場合には Norton AntiVirus2004がインストールされている場合、インストール中に「悪質なスクリプトを検出しました」と表示されることがあります。このような場合は、表示された画面の「処理」欄から、「スクリプト全体を1回許可する」を選択して、インストール作業を続行してください。

インストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc2」を5.25型ドライブにセットします。
- 2 [スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
(5.25型ドライブがDドライブの場合)
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 6 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 「この登録情報は正しいですか？」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
- 8 「セットアップが完了しました。…」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら右上にある☑をクリックします。
- 10 Windowsを再起動します。Windowsが再起動したら、SBSIのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いのシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、オプション類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、オプション類に添付のマニュアルをご覧ください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お使いのシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- FAXモデムボードを使用する場合 : FAXモデムドライバ
- SCSIボード・SCSI機器を使用する場合 : SCSI ドライバや SCSI ユーティリティなど
- USB対応機器を使用する場合 : 機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合 : プリンタに添付のドライバ

Windows Update

本機をインターネットに接続する場合は、本機を快適に使用するために「Windows Update」を行ってください。



p.50「Windows Updateについて」



こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。



ホームページのサポート情報について

弊社ホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章とあわせてご覧ください。アドレスは『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。


▶ コンピュータ本体の不具合



電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象 起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

- 電源コードが正しく接続されているか確認します。
 p.39「電源コードの接続」
- コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。
- 電源コード、コンセントに問題がない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

現象 起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。


確認と対処

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

- コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。


Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **[Delete]** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常はそのまま「Exit & Save Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。


 p.139「BIOS Setupユーティリティの操作」

[F1] を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

- ACPI Suspend to RAMを「Enabled」にしてスタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しなくなります。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度電源を入れ直してください。
- 起動時の自己診断テスト終了後(Windowsの起動中)に警告メッセージが表示される場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、担当窓口までご連絡ください。
- 起動時に警告メッセージが表示される場合には、メッセージ内容を確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアやソフトウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、担当窓口までご連絡ください。

 p.201「警告メッセージが表示されたら」

- ビープ音(警告音)が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストで異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、担当窓口までご連絡ください。
- BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

 p.142「設定値をもとに戻すには」

- BIOSを初期値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。


 p.215「CMOS RAMの初期化」


現象 起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.153「Passwordの設定」

- パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。

 p.58「キーボードを使う」

- パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.215「CMOS RAMの初期化」

現象 起動時に次のようなメッセージが表示されて Windows が起動しない。

- ・ DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- ・ Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- ・ Operating system not found





確認と対処

- システムが登録されていないFDがFDD(またはUSB FDD)にセットしている場合は、FDを抜いて、どれかキーを押してください。
- USB フラッシュメモリなどの周辺機器を USB コネクタに接続している場合は、一旦電源を切って周辺機器を取り外してから、再度電源を入れてください。

現象 ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処


- タスクマネージャで応答のないプログラムを終了させます。
応答のないプログラムを終了させる手順は、次のとおりです。

- 1  +  +  を押します。
- 2 「Windows のセキュリティ」画面が表示されたら、「タスクマネージャ」をクリックします。
- 3 「Windows タスクマネージャ」画面－「アプリケーション」タブで、「応答なし」と表示されているタスクを選択して、[タスクの終了]をクリックします。
プログラムが終了します。
- 4 画面右上のをクリックして、「Windows タスクマネージャ」を終了します。

- 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってください。
- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。このあと、20秒程待つてから、電源を入れなおします。電源を入れても起動しない場合は、本機背面の電源コードを抜いて、1分待つてから差しなおし、再度電源を入れなおしてください。

現象 「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。
 p.211「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない。



- 確認と対処**
- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
 - 省電力モードから復帰できない場合は、**[Ctrl] + [Alt] + [Delete]**を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
 - 省電力モード時に PC カードを抜き差しすると、正しく復帰できません。**[Ctrl] + [Alt] + [Delete]**を押して、本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存データは、すべて消失します。


現象 BIOSでSuspend to RAMを「Enabled」にしてスタンバイを実行しているが、正しく機能しない。

- 確認と対処**
- スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しなくなります。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。
 - 相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。「Disabled」にしてスタンバイを実行してください。
 - 「Enabled」設定時のスタンバイが正常に動作していた場合に、設定値を「Disabled」に変更してスタンバイを実行すると「Enabled」に設定し直したときに正常に動作しなくなる可能性があります。正常に動作させるには、「Enabled」にしてリカバリを実行してください。

▶ キーボードの不具合


現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 ● 数値キーは  の状態により機能が変わります。 を押してオンの状態にします。

 p.58「キーボードを使う」

現象 どのキーを押しても応答がない。

確認と対処 ● キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.37「キーボードの接続」

● マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。

● アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

● プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。

 p.55「ハングアップしたときは」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 ● 直接入力モードで日本語を入力することはできません。

● Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。次のキーボードが選択されているか確認します。

101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

確認方法は、次のとおりです。

Windows XP : [スタート]－[コントロールパネル]－[プリンタとその他のハードウェア]－[キーボード]をクリック

Windows 2000 : [スタート]－[設定]－[コントロールパネル]－[キーボード]アイコンをダブルクリック

マウスの不具合

現象 マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。


確認と対処 ● マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.38「マウスの接続」

● キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。


● アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

● プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。

 p.55「再起動」

現象 Windows 上やアプリケーションソフトでマウスポインタが表示されない。


確認と対処 ● マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.38「マウスの接続」

● MS-DOS アプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象 マウスポインタの動きが悪い。


確認と対処 ● マウスのクリーニングを行ってください。

 p.204「マウスのお手入れ」

▶ ディスプレイの不具合



現象 起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイの接続コードが正しく接続されているか確認します。本機で利用できるディスプレイの接続コネクタは次のとおりです。
アナログ(VGA)方式ディスプレイの場合:VGAコネクタ
デジタル(DVI-D)方式ディスプレイの場合:DVI-Dコネクタ
 p.35「ディスプレイの接続」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- ビープ音(警告音)が鳴った場合は、起動時の診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

現象 使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

- ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してみてください。
 p.106「省電力機能を使う」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。詳しくはディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認してください。
 p.30「コンピュータの設置」
- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売元にご確認ください。

現象 画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

- 確認と対処**
- ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。
 - 使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動し直してみてください。

Windows XPの場合

Windows XPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows XPを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 ロゴが表示され、消えた直後に **F8** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
F8 を押すタイミングがずれて、「Please select boot device:」という画面が表示された場合は、**↓** を押して「PM-XXXXXX」(HDD)を選択し、**←** を押した直後に **F8** を押してください。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」と表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←** を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

Windows 2000の場合

Windows 2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows 2000を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows 2000の問題解決と拡張オプションについては、F8キーを押してください。
- 3 「Windows 2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←** を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

FDD(オプション)・USB FDD(オプション)の不具合

現象 FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

- USB FDDの場合、USBコネクタが、コンピュータに正しく接続されているか確認してください。
- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A: ¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]


ディスクの挿入
A: ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。フォーマットされていない場合は、フォーマットを行ってください。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

- 別のFDで読み書きを行ってみてください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。
- 内蔵FDDをお使いの場合、「BIOS Setupユーティリティ」-「Mainメニュー画面」-「Legacy Diskette A」が「1.44 M, 3.5 in.」となっているか確認してください。
USB FDDをお使いの場合は、「BIOS Setupユーティリティ」-「Mainメニュー画面」-「Legacy Diskette A」が「Disabled」ととなっているか確認してください。

現象 FDに書き込みできない。

確認と対処 ● ライトプロテクトされていないか確認します。
 p.65「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象 FDDから異常な音がする。


確認と対処 ● 『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

HDDの不具合

現象 HDD 容量が Windows 上で、マニュアルに記載されている容量と異なって表示される。


確認と対処 ● 本機に搭載されている HDD 容量を Windows 上で確認すると、マニュアルに記載されているHDD容量より少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」(0と1の2つの数字を用いる表記法)を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」(0～9の数字を用いる表記法)を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB(キロバイト)は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処 ● HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
 p.146「Mainメニュー画面」


現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処

- ファイルのデータが破損しているおそれがあります。HDD のメンテナンスユーティリティなどを実行してください。
- 上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、ソフトウェアの再インストールを実行してください。
 p.159「ソフトウェアの再インストール」
- 実行しても改善されない場合には『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

現象 HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- 起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
 p.151「Bootメニュー画面」

5.25型ドライブの不具合

現象 セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか確認してください。
- メディアを挿入した直後、5.25 型ドライブアクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面に傷などがないか確認してください。
- コンピュータに添付されていたCD-ROM(データが登録されているCDなど)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- セットしたメディアが書き込み済みの場合、5.25 型ドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。
- メディアのフォーマット形式が対応していない可能性があります。お使いの5.25型ドライブで利用できるフォーマット形式を確認してください。




『5.25型ドライブPDFマニュアル』



『B's Recorder GOLDユーザーズマニュアル』

現象 メディアをセットすると画面が開いてしまう。



確認と対処

- セットしたCD-ROMなどのメディアに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。メディアに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や、をクリックして、画面を閉じます。その後、「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、「開く」を選択します。

現象




メディアへの書き込みができない。

確認と対処

- CD-ROMドライブでは、メディアへの書き込みはできません。
- 書き込み機能のある 5.25 型ドライブで書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。書き込み機能のある 5.25 型ドライブを選択された場合、購入時には、「B's Recorder GOLD」がインストールされています。
メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『B's Recorder GOLD ユーザーズマニュアル』を参照してください。
 p.80「B's Recorder GOLDの使い方」
- Windowsが省電力モードに切り替わると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力機能を無効にしてください。
 p.112「省電力機能を無効にする」
- お使いの 5.25 型ドライブ対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。対応メディアは 5.25 型ドライブの PDF マニュアルを参照ください。
- メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。
- メディアの表面に汚れや傷などがないか、確認してください。
- メディアの残量があるか確認してください。
- ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。
- 5.25 型ドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。


現象 DVDの再生ができない。

確認と対処

- CD-ROMドライブをお使いの場合、DVDの再生はできません。
- DVD再生機能のある5.25型ドライブで、DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。DVD再生機能のある5.25型ドライブの場合、「Win DVD」が購入時にインストールされています。
DVD VIDEO再生に関する不具合については、WinDVD CD-ROMに登録されている『Win DVDユーザーズマニュアル』を参照してください。
 p.77「DVDメディアの読み込み・再生」
- 解像度や色数、リフレッシュレートを変更してみてください。
 p.84「解像度や表示色を変更するには」
 p.87「リフレッシュレートの変更方法」


現象 DVDの再生が不安定になる。

確認と対処


- Win DVDを起動して、「セットアップ」-「ビデオ」タブ-「ビデオハードウェア構成」の「ハードウェアデコードアクセラレーション使用」と「ハードウェアカラーアクセラレーション使用」のチェックを外してみてください。詳しくは『WIN DVDユーザーズマニュアル』をご覧ください。
 p.77「DVDメディアの読み込み・再生」

現象 オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処 ● ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル 0」に設定されていないか確認します。

 p.88「サウンド機能を使う」

● 外付けスピーカを接続する際に、内蔵スピーカの設定を行った場合、設定が消音になっている可能性があります。消音設定を解除してください。

 p.218「外部スピーカを接続する際の設定」

● 外部スピーカを接続していて、外部スピーカから音が出ない場合は、本機背面のライン出力コネクタに正しく接続しているか、また、サウンドボードをお使いの場合は、サウンドボードのライン出力コネクタに接続しているか、確認します。外部スピーカのスイッチが入っているか、ボリュームの調節は適切かも確認してください。

現象 セットしたメディアが取り出せない。

確認と対処 ● コンピュータの電源が入っているか、確認してください。

アプリケーションソフトの不具合

現象 アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

- 確認と対処**
- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。
 - ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、もしくは、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
 - HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。


現象 アプリケーションソフトが起動しない。

- 確認と対処**
- アプリケーションソフトの起動に必要なシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。
 - アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
 - 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDや5.25型ドライブなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
 - アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトは正式版を使用してください。
 - アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

▶ メモリの不具合

現象 メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違う。

確認と対処 ● 本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、起動時のメモリチェックやWindows上で表示されるメモリ容量は、メインメモリからビデオメモリを引いた値が表示されます。BIOS Setupユーティリティを起動し、「Main」メニュー画面－「System Information」－「System Memory」で総メモリ容量を確認してください。

 p.139「BIOS Setupユーティリティの操作」

- メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 購入時から不具合がある場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。なり、担当窓口までご連絡ください。

▶ インストール時の不具合

現象 インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処 ● 本書では、インストール手順中の5.25型ドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。5.25型ドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。5.25型ドライブのドライブレターを確認してください。5.25型ドライブのドライブレターは、「マイコンピュータ」で確認できます。

● 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定と、システム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

● 本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。なり、担当窓口までご連絡ください。

● インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象 起動時に、OSを選択する画面が表示される(OSが2つになってしまっている)。

確認と対処 ● p.166 「Windows XPのインストール」の手順4で、**[Esc]** を押さずにCドライブ以外のドライブを選択してしまったり、手順5で、Cドライブ以外のドライブを選択してしまった場合、そのドライブにWindows XPがインストールされてしまい、OSが2つになってしまいます(Cドライブに1つ、他ドライブに1つという状態)。この場合は、Windows XPのインストールを行い、OSの入っているドライブをフォーマットしてください。手順4では**[Esc]** を押し、手順5では、Windows XPがインストールされている、Cドライブ以外のドライブを削除し、再度CドライブにWindows XPをインストールしてください。

 p.166 「Windows XPのインストール」

- p.166 「Windows XPのインストール」の手順7で「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、OSが追加登録されてしまいます(CドライブにOSが2つという状態)。OSが2つになってしまった場合は、Windows XPのインストールを行い、Cドライブをフォーマットしてください。手順7では、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択してください。

 p.166 「Windows XPのインストール」

現象 リカバリ CD を入れても Windows の再インストールが開始されない。

確認と対処 ● 5.25 型ドライブのブートの順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、ブートの優先順位を変更してください。

 p.151 「Bootメニュー画面」

拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合

現象 拡張ボード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処 ● 増設した機器が、対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

- 増設した機器のジャンプスイッチやディップスイッチの設定をした場合は、設定が正しいかどうか確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張ボードで重複して設定していると、コンピュータは正しく動作しないことがあります。詳細は拡張ボード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

IRQ信号やDMAがどのように設定されているかは、[デバイスマネージャ]で確認できます。

[デバイスマネージャ]の開き方は次のとおりです。

Windows XP : [スタート]―[コントロールパネル]―[パフォーマンスとメンテナンス]―[システム]―[ハードウェア]タブ―[デバイスマネージャ]

Windows 2000 : [スタート]―[設定]―[コントロールパネル]―[システム]―[ハードウェア]タブ―[デバイスマネージャ]

- 周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。
- 拡張ボードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要なものがあります。拡張ボードのマニュアルを確認してください。
- 拡張ボードを使用するためのユーティリティソフトウェアが正しく実行されているか確認してください。詳しくは拡張ボードのマニュアルおよびソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- 上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。



プリンタの不具合

現象 印刷できない。

- 確認と対処**
- プリンタの電源が入っているか、印刷するための準備が整っているかを確認してください。
 - プリンタのコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。
 - Windows では、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

内蔵スピーカの不具合

現象 システムは正常に動作しているのに音が聞こえない。

- 確認と対処**
- 内蔵スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。音量を調節してください。
 p.51「音量の調節」
 - 外付けスピーカを接続する際に、内蔵スピーカの設定を行った場合、設定が消音になっている可能性があります。消音設定を解除してください。
 p.218「外部スピーカを接続する際の設定」
 - 音量を調節しても音が聞こえない場合は、内蔵スピーカの不良が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。処置を行ってもなおらない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。担当窓口までご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
No keyboard detected	キーボードが検出できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。
CPU temperature too high	CPUが高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。担当窓口までご連絡ください。
CPU voltage out of range	CPUの電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。担当窓口までご連絡ください。



付 録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化、仕様などについて説明します。

お手入れ

▶ 本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れは、中性洗剤を滴らない程度に染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

▶ マウスのお手入れ

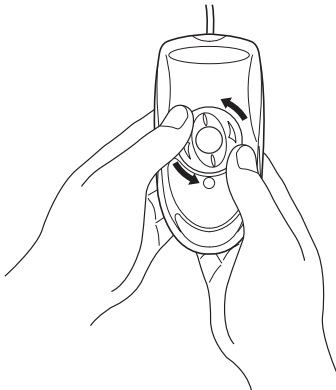
マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたら、p.205をご覧ください、クリーニングを行ってください。



- 小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。
- マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングは、本機の電源を切ったあと、マウスケーブルを本機背面から取り外した状態で行います。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

- 1 **マウス底面のボールフレームを外します。**
ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。

- 2 **マウスボールを取り出します。**
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。
- 3 **マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。**
 - マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
 - クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 **マウスボールをマウス底面の穴に入れます。**
- 5 **ボールフレームをもとどおりに取り付けます。**
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

HDD領域の作成

HDD領域を分割した際、未割り当てとなっている領域は、HDD領域を作成することで使用できるようになります。購入時のHDDはあらかじめHDD領域が作成されていますので、HDD領域の作成は必要ありません。

次のような場合にHDD領域の作成が必要です。

- Windowsの再インストール中にHDDのHDD領域を変更した場合

Windowsがインストールされていない領域は未割り当ての領域になります。HDD領域を作成すると、HDDのすべての領域が使用できるようになります。

▶ HDD領域の概要

HDDの未割り当ての領域には、HDD領域(パーティション)を作成します。パーティションを作成すると、そのパーティションの領域は、新しいドライブとしてWindowsに認識されます。

作成できるパーティションは、次のとおりです。

- プライマリパーティション

プライマリパーティションは1つのドライブとしてWindowsに認識されます。

- 拡張パーティション

拡張パーティションには論理ドライブを作成する必要があります。論理ドライブは、複数作成でき、1つ1つがドライブとしてWindowsに認識されます。

1つのHDDには、これらのパーティションを最大4つまで作成できます。そのうち、拡張パーティションは、1つのHDDに対して1つのみ作成できます。プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせて作成すると、1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

▶ HDD領域の作成手順

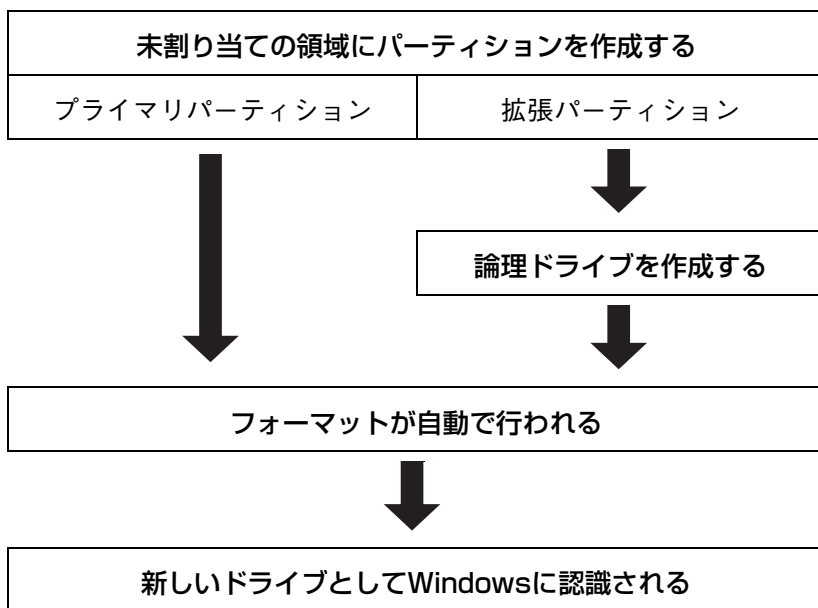
HDD領域(パーティション)の作成は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。



Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)のHDD領域を変更する場合「ディスクの管理」では、「Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)」のHDD領域は変更できません。HDD領域を変更したい場合は、Windowsを再インストールする必要があります。

HDD領域の作成の流れ

HDD領域の作成の流れは次のとおりです。



HDD領域の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。

Windows 2000の場合は、[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。

- 2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。


Windows 2000の場合、画面左下の「ディスクの管理」をクリックして、「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」画面が表示された場合は、[キャンセル]をクリックすると、画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。



< Windows XPの場合>

- 3 パーティションを設定したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション(Windows 2000 では「パーティションの作成」)」をクリックします。

- 4 「新しいパーティションウィザード(Windows 2000 では「パーティションの作成ウィザード」)」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

- 5 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、パーティションの種類を選択して[次へ]をクリックします。
- 6 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ (Windows 2000の場合は、「使用するディスク領域」)」に任意の値を入力して[次へ]をクリックします。
複数のパーティションを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。
手順5で「拡張パーティション」を選択した場合は手順7へ、手順5で「プライマリパーティション」を選択した場合は手順8へ進みます。
- 7 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了]をクリックします。続いて拡張パーティション内に論理ドライブを作成します。
 p.210「論理ドライブの作成」
- 8 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「ドライブ文字の割り当て:」に任意のドライブレターを選択して、[次へ]をクリックします。
「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります(ここで設定されたドライブは、5.25型ドライブよりあとのドライブレターとなります)。
- 9 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ]をクリックします。
表示されている設定値を変更する必要はありません。
- 10 「新しいパーティションウィザードの完了(Windows 2000の場合は、「パーティションの作成ウィザード」)」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 11 [完了]をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。フォーマットが終了するとHDD領域の作成は終了です。
複数のパーティションを作成する場合は、手順3～11の作業を繰り返します。

論理ドライブの作成

拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。拡張パーティションの「空き領域」に論理ドライブを作成する手順は、次のとおりです。

- 1 「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ(Windows 2000では「論理ドライブの作成」)」をクリックします。
- 2 「新しいパーティションウィザード(Windows 2000では「パーティションの作成ウィザード」)」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 3 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ]をクリックします。
- 4 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ(Windows 2000の場合は、「使用するディスク領域」)」に任意の値を入力して[次へ]をクリックします。
複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。
- 5 「ドライブ文字またはバスの割り当て」と表示されたら、「ドライブ文字の割り当て:」に任意のドライブレターを選択して、[次へ]をクリックします。
「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。
- 6 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ]をクリックします。
表示されている設定値を変更する必要はありません。
- 7 「新しいパーティションウィザードの完了(Windows 2000の場合は、パーティションの作成ウィザード)」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 8 [完了]をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。フォーマットが終了すると論理ドライブの作成は終了です。
複数の論理ドライブを作成する場合は、手順1～8の作業を繰り返します。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032(または同等品)



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。




- リチウム電池の交換を行うと、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
- 本機の電源を切っていても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

- 1 **本機の電源を切り、本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。**


作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。

- 2 **本体カバーを取り外します。**

 p.122「取り外し」

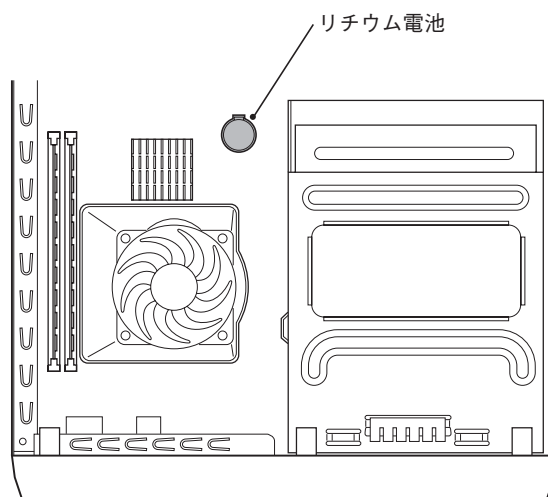
- 3 **本体を横置きにします。**

- 4 **リンクバーを取り外します。**

 p.126「拡張ボードの取り外し・手順5」

- 5 **リチウム電池の位置を確認します。**

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。

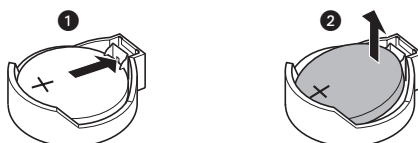


本体前面側

6

リチウム電池を抜きます。

- ① 電池ホルダの留め金を押します(電池ホルダの形状は、機種により異なる場合があります)。
- ② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。

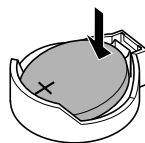


7

新しいリチウム電池を取り付けます。


刻印面(+側)が上側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。

正しく取り付けられると、「カチッ」と音が鳴ります。




8

リンクバーを取り付けます。

 p.128「拡張ボードの取り付け・取り外し 手順9」

9

本体カバーを取り付けます。

 p.124「取り付け」

10

コンピュータを使用できるように、本機背面のケーブル類をもとどおりに接続します。


11

コンピュータの電源を入れます。

12

ロゴ画面表示後、黒い画面の下部に「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、**[F1]**を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.140「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 13 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。
 p.142 「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」
- 14 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 15 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。



- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。






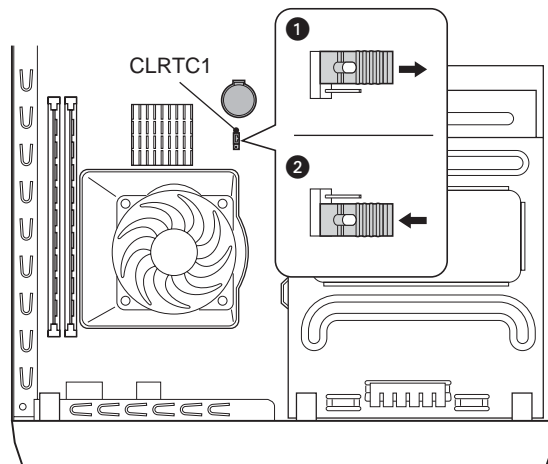
- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.156「BIOSの設定値」







- 本機の電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切り、本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体カバーを取り外します。
 p.122「取り外し」
- 3 本体を横置きにします。
- 4 リンクバーを取り外します。
 p.126「拡張ボードの取り付け・取り外し 手順5」
- 5 リチウム電池を取り外します。
 p.212～p.213「リチウム電池の交換・手順5～手順6」
- 6 メインボード上のジャンプスイッチCLRTC1を次のように変更します。
ジャンプスイッチを抜き差しする際は、メインボードに傷を付けないように注意してください。
 - ① 本体前面側から見て奥の2本のピンにジャンパクリップが差し込まれています。このジャンパクリップを抜き取ります。
 - ② ジャンパクリップを本体前面側から見て手前の2本のピンに差し込みます。



本体前面側

- 7 そのまま5秒間以上、放置します。
- 8 ジャンプスイッチCLRTC1の設定をもとに戻します。
ジャンパクリップを本体前面側から見て奥の2本のピンに差し込み直します。
- 9 リチウム電池を取り付けます。
 p.213「リチウム電池の交換・手順7」
- 10 リンクバーを取り付けます。
 p.128「拡張ボードの取り付け・取り外し 手順9」
- 11 本体カバーを取り付けます。
 p.124「取り付け」
- 12 コンピュータを使用できるように、本機背面のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 13 コンピュータの電源を入れます。
- 14 ログ画面表示後、黒い画面の下部に「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.140「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 15 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。
 p.142「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」
- 16 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 17 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

外部スピーカを接続する際の設定

ライン出力コネクタに外部スピーカなどを接続する場合、内蔵モノラルスピーカを消音にすることができます。設定は、必要に応じて行ってください。



- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。




- 内蔵モノラルスピーカの設定は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機の電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

内蔵モノラルスピーカを消音にする手順は、次のとおりです。

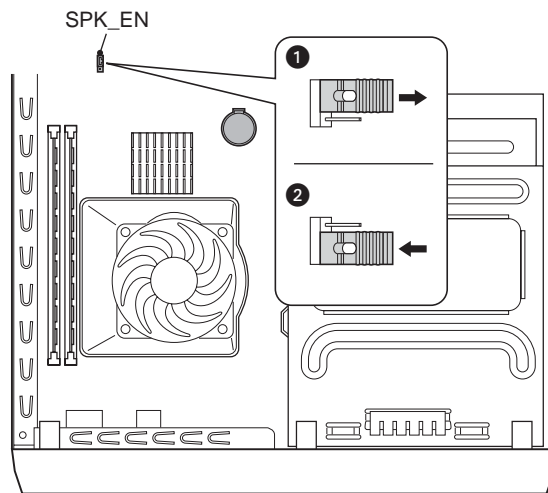
1 本機の電源を切り、本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。

2 本体カバーを取り外します。
 p.122「取り外し」


3 本体を横置きにします。

4 メインボード上のジャンプスイッチSPK_ENを次のように変更します。
ジャンパクリップを抜き差しする際は、メインボードに傷を付けないように注意してください。

- ① 本体前面側から見て奥の2本のピンにジャンパクリップが差し込まれています。このジャンパクリップを抜き取ります。
- ② ジャンパクリップを本体前面側から見て手前の2本のピンに差し込みます。



本体前面側

5 本体カバーを取り付けます。
 p.124「取り付け」

6 コンピュータを使用できるように、本機背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

7 コンピュータの電源を入れます。

機能仕様一覧

CPU		インテルPentium4プロセッサまたはインテルCeleronプロセッサ
メモリ	ROM	AMI BIOS
	メインメモリ	最大2048MB(2GB)まで搭載可能
ビデオ	コントローラ	インテル865GV Integrated
	ビデオメモリ	メインメモリの一部の容量を使用 メインメモリ(128MB:最大32MB、メインメモリ256MB以上:最大64MB)
サウンドコントローラ		Intel865GVチップセット内蔵AC'97
スピーカ		モノラルスピーカを内蔵
キーボード		日本語対応109キーボード
マウス		ホイール付きPS/2マウス
記憶装置	内蔵FDD(オプション)	オプション選択された場合、3.5型FDDを1基内蔵
	内蔵HDD	IDE HDDを1基内蔵Ultra ATA/100対応
	5.25型ドライブ	購入時の仕様により異なります。
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠D-SUB 9ピン)
	VGAインタフェース	1(アナログRGB ミニD-SUB 15ピン)
	DVI-Dインタフェース	1(デジタルモニタDVI-D 24ピン)
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換ミニDIN 6ピン)
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換ミニDIN 6ピン)
	ネットワークインタフェース	1(RJ-45 10Base-T および100Base-TX 自動認識(WOL対応))
	サウンドインタフェース	本体前面 マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1
		本体背面 ライン入力コネクタ×1、ライン出力コネクタ×1
	USB インタフェース	本体前面 2(USB2.0対応)
		本体背面 2(USB2.0対応)
ドライブ ベイ	3.5 型ドライブベイ	1
	5.25 型ドライブベイ	1
	HDD ドライブベイ	1
外部拡張スロット		2(PCI対応スロット) ボード長:178mm、ボード幅:108mmまで装着可能
カレンダー時計内蔵		内蔵電池によりバックアップ
電源容量		248WDC
入力電圧		AC100V±10% 50/60 Hz
温湿度条件		温度:10～35℃
		湿度:20～80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法(縦置き時)		本体:約99(幅)×383(奥行)×310(高さ)mm(突起部、縦置きスタンド除く)
質量		本体:約8.0Kg(最小構成時(FDDなし)・本体のみ)
消費電力	定格消費電力	382WAC
	待機時消費電力	4WAC

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

● ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

● ADSL

Asymmetric Digital Subscriber Line(非対称デジタル加入者線)の略で、一般の電話回線を利用した高速通信サービスです。電話中でもインターネット接続ができ、高速通信が可能です。月々の料金は定額で利用することができます。ブロードバンドの接続方法のひとつです。

● AGP

Advanced Graphics Portの略。CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

● BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

類義語 CMOS RAM

● BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOSRAMに保存されます。

● Boot(ブート)

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

● CPU

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

● DDR SDRAM

「DDR」とは、「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍速くなります。

● DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のスロットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

● DMA転送

Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

● DMAチャネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャネルを使用するように設定する必要があります。

● DRAM(ディーラム)

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

● DVI

デジタルディスプレイを接続するためのインターフェイスのことです。

● FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます。

● FTTH(光ファイバー)

Fiber To The Home(家庭向け光ファイバー)の略で、光ファイバーを利用した超高速通信サービスです。電話中でもインターネット接続ができ、高速通信が可能なので、月々の料金は定額で利用することができます。ブロードバンドの接続方法のひとつです。

● HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができ、それぞれドライブとして利用できます。

● I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイス間でデータをやりとりするポートです。

● IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。

● IEEE1394

コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のこと。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

● IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

● IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

● ISDN

NTTが提供する高速デジタル回線のこと。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータを送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、一本で二回線分を使用することができます。

● LAN

Local Area Networkの略で、会社内や学校内など比較的限られたエリア内のコンピュータ同士をつなげた状態のことです。

● MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

● NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

● OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアで、WindowsやMS-DOSなどのことです。

● PCIバス

拡張バス的一种。一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されます。

● RAM

Random Access Memoryの略。RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● ROM

Read Only Memoryの略。読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● RS232C

シリアルインターフェイスとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやりとりするときに用いられています。

● SCSI

Small Computer System Interfaceの略で、コンピュータと周辺機器のデータの入出力方法(インターフェイス)を定めた規格の一種です。良く使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

● SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

● S/P DIF

Sony Philips Digital InterFaceの略。デジタル信号に変換された音声データをやりとりするためのインタフェースのことです。

● SXGA

Super eXtended Graphics Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、1280×1024ピクセルの解像度のこと。「Super-XGA」と表記されることもあります。

● TA(ターミナルアダプタ)

コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

● Ultra ATA /100

IDEインターフェイス上において100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

● URL(ユーアールエル)

Uniform Resource Locatorの略。インターネット上の情報資源(文書や画像など)の場所を示す記述方式で、インターネットのアドレスのことです。

● USB

Universal Serial Busの略。周辺機器をシリアル通信で接続するための規格。USB対応機器を接続します。USB2.0はUSB1.1と完全互換ですが、USB2.0の動作速度で動作するには、コンピュータ、周辺機器の両方がUSB2.0に対応している必要があります。

● VGA

Video Graphics Arrayの略。640×480ピクセル、16色を表示するDOS/V機の基本的なビデオ表示機能です。

Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

● WXGA

Wide eXtend Graphic Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、ワイドディスプレイ対応の解像度のことを言います。

● XGA

eXtend Graphic Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、1024×768ピクセルの解像度のこと。解像度が高いほど、画像に多くの情報を表示することができます。

● アカウント

ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

● アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

● アクセスポイント

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

● アクセスランプ

HDDやFDD、5.25型ドライブにアクセスしていることを示すランプのことです。

● アップロード

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

● アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

● アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのようにユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

● インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

● インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

● オフライン

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

● オンライン

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

● 解像度

画面表示の細かさのことです。

● 外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語 キャッシュRAM、L2 キャッシュ、2次キャッシュ

● 拡張スロット

拡張ボードを装着するためのスロットです。拡張ボードには、AGP用拡張ボード、ISAバス用拡張ボード、PCIバス用拡張ボードなどがあります。

● カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

● 起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

類義語 立ち上げる。

● **キャッシュ処理、キャッシュ機能**

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

● **コマンド**

コンピュータに与える命令です。命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

● **サーバ**

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● **システム**

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

● **ジャンパスイッチ**

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンパスイッチの設定はジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

● **シリアルポート**

シリアルインタフェース規格にのっとった周辺機器を接続するためのポート。外付けモデムやT A(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするとき用いられています。

● **ダイヤルアップ接続**

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するために、プロバイダに接続することを言います。

● **ダウンロード**

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

● **ディザリング**

複数の画素を組み合わせ、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

● **ディスプレイ**

表示装置のことです。モニタともいいます。

類義語 CRTディスプレイ、液晶ディスプレイ

● **ドット**

表示画面のひとつひとつの点の単位です。ピクセルとも言います。

● **ドライブレター**

FDD、HDDや5.25型ドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」が5.25型ドライブに割り当てられます。

● 内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

● ナローバンド

電話回線や携帯電話・PHSからプロバイダのAP(アクセスポイント)へダイヤルアップ接続してインターネットへ接続する環境のことです。

● ハイパー・スレッディングテクノロジー

ハイパー・スレッディングテクノロジーとは、Windowsに1つのCPUを仮想的に2つにみせることで、異なる2つの命令を快適に処理する機能のことです。

● バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

● パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

● パラレルポート

パラレルインターフェース規格にのっとった周辺機器を接続するためのポート。主にプリンタを接続します。

● ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● ピクセル

表示画面のひとつひとつの点の単位です。ドットとも言います。

● ビデオメモリ

別名グラフィックスメモリ。ディスプレイに表示される内容を保持しているメモリのこと。画面の最大解像度や最大同時発色数はビデオメモリの容量に左右されます。メインメモリの一部をビデオメモリとして使用する機種もあります。

● ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

● ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

● 物理ドライブ

HDD1台や、5.25型ドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● ブラウザ

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

● プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)こと。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

● ブロードバンド

FTTH(光ファイバー)やADSLおよびCATVでの接続方法でインターネットに接続する環境のことです。

● プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

● プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のこと。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● ボリュームラベル

HDDやFDにつけた名称のことです。

● 無線LAN

LANケーブルを使わずに、電波などの無線で通信を行うLANのことです。

● メッセージ

コンピュータが、入力されたコマンドに対して出力する回答のこと。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのこと。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

● メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語のことです。

類義語 システム資源

● ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

類義語 ログイン／ログアウト

● 論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

● リフレッシュレート

ディスプレイの表示において、1秒間に何回画面を更新するか の値です。リフレッシュレート 60Hz といえば、1秒間に 60 回画面を更新することを意味します。リフレッシュレートが低いと画面のちらつきを感じますが、リフレッシュレートをあげることで、画面のちらつきを感じなくさせることができます。

索引

数字

3.5型2DD	62, 66
3.5型2HD	62, 66
3.5型FDD	29
5.25型ドライブ	27, 71
～アクセスランプ	27
～イジェクトボタン	27
～イジェクトホール	27
～の不具合	192
5.25型ドライブマニュアルのダウンロード	175

A

Administrator	41
Adobe Reader	25
～のインストール	173
ADSL	92

B

B's Recorder GOLD	80
BIOS	138
BIOS Setupユーティリティ	139

C

Caps Lock	60
CATV	92
CDメディア	76
～の読み込み・再生	77
～への書き込み	78
CMOS RAMの初期化	215
COAラベル	23

D

DirectX9b	25
DVDメディア	76
～の読み込み・再生	77

～への書き込み	78
---------------	----

DVI-Dコネクタ	28, 35
-----------------	--------

F

FDD	29, 62
～アクセスランプ	29
～イジェクトボタン	29
～の不具合	189
FDのフォーマット	64
FTTH(光ファイバー)	92

H

HDD	70
～アクセスランプ	27
～の不具合	190
HDD領域の作成	
論理ドライブの作成	210
HDD領域の変更	166, 171

I

Internet Explorer	94
ISDN	91

L

LANコネクタ	28
---------------	----

M

MS-IME	59
--------------	----

N

Norton AntiVirus2004	25
～のインストール	48, 174
NTFSファイルシステム	70, 164
Num Lock	60

O

Outlook Express.....94

P

PHS.....91

S

SBSI

～のインストール.....176

～の実行.....52

Scroll Lock.....60

U

USB.....115

～2.0コネクタ.....27, 28

～機器の接続と取り外し.....116

USB FDD.....29, 66

～USBコネクタ.....29

～アクセスランプ.....29

～イジェクトボタン.....29

～の不具合.....189

V

VGAコネクタ.....28, 35

W

Wakeup On LAN.....113

Win DVD.....77

Windows 2000のインストール.....171

Windows 2000のセットアップ.....46

Windows Update.....50, 161

Windows XPのインストール.....166

Windows XPのセットアップ.....44

Windowsキー.....60

Windowsのセットアップ.....41, 44

あ

アイコン.....14, 15

アウトLOOKエクスプレス.....94

アドレス帳のバックアップ.....103

アドレス帳を作る.....102

アナログ回線.....91

アプリケーションキー.....60

アプリケーションソフトの不具合.....196

い

インストール時の不具合.....197

インターネットエクスプローラ.....94

う

ウイルス.....116

お

お気に入り.....97

～のバックアップ.....98

お手入れ.....204

お問い合わせ情報ラベル.....23

音声の再生・録音.....90

か

解像度の変更.....84

外部オーディオ機器.....89

拡張スロット.....28, 120, 125

拡張ボード.....125

～の増設に関する不具合.....199

～の取り付け・取り外し.....126

き

キーボード.....58

～コネクタ.....28

～の接続.....37

～の不具合	185
機能キー	58
機能仕様一覧	220
休止状態	107
～を有効にする	109
強制的なメディアの取り出し	75
記録メディア	17

く

クリック	42, 61
------------	--------

け

警告メッセージ	201
携帯電話	91

こ

コントロールパネルの表示 (Windows XPのみ)	52
コンピュータウイルス	116
コンピュータ本体の不具合	180
コンピュータ名	41

さ

再インストール	160
サウンド機能	88

し

シェルゲート	80
システムの拡張	119
周辺機器の増設に関する不具合	199
省電力機能	106
復帰方法	112
～に関する不具合	184
～の実行方法	110
～を無効にする	112
使用・保管時の注意	16

シリアルコネクタ	28, 115
----------------	---------

す

数値キー	58
スクロール	61
スタンバイ	107, 108
スロットカバー	127

せ

セーフモード	188
セキュリティロックスロット	28

た

タスクバー	14, 15
縦置きスタンド	32
タブ	14, 15
ダブルクリック	61

て

ディスクの管理	207, 208
ディスプレイ	81
DVI-D コネクタ	28, 35
VGA コネクタ	28, 35
～の接続	35
～の不具合	187
デスクトップ	14, 15
デバイスドライバのインストール	172
電源コードの接続	39
電源コネクタ	28
電源スイッチ	27
電源の入れ方	43
電源の切り方	53
電源ランプ	27
電源ランプの表示	107
添付されているソフトウェア	25

と

ドライバCD.....	25, 162
ドラッグアンドドロップ	61

な

内蔵スピーカの不具合	200
内蔵モノラルスピーカ	88
ナローバンド	91

に

日本語入力システム	59
入力キー	58

ね

ネットワーク	113
～への接続	38
～を無効にする	114

は

ハードディスクドライブ(HDD)	70
～アクセスランプ	27
～の不具合	190
ハイパー・スレッディング機能	117
パラレルコネクタ	28, 115

ひ

表示色の変更	84
--------------	----

ふ

プリンタの不具合	200
ブロードバンド	91, 92
フロッピーディスクドライブ(FDD)	62

へ

ヘッドフォン出力コネクタ	27, 89
--------------------	--------

ほ

ボタン	14, 15
本機のお手入れ	204
本体カバーの取り外し・取り付け	122

ま

マイク入力コネクタ	27, 89
マウス	19, 61
～コネクタ	28
～のお手入れ	204
～の接続	38
～の使い方	42
～の不具合	186
マウスポインタ	42

め

メーカー情報	165
メールアドレスのバックアップ	104
メールを受信する	102
メールを送信する	101
メディア	
～への書き込み	78
メモリ	130
～スロット	130
～の仕様	130
～の取り付け・取り外し	132
～の不具合	197

ら

ライザーボード	127
ライティングソフト	79
ライトプロテクト(書き込み禁止)	65
ライン出力コネクタ	28, 90
ライン入力コネクタ	28, 90

り

リカバリ CD	25, 162
リチウム電池の交換	211
リモートブート	114
領域の作成	206
リンクバー	126

Memo

Memo

Memo

使用限定について

本製品は、OA 機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24 時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

PCリサイクルマークについて



PCリサイクルマーク付きの弊社製品は、弊社が無償で回収、再資源化いたします。

詳細は下記ホームページをご参照ください。

<http://www.epson.co.jp/ecology/index.html>

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました但、万一誤り・お気付きの点 ございましたら、ご連絡 くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows は 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

インテル、Pentium、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Adobe ReaderおよびAdobeロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標 (地域によっては登録商標)です。

IBM、PS/2は International Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



エプソン販売 株式会社



大豆油インキを使用しています。

r100

このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。



C77297001 04.06-70.30(SO)